

## 5. 『伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集』の作成と公開

### 5. 1. 『伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集』とは

『伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集—宮城県沿岸 15 市町—』は、被災地の方言会話資料である。宮城県沿岸部の 15 市町を対象に、東北大学方言研究センターが作成した。被災地の方言会話を記録し、会話資料を作ることの必要性は、すでに東北大学方言研究センター（2011・2012）で述べておいた。それを実地に移したのが本資料である。

この会話資料の構成を説明しよう。

#### 解 説

この会話資料の基本的な考え方や収録調査の方法、資料作成の方法、Web 方言会話集の試みなどについて解説した。

#### 各地点の会話

地点ごとに次の内容を掲載した。

**地点概要**：各市町の概略や収録地点の様子について簡単にまとめた。

**自由会話本文**：自由会話の本文を掲載した。

**場面設定会話本文**：場面設定会話の本文を掲載した。

**方言概観**：各市町の方言的特徴について簡単に解説した。

### 5. 2. この会話集の考え方

#### 5. 2. 1. どんな資料を作るべきか —被災地の方言会話として

私たちが作ろうとしたのは方言会話資料である。ただ、それが今回の大震災の被災地のものであることを考えたとき、従来の会話資料を真似るだけでよいのか、という疑問が浮上した。つまり、被災地の会話資料としてどのようなものを作るべきなのか、あるいは、いかなる意義をもった資料とすべきなのか、という問題である。いわば今回の取り組みのコンセプトを問うてみることで、作業に入る前に、この会話資料の目指すところ明確にしたいと考えた。

この問いに対して、私たちになりに検討した結果、次のような答えを見出した。

**被災地方言の記録**：まず、この資料には、方言の記録としての意義をもたせたいと考えた。各地の伝統方言は、今や共通語化の影響で著しく衰退しつつある。ましてや、コミュニティの崩壊が起こった被災地では、方言の話し手である地域住民が減少することで、そうした動きに拍車がかかる恐れがある。そうした被災地の方言を記録し、後世に伝えることが必要だと考えた。いわゆる危機言語としての方言の記録の必要性は叫ばれているが、今回の資料は、さらに災害に伴う危機言語の記録としての特色をもつものにすべきである。

**被災者への励まし：**次に、この資料は、被災者を励ますものでもありたいと考えた。小林隆（2004）などで指摘したとおり、方言は現在、言葉そのものとしての性格よりも、心情的な役割を強く担うようになってきている。方言は“ふるさと”の象徴であり、人々は方言を通して地域住民としてのアイデンティティを確認する。また、方言はそこに暮らす人々の心理的な距離を縮め、仲間意識・一体感を醸成する。実際、東北大学方言研究センター（2012）で紹介したとおり、方言スローガンや方言を用いた支援活動は被災者の心の支えとなっている。この談話資料は、そうした“つなぐ言葉”としての方言、あるいは“絆”としての方言の機能を活かしたものにしていきたい。

**支援者の方言理解：**最後に、この資料が、被災地の支援にあたる人たちにも役立ててもらえるものであってほしいと考えた。私たちは東北大学方言研究センター（2012）で述べたとおり、支援者たちが被災地の東北方言がわからずに困ったというや体験を把握している。そのような問題を解決する一助として、支援者のための簡単な方言パンフレットを作成したが、利用者からは、地元の人たちの生の会話を聞くことができないものかという感想が聞かれた。また、現地の文化を理解する一環として、被災地の方言についても知っておきたいという積極的な意見もあった。そうした支援者の要望にも何らかの形で寄与できる会話資料が望ましい。

以上、被災地の方言会話資料として、私たちは次のような性格を備えたものを作ることにした。

- ① 被災地の方言を記録し後世に「伝える」ことを目指す方言会話資料
- ② 困難の中にある被災者を精神的に「励ます」ための方言会話資料
- ③ 支援者が被災地の方言を「学ぶ」ことに役立てる方言会話資料

そして、こうした目的をタイトルとして冠したのが、この方言会話資料、『伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集』である。

## 5. 2. 2. どのような工夫をしたか —方法論上の特色

上記の①②③はこの方言会話のいわばコンセプトである。それでは、そうしたコンセプトを実現するために、具体的にどのような工夫を行ったのか。次にその点について述べることにする。

**震災の体験を会話のテーマに：**①の方言の記録という目的については、会話資料の作成自体がその意義を帯びるものだと言える。しかし、それでは従来の会話資料と変わるところがない。被災地の会話資料としての有用性を求めるならば、そのテーマ設定に工夫を凝らすのがひとつの方法であると思われる。被災地においては、震災の体験を風化させないことがひとつの課題となっている。それならば、方言を後世に伝えると同時に、震災の体験も語り継ぐことができるような資料にすることが望ましい。白岩広行（2012）でもそう

した資料の必要性が強調されている。そこで、この会話資料においては、「震災の体験」を主要なテーマとして設定した。もちろん、震災に関わる話題は、被災者の精神的な負担となる恐れもあり、慎重に扱う必要がある。その点に配慮し、ほかに「地域の伝統文化」「方言への思い入れ」というテーマも選択肢に加えた。「震災の体験」は震災関連科学の情報源としても役立つはずであり、「地域の伝統文化」は民俗学をはじめとした関連分野にとっても重要な記録となるにちがいない。

**言語行動の種類に基づく場面設定会話：**①の方針に関して、この資料のもうひとつの特徴は、自由会話のほかに場面設定会話を収録する点である。特にここでは、目的別の言語行動の種類に基づいて場面を設定し、話者2人にロールプレイ会話を行ってもらったことにした。これは話者に一定の負担を強いることにはなるが、その地域の日常生活において起こり得るさまざまな会話場面を収録しようというものである。こうした言語行動の枠組みに従った収録方式は自由会話の採取に比べ、現地の言語生活を全体的、かつ、効率的に把握する点で優れている。今後の会話資料作成のひとつの方向性を示すものとして、この方式はさらに検討されてよい。

また、このような言語行動を軸にした場面設定会話の収録は、この会話資料が③の支援者の方言学習にも役立つことを意図して行ったものでもある。被災地の人々の会話データは、外部からの支援者にとって、その地域の言葉遣いの様子を知る重要な手がかりとなる。実際に触れる現地の人々の言語行動が網羅的に理解できるようになれば、それは支援者にとって意味のあることにちがいない。その意味では、支援者の予習にも対応できるように、挨拶、依頼・受託・断り、感謝・謝罪といった言語行動の種類に基づいた場面を設定し、効率よく現地の会話に親しんでもらうこともひとつの方法であると考えられる。

**詳細な収録地点の設定：**これは①②③のいずれのコンセプトにも関わるものである。従来の方言会話資料の収録地点は各県1・2地点の数であり、かならずしも多いとは言えなかった。①の方言の記録という観点から見たとき、被災地を細かくカバーする地点規模が必要と思われた。また、②の被災者への激励という視点から見た場合、自分が暮らす地域の会話が採られていないというのはマイナス要素であり、被災者に残念な思いをさせてしまう。この点でも、ある程度の地点密度で収録を行うことが必要になる。さらに、③の支援者の方言理解への補助というコンセプトからも、各地に入り込む支援者のために、細かな収録地点の設定が望ましい。こうした収録地点の網羅性を求める立場から、この会話資料では、宮城県沿岸部の15の市町をすべて対象とすることにした。もちろん、同じ市町の中にもいくつかの地域割りは存在し方言差も見られるが、地域住民の帰属意識の上からも、また、方言学的な見地からも、市町単位で収録地点を設定するのが無難であり、妥当ではないかと考えた。

**インターネットでの配信：**この会話資料は、いわゆる紙媒体の報告書としてだけでなく、インターネットでも配信を行うことにした。むしろ、インターネットでの配信はこの報告書に先行させて進めてきた。これは、より多くの人たちに、この資料の存在を知り、利用

してほしかったからである。②の点に関して言えば、全国に散らばる避難者にふるさとの方言を届けるといふ役割がこの資料には期待される。③の点について言えば、日本各地から集まる支援者に、被災地への出発前にこの資料で現地の方言について知ってもらうことができればよい。そうしたことを少しでも可能にするためには、インターネットを使った配信が効果的であると考えた。

なお、この点については、「5.We b 方言会話集」であらためて取り上げたい。

以上、この方言会話資料は、次のような点で方法論上の特色を出そうと試みた。

- a. 会話のテーマとして「震災の体験」等を設定することにより、現地の人々の震災体験を語り継ぎつつ、方言を後世に伝えることができるようにする。
- b. 目的別言語行動の枠組みに従った会話の収録方式をとることで、現地の言語生活を全体的、かつ、効率的に記録する。また、支援者にも、被災地の方言について手軽に学習してもらえるようにする。
- c. 収録地点の網羅性を求める立場から、宮城県沿岸部の 15 市町をすべて対象とすることにす。
- d. インターネットでの公開を行うことで、全国に避難した被災者や日本各地から集まる支援者に、効果的にこの資料を利用してもらう。

### 5. 3. 収録調査の方法

#### 5. 3. 1. 収録地点と話者

会話の収録は、宮城県の中でも、特に津波による被害の大きかった沿岸部 15 市町を対象として行った。すなわち、次の市町である。

気仙沼市、本吉郡南三陸町、石巻市、牡鹿郡女川町、東松島市、宮城郡松島町、宮城郡利府町、塩竈市、宮城郡七ヶ浜町、多賀城市、仙台市（若林区）、名取市、岩沼市、亶理郡亶理町、亶理郡山元町

具体的な収録地点は、その市町の範囲であればどこに設定してもよいことにした。実際には、津波の被害を受けた沿岸部の地点が収録地点として選ばれることもあれば、そうでない内陸部の地点が選定されることもあった。被災地方言の記録という点を非常に狭く考えれば、津波による浸水地域を収録地点にすべきであるが、現実問題としてそうした地域の人々は生活上、非常に困難な状況に置かれていることが多く、調査の負担をかけることは控えるべきだとも考えた。逆に、たとえ内陸部の地点であっても、今回の震災による方言への影響を免れることはできず、調査の必要性は沿岸部に劣らず認められるものと判断した。また、かえって被害の少ない地域の方が、話者から落ち着いてお話を聞くことができるのではないかと考えた。

もっとも、実際には、仮設住宅にお住まいの方々に話者になっていただくという場合もあった。中には、家を失ったり身内や知り合いを亡くされたりした話者の方々もいらっしやうったが、そうした状況の中でも、私たちの調査の趣旨を理解し、会話の収録に協力してくださった。

話者となったのは原則として各地域の生え抜きで、70歳前後の男女各1名ずつの方々である。その2人にペアになってもらい、会話をしていただいた。ただし、現実には、それより高齢の、あるいは若い話者が選ばれることもあった。性別も女性同士の会話というケースも見られた。また、人数も地域によっては3、4名になる場合もあった。

なお、収録地点および話者についての情報は、各市町の会話資料の冒頭にやや詳しく記しておいたのでご覧いただきたい。

### 5. 3. 2. 調査者と協力機関、収録日時

この会話の収録調査は、東北大学方言研究センターの教員と学生たちが中心となって行った。指導的立場の教員・大学院生と経験の少ない学部生とがチームを組み、1チーム2市町を担当することにして現地に赴いた。具体的な収録担当者（文字化担当者でもある）は、各市町の会話資料の末尾に掲げてある。

収録に当たっては、話者の紹介を含めて次の協力機関・協力者のお世話になった。

気仙沼市教育委員会生涯学習課、南三陸町教育委員会生涯学習課、法音寺（石巻市）、松巖寺（石巻市）、グランド・グレイス・プロジェクト、女川町教育委員会生涯学習課、東松島市教育委員会生涯学習課、東松島市コミュニティセンター、松島町教育委員会生涯学習班、利府町教育委員会生涯学習課、塩竈市教育委員会生涯学習課、塩竈市社会福祉協議会地域福祉課、多賀城市教育委員会事務局文化財課、七ヶ浜国際村国際交流係、仙台市若林区区民部まちづくり推進課、仙台市七郷市民センター、名取市方言を語り残そう会、岩沼市教育委員会生涯学習課市史編纂室、亶理町教育委員会生涯学習課、山元町教育委員会生涯学習課

収録調査は、2012年7月から8月にかけて実施したほか、その後、再調査や補充調査のために2013年2月までの間、現地を訪れた。

### 5. 3. 3. 会話の形態

自由会話と場面設定会話の2種類の会話を収録した（そのねらいについてはすでに1.2に述べた）。

- ①**自由会話**：話者たちの自然な会話を1時間程度収録した。その際、「震災の体験」や「地域の伝統文化」「方言に対する思い入れ」など、大まかな話題をこちらから提示し、それについて自由に会話してもらった。そのうち、10分前後の会話を公開した。

②**場面設定会話**：言語行動の目的別に特定の場面を設定し、話者にロールプレイ会話を  
行ってもらった。具体的には次の15場面である。

**【場面設定会話の指定場面】**

<あいさつ>

- (1) 朝、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。
- (2) 昼、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。
- (3) 夜、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

<労い>

- (4) Aが仕事に精を出すBと会い、Bの労をねぎらう際にどのようなやりとりを行うか。

<勧め>

- (5) Aが、仕事をしているBに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり。

<訪問時の声掛け>

- (6) 昼間、AがB宅を訪れるときにどのように声をかけるか。また、返事をするか。

<借用の依頼と受託>

- (7) AがBにスコップを借りるときのやりとり。(Bが貸す場合。)

<お礼>

- (8) Aが借りたスコップをBに返しに行ったときのやりとり。

<破損の謝罪・許容・不満>

- (9) AがBに借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとり。
  - (9-1) Bが構わないという場合。
  - (9-2) Bが破損に対して不満を述べる場合。

<誘いと断り>

- (10) AがBを近くの物産市に誘う際のやりとり。(Bが断る場合。断る理由は、家族と外出の先約。)

<お見舞い>

- (11) 体調を崩しているBに、Aが体の調子を尋ねる際のやりとり。
  - (11-1) Bの調子がいい場合。
  - (11-2) Bの調子が悪い場合。

<申し出>

- (12) 体の調子が悪く、家の片付けもできないというBに、Aが「(私が)片付けてやろう」というときのやりとり。

<禁止>

- (13) 片付けの最中に、大事な写真をAが間違っ  
て捨てようとしているときに、Bがそれを制止してどのようにいうか。

## 5. 4. 資料作成の方法

### 5. 4. 1. 文字化の方法

文字化はまず各地点の収録担当者たちが行い、その後、各地点の責任者が合同で検討会を開き、音声を聞きながら文字化資料を修正していった。最終的には編集・ホームページ担当者が各地点の責任者と打ち合わせながら文字化本文を確定した。

文字化の方式の参考にしたのは、国立国語研究所『日本のふるさとことば集成』と同じく『方言談話資料』である。前者の方式を基本に、一部、後者の方式を取り入れた。

その方式を以下に示す。

#### 1. 文字化の概要

文字化に当たっては、方言を文字化したものと、それを共通語訳したものを上下段に並べて表記した。方言は上段にカタカナで表記し、共通語訳は下段に漢字かなまじり表記で記してある。なお、基本的には文節で分かち書きをしてある。

方言音声 → 上段、表音的カタカナ表記 共通語訳 → 下段、漢字かなまじり表記
--

#### 2. 発話者の表示

##### ① 発話の単位

1人の話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発話を1発話とした。(発話権が交替するまで) あいづちは別に処理した。

##### ② 発話記号

話者、調査者など、談話の場にいる人物にA、B、C、D～のようにアルファベットで記号をつけてある。

##### ③ 発話番号

発話の通し番号を、話者記号の前に入れてある。

例：001A：～      012A：～      123A：～

#### 3. 固有名詞

個人が特定できるような固有名詞、話者名及び一般の人名についてはアルファベットに置き換えてある。

話者 → 「A」「B」などの話者記号を使用

第三者 → 「X」を使用。複数出てくる場合は半角数字を後ろに付けて区別した。

例：X1 チャン、X2 サント～

人名以外 → 「Y」を使用。複数出てくる場合は半角数字を後ろにつけて区別した。

なお、歴史上の人物、有名人、話者の個人情報に関係しない会社名その他の固有名詞、地名についてはそのまま記載した。

#### 4. 文字表記の基準

##### 【方言文字化部分】

表音的カタカナ表記を用いた。音声の方言的特色（キの口蓋化、母音の無声化など）は、特に書き分けることはしていない。

長音：「ー」 例：ソーナンダ（×ソウナンダ）

助詞：「は」→「ワ」 例：アレワ ナンダガ

「を」→「オ」 例：コレオ モッテゲ

「へ」→「エ」 例：ガッコーエ イグ

鼻濁音：半濁点を使用してある。

ガ行鼻濁音「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」

入り渡り鼻音は上付き文字を使用「ンダ」

中舌音：どちらかの音声の近いほうを採用した。

例：スに近いシ → 「シ」

シに近いス → 「ス」

「ア」と「エ」の中間の音については「エァ」「アエ」という表記も許容した。

例：「ネァ（ない）」「ナエ（ない）」

四つ仮名：「ジ」「ズ」に統一した。（「ヂ」「ヅ」は使用していない）

例：「アエズ（あいつ）」

##### 【共通語訳部分】

意訳はできるかぎり行わず、基本的に方言の直訳とした。

漢字かなまじり表記を用いてある。

助詞：ないと読みにくい場合のみ適宜補った。補ったものは[ ]でくくってある。

？：ないと疑問文と判断しにくい場合のみ適宜補った。

長音：感動詞などにおいては、基本的に長音記号「ー」を使用した。

#### 5. 記号の見方

##### 【方言文字化部分】

。（句点）：ポーズがあり、意味的に1つのまとまりを持つ文の最後につけた。

、（読点）：基本的に息をついた箇所またはポーズのある箇所に付してある。

読みやすさを重視して付した部分もある。

（ ）：あいづち。発話権が移っていない時に話をさえぎったり、口を挟んだりした箇所。



- 例：ソーヤッテ ムガシワネー (B ンダネー) ヤッテダンダー。  
 { } : 笑い声、咳払い、間などの非言語音。  
 例：{笑} {咳} {手を叩く音}
- ~~~~~ : 聞き取れない部分には波線を引いた。  
 例：オチャズケノ~~~~~  
 聞き取りが不十分な部分は、聞こえた音を記した箇所には波線を引いてある。  
 例：コエズカレデ
- \_\_\_\_\_ : 発話が重なっている部分には、普通の下線を引く。  
 あいづちは発話を ( ) に入れ、重なっている部分には下線を引いた。  
 例：モラッテクダサイ (A ソーダ) (B モラテー)
- ===== : 発話が重なり、かつ聞き取れない部分には、二重下線を引いた。  
 例：アイズ \_\_\_\_\_ (B ホンテ) オドゲデネーゴド  
 発話が重なって聞き取りが不十分な部分は該当箇所に二重下線を引いた。  
 例：アイズ キタナー (B ホンテ) オドゲデネーゴド
- [ ] : 注記。[ ] 内の数字は注記番号で、本文の後に注記をまとめてある。  
 同様の内容は同じ注記番号を使用した。  
 主に固有名詞や地域特有の言葉の意味や用法について、注記のページで解説してある。その他、特に注意しておきたい音声的特徴などにも使用したものもある。  
 例：ムガシワ サンザンサ [1] エッタゲンド

### 【共通語訳部分】

- 。(句点) : ポーズがあり、意味的に1つのまとまりを持つ文の最後につけた。
- 、(読点) : 基本的に息をついた箇所またはポーズのある箇所に付してある。  
 読みやすさを重視して付した部分もある。
- ? : 疑問文であることがわかりにくい箇所に適宜使用する。  
 例：チョー エギサ エッタナ。  
 今日 駅に 行ったの?
- ( ) : あいづち。発話権が移っていない時に話をさえぎったり、口を挟んだりした箇所。  
 例：ソーヤッテ ムガシワネー (B ンダネー) ヤッタンダー。  
 そうやって 昔はね (B そうだね) やったんだ。
- { } : 笑い声、咳払い、間などの非言語音。  
 例：{笑} {咳} {手を叩く音}
- ×××× : 言い間違いや言いよどみなど、共通語訳ができない部分。  
 例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

~~~~~ : 聞き取れず、共通語訳も不明な部分には波線を引いた。

聞き取りが不十分で共通語訳も不十分な部分は該当箇所に下線を引いた。

例：ツナミ ~~~~~ ネクテ

津波 ~~~~~ なくて

\_\_\_\_\_ : 発話が重なっている部分には、方言の部分に準じて下線を引いた。

例：005A：ハイ コイツテ イーベガネッスー。

はい これで いい でしょうか

006B：アー ソイズダー。 モラッテクダサイ (A ソーダ)

あー それだー。 もらってください (A そうだ)

===== : 発話が重なっており、聞き取れない、または聞き取りが不十分であり、共通語訳も不明な部分には、方言の部分に準じて二重下線を引いた。

例：ビョーギ ===== (B =====) シタンダ。

病気 ===== (B =====) したんだ。

////// : 対応する共通語訳が不明な部分。

できるだけ注記を入れるなどして、話の流れはわかるようにした。

例：モーゼーノ ////// モジナンデスナ。

////// 文字なんですね。

[ ] : 方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン        ノセテ

みかん [を] 乗せて

※ 意味の説明や意識にも使用した。その場合は「=」を付してある。

例：イマ ユー

今        いう [=今話題にあがった]

#### 5. 4. 2. 音声データの方法

文字化資料のもととなった音声データは、東北大学方言研究センターのWebサイト「東日本大震災と方言ネット」(<http://www.sinsaihougen.jp/>) で利用できるようにした。そこには、文字化本文のPDFデータも載せてある。

各会話の収録時間は平均して自由会話 10 分前後、場面設定会話 5 分前後である。ただし、自然な会話の流れとまとまりという観点から地点ごとにならずしも統一されてはいない。

音声を公開するにあたっては、個人が特定できるような人名やその他の固有名詞については該当箇所の音声に自主規制音（ピー音）をかぶせる処理を行った。

また、場面設定会話については、原則として収録されたとおりの内容を公開したものの、地点によっては実際の内容そのままではない部分がある。例えば、話者同士の会話になら

ず、話者が調査者に教えるような状況になってしまった場合など、収録された会話に著しく不自然な流れが目立つときには音声の切り貼りによる編集を行うことがあった。このような処理を行った地点については、その旨注記を施しているが、資料利用の際には注意を要する。

今回の会話の収録は、震災後の不便な状況の中で、狭い仮設住宅や大勢の人の集まる場所で行わざるを得ないことがあり、そうした点が上記のような収録の不具合につながった。この点については、今後こうした状況下で行われる会話収録にとって、ひとつの検討課題として残された。

## 5. 5. Web方言会話集

### 5. 5. 1. ホームページでの公開

以上のようにして作成した会話資料は、この報告書に先立つ2013年1月10日から、東北大学方言研究センターのWebサイト「東日本大震災と方言ネット」(<http://www.sinsaihougen.jp/>)で公開している。そこでは、文字化本文のPDFデータとその音声の配信を行っている(図1)。

TOHOKU UNIVERSITY

## 東日本大震災と方言ネット

ホーム 当サイトについて 大震災と方言活動情報 センターの取り組み センター情報 リンク

これからの取り組み

伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集

「伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集」とは

文字化する際の基準と記号の解説

宮城県被災地の方言概説

気仙沼市

女川町

栗松島市

松島町

利府町

**「伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集—宮城県沿岸15市町—」とは**

東北大学方言研究センターでは、3.11東日本大震災を受け、方言による会話を収集する調査を行い、宮城県沿岸被災地の「方言会話集」を作成しました。

この方言会話集の目的は次の3つです。

- ・変化を余儀なくされる被災地の方言を記録し後世に「伝える」
- ・避難している方々に故郷の方言を配信することで「励ます」
- ・支援に入る方々が被災地の方言を「学ぶ」ことに役立てる

原則として、各市町70歳前後の男女各1名のペアに会話をしてもらい、方言を録音し、それを文字起こすという作業を行いました。

この「東日本大震災と方言ネット」では、音声(MP3形式)と文字化資料(PDF)を公開しています。

図1 「伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集」Webページ

以下、このWeb方言会話集を構築した意義や技術、課題について解説する。

### 5. 5. 2. 東日本大震災と方言ネットとは

まず、Web方言会話集を配信する「東日本大震災と方言ネット」について、簡単に解説する（詳しくは東北大学方言研究センター（2012）をご覧ください）。

「東日本大震災と方言ネット」とは、私たち、東北大学方言研究センターが運営するWebサイトである。その目的は、研究面では、これまでの「大震災と方言」の研究成果と、これからの動向の把握を容易にし、今後の研究の効率化・活性化に利することを目指し、社会的には、被災者・支援者に役立つ情報の発信により、被災地の復興への手助けをしていくというものである。

そういった目的意識の下、2012年2月現在、方言イベントや大震災と方言に関わる研究会の情報の発信、被災地の方言に関わる研究文献目録の配信、被災地での調査スケジュールの公開・共有などの、さまざまなコンテンツを運用している（図2）。

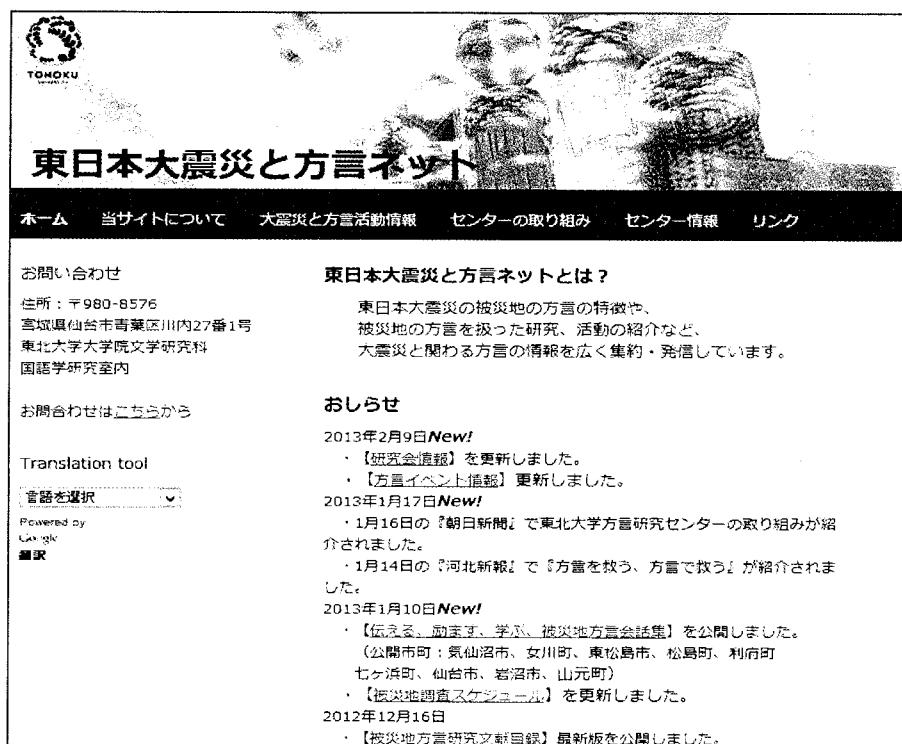


図2 東日本大震災と方言ネットTopページ

### 5. 5. 3. 被災地方言会話集をWeb上で構築する意義

そもそも、被災地方言会話集作成の目的は、主に、①消えゆく方言の記録と継承に向けた準備、②被災地への支援活動の一環、という側面がある（小林隆 2012）。しかし、その目的に対して、従来のような冊子媒体での資料集として作成する方法だけでは十分な効果が得られない可能性があることが、今回のような災害に際して浮き彫りになった。

まず、②の側面に関して、冊子媒体での資料集での公開の問題点を指摘する。②の「被

災地への支援活動」という目的には、支援者と被災者に向けた側面がある。支援者には、被災地の方言を予め知ってもらい、被災地でのコミュニケーションを円滑にし、活動に役立ててもらおうという意味、被災者には、ふるさとの方言を聞いてもらうことで、心理的に励まそうという意味である。特に、2点目の被災者への心理的支援は、遠方へ避難・移住し、ふるさとの方言を耳にする機会に久しい住民の方にこそ、その効果が大きいと期待される。

総じて②の目的は、不特定多数の被災者と支援者を対象にしており、そのような人たちに行き届いてこそ意味があるということである。しかし、費用面の問題等でどうしても数が限られる冊子媒体での資料集では、全国各地に避難・移住している可能性がある無数の被災者の方々や、潜在的に、全国どこの誰でもなる可能性がある支援者に、気軽に利用してもらえるように配布・配置するのに限界がある。

一方、現代では、インターネットの利用が広まり、Webによる情報の発信と共有が一般的になりつつある。インターネットを利用したWeb配信なら、インターネット環境さえあれば、どこからでも、無制限に、被災地方言会話集の資料にアクセスしてもらうことができる。そこで、この被災地方言会話集を、不特定多数の被災者と支援者にも利用してもらえるようにすることを企図し、Web上に構築した。こうすることで、より多くの方の目に触れ、その効果を発揮できると考えられる。

また、「東日本大震災と方言ネット」のWebサイトは、スマートフォンなどの携帯メディアでの利用にも対応している。携帯メディアの通信速度、使っているWebブラウザの種類に制限を受けることもあるが、基本的には、携帯メディアから、方言会話集の音声を再生することも可能である。これは、ノートPCなどよりも携帯性に優れたメディアでの利用を可能にすることで、より幅広い場面での使用を可能にする試みである。例えば、方言会話集の自由会話を再生しながら、それを話の種にクイズやコミュニケーションをするといったことや、日常のやり取りの中で分からなかった言葉などを、すぐさま場面設定会話で検索するといった利用方法を想定している。このように携帯メディアでの使用を可能にしておくことは、資料の利用の幅を広げるという点からも、効果が期待できるであろう。

次に①の側面に関してだが、消えゆく方言の記録と継承の準備という点からも、Web上での公開という形態には利点がある。それは、貴重な方言の資料を、Web上で公開するとともに、一定の方法で保存しておくことで、災害による資料の損失に備えることができるということである。

今回の東日本大震災や、それに伴う津波によって、多くの貴重な文化財や歴史資料が被害を受け、その文化財・資料を保全する活動などが各地で行われてきた(天野真志 2012)。その活動は、被災からおおよそ2年になる現在に至るまで続けられている。一度津波などで被災した資料の復元・保全は困難で、膨大な時間を割かれるためである。津波による被害を受けなかった地域においても、建造物の被害や、それに伴う家財などの財産の被害は、計り知れないほど大きい。これまでの貴重な学術調査の資料などを、数多く収める大学の

諸機関なども、その被害は少なくなかった（永田英明 2012、永田英明・徳竹剛 2011）。

つまり、今回の大規模な災害の被害によって、蔵などに眠る貴重な歴史資料ばかりか、近代的な建造物に保管される調査資料といった類のものさえ、一挙に被害を受ける可能性があるということが露呈したのである。さらに、被害を受けた資料は必ずしも復元できるとは限らず、その点で、そこに記された貴重な情報が永遠に失われてしまう可能性もある。

こういった大震災被害の状況を踏まえ、今後、いつ起きるか分からない大災害と、それに伴う貴重な資料の損失の脅威に備え、何らかの方法で資料を保存し、バックアップを取ることが求められている。その保存方法のひとつとして、「伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集」のような形で、Web上にデータをおくということが考えられる。それが、貴重な資料の保存、バックアップを取ることにもつながる。

ただし、「伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集」のWebサイト上での保存の取り組みは、単に、資料を電子化し、Web上で保存するという点を特色にしているわけではない。というのも、通常なら、大学の所属部局のWebサイトは、大学のWebサーバシステムに組み込まれ、そのホストコンピュータに保存されることが多い。そうすると、例えば、東北大学方言研究センターの貴重な方言音声資料が災害により失われ、さらに、東北大学のホストコンピュータすら、被害を受けて壊れたとなると、資料やそのデータは必ずしも無事とは言えなくなってしまう。

しかし、その点、「東日本大震災と方言ネット」のコンテンツは、クラウドプロバイダサービスや、オンラインストレージサービスを利用して構築され、そのような場合にも対応する保存方法を有している。クラウドプロバイダやオンラインストレージによる保存は、簡単に言えば、大学のホストコンピュータのように一か所に貴重なデータが集約され保存されるのではなく、Web上の無数のコンピュータにデータが保存されている状態ということである。そのため、例えば、東北大学方言研究センターの貴重な方言音声資料が災害により失われ、さらに、東北大学のホストコンピュータすら、被害を受けて壊れたとしても、資料のバックアップは依然として残るということである。つまり、今回の震災のような、広範囲、大規模の災害に直面しても、貴重な資料が失われるリスクを減じる対策として機能するのである。

このように、大きな情報配信力と利便性、手軽さを持ち、バックアップとして、災害などの被害にも強い保存性に優れた資料を意図して、Web上に配置したことが、本会話集「伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集」の意義と言える。

#### 5. 5. 4. Web方言会話集作成のための技術について

ここでは、「伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集」をWeb上に作るために利用しているサービスなどについて述べる。これは、今後、次なる災害に備えるWeb方言会話集制作の参考となるよう、記すものである。

前節で述べたように、「伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集」を含む「東日本大震

災と方言ネット」のコンテンツは、クラウドプロバイダサービスや、オンラインストレージサービスを利用して、構築している。クラウドプロバイダサービスやオンラインストレージサービスによるWebサイト制作を選んだのは、前節に述べたような災害による被害に対するデータ保存性の強さという意味合いがあるが、数あるサービスの中で「東日本大震災と方言ネット」が選んだクラウドプロバイダ、オンラインストレージは、「Jimdo」と「Dropbox」である。

これは、ひとつには、それぞれ、比較的シンプルで扱いやすいということを重視して選んだ結果である。例えば、「Jimdo」は、Webサイトを作るにあたり、専門的知識ともいえるHTML (HyperText Markup Language) を知らなくても、Webサイト制作が可能となる。「Jimdo」は、「文章」「写真」「ファイルダウンロード」など、いくつかの項目をメニューから選んで、決まったフォーマットにデータを指定したり、文章を入力するだけで、手軽にWebサイトができる。

しかし、今回の「伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集」のような、音声を再生するのは、ひと手間を要する。具体的に問題を言えば、「Jimdo」の既存の選択メニュー項目に、オンライン音声プレーヤーがないのである。そこで、「伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集」では、選択メニューのひとつでHTMLを自由に書き込めるウィジェットという項目を用い、そこに、オンライン音声プレーヤーのHTMLを書き込み、方言会話音声の再生を行う仕様としている。その際、方言音声のデータを保存するとともに、オンライン音声プレーヤーのデータの取得先として利用しているのが「Dropbox」である。

また、技術的な面では、オンライン音声プレーヤーの種類についても、試行・選択している。オンライン音声プレーヤーにもさまざまなものがあり、それぞれ、Webブラウザとの相性や対応する音声ファイル形式というのが異なるが、そのそれぞれのオンライン音声プレーヤーを多様なWebブラウザで試した。そして、最も多くのWebブラウザで音声再生が可能という点などを評価して、「Yahoo!メディアプレーヤー」を採用するに至った。

## 5. 6. 今後の課題

以上、この方言会話資料について解説してきたが、今後に残された課題も多い。最後に、そのいくつかを指摘しておこう。

まず、この資料の目的として「被災地方言の記録」「被災者への励まし」「支援者の方言理解」の3つを掲げ、それらに役立つ会話資料を作りたいと述べた。このうちの、「被災地方言の記録」という点について言えば、今回の資料は地点ごとに見た場合、量的に十分なものと言えないことは明らかである。これは、各市町にまんべんなく収録地点を設けたために、それぞれの地点の公開データを整えるのに時間を要してしまったことがひとつの原因である。ただ、自由会話については各地点1時間程度の録音を採っているため、それ

らの整理を進めることで地点ごとのデータをある程度充実させることは可能である。

次に、「被災地方言の記録」の一環として、今回の資料では場面設定会話を収録するという試みを行った。これは、言語行動の目的に沿って15個の場面を設定したものであるが、もちろんこれだけの場面設定でその土地の言語生活が網羅できたとは言えない。先にも述べたように、目的別言語行動の枠組みを用いた会話収録の方式は、方言記録の重要な方法になりうると考えられるので、今後、網羅的で洗練された項目を体系的に構築することが必要となる。また、「支援者の方言理解」を促すという目的からこの方法を見た場合、災害発生直後から現在に至るまで、復興の各段階で必要とされるコミュニケーションの内容やそれに応じた有用な場面設定会話の中身も変わってくるのではないかという問題も残る。支援の段階に応じた会話場面の検討も必要な課題である。さらに、「被災者への励まし」という点から見たとき、そうした観点からの場面設定がもっとなされるべきだったとも言える。〈ねぎらい〉〈お見舞い〉といった励ましに多少とも関わる場面は設けたものの、より直接的に励ましの場面を設定する工夫があつてよかつたと思われる。今回は、被災者にふるさとの方言を聞いてもらうこと自体が精神的な支援になるという素朴な発想で作業を進めたが、その「方言の聞いてもらい方」をどう工夫するかを十分考えていく必要があるだろう。

加えて、今回は、東日本大震災の事後に、被災地についての取り組みとして一連の活動を行ったが、今後起きうる同様の災害に備えて、災害発生の可能性が高いと指摘されている地域での、災害に先立って方言会話資料の作成ということが求められるだろう。特に、場面設定会話は、支援者の学習のためという目的を掲げており、その意味で、外来の支援者が多い災害発生直後から半年以内が最も需要が高い。その点で、方言会話資料は災害発生前に予め整えられているのが望ましいと考えられる。例えば、南海トラフ地震の津波浸水予測地域などは、減災の観点からも、このような方言会話資料の整備が考えられるだろう。

さらに、このような会話資料は利用のしやすさの面での課題もある。今回のこの冊子は相当大部なものとなり、研究者が利用するにはよいが、被災者や支援者の方々が簡単に手に取って見られるようなものにはできなかった。一般の方々の利用の便を考えれば、市町ごとに分割し、しかも場面設定会話のみを掲載する等、手軽に利用できるような仕様を検討しなければならない。この問題については、冊子型の会話資料ではなく、先に紹介したようなWeb方言会話集が解決のための有効な手立てとなると思われる。だが、そのWeb方言会話集にしてもいくつかの課題を抱えている。

例えば、Web上の方言会話集の取り組みには、次のような一連の課題が待ち構えている。

- ① インターネットを使えない環境や人々への対応
- ② 「伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集」の宣伝、周知
- ③ 「伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集」の評価、検証



#### ④ 次の災害に備えたWeb方言会話集の準備

①については、冊子媒体での資料とCDの配布が解決への糸口になるだろう。その点でも、上で指摘したような一般向けの仕様を工夫する必要がある。また、CDについても、パソコンで使用するタイプだけでなく、ラジカセ等で再生できるものも作成すれば、この資料の利用者の範囲が格段に広がるのではないかとと思われる。

②の点は、Web上で配信し、共有してもらおう特性を生かすためには、その存在を知ってもらわなくてはいけないということである。これについては、今後、折々の研究報告会などの機会を通じて、その存在が伝わるように周知していくつもりである。③の点は、このような方言会話資料をWeb上に置くことで、実際にどれくらい広く伝える効果があるのか、といった点を評価、検証するということである。「Web媒体を通して、この方言会話集について知った」かどうかを尋ねる必要がある。④については、先述の災害前の方言会話資料整備という課題を受けてのものである。その作成には、まず、③の結果を踏まえつつ、さらに、それを作成する以前に、例えば「南海トラフ地震と方言ネット」のような、その会話資料を載せるためのプラットフォームとなるWebサイトがそもそも必要となる。私たちの一連の活動を通し、「災害と方言」に関する活動への関心を高め、それをWebで展開する活動の可能性と有用性を伝えていくことが、次の取り組みにつながっていくと考える。

このほか、当然のことながら、会話収録のための調査技術のレベルアップという課題も挙げられる。自然な会話を収録することは専門家でも難しいと言われるが、今回の取り組みは、学生たちが主体となって行ったものであり、その点、自ずと限界があったことは認めざるを得ない。ただ、今回の取り組みは、私たちにとって貴重な経験となったことはたしかであり、その経験を次の機会に生かしていきたいと考える。

## 文 献

- 天野真志 (2012) 「東日本大震災にともなう歴史資料保全の取り組み」『情報処理学会研究報告』DD (デジタルドキュメント) 86-4、一般社団法人情報処理学会
- 国立国語研究所 (1978～1987) 『方言談話資料』全 10 巻、秀英出版
- 国立国語研究所 (2001～2008) 『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』全 20 巻、国書刊行会
- 小林隆 (2004) 「アクセサリーとしての現代方言」『社会言語科学』7-1、社会言語科学会
- 小林隆 (2012) 「方言ネットでつなぐ」『第 30 回社会言語科学会研究大会予稿集』社会言語科学会
- 白岩広行 (2012) 「「震災を語る方言談話資料」の試み」『日本方言研究会第 94 回研究発表会発表原稿集』
- 東北大学方言研究センター (2011) 『東日本大震災と方言』東北大学国語学研究室
- 東北大学方言研究センター (2012) 『方言を救う、方言で救うー3.11 被災地からの提言』

ひつじ書房

永田英明（2012）「災害と大学アーカイブズ—東日本大震災における東北大学史料館の対応」『東北大学史料館紀要』7、東北大学史料館

永田英明・徳竹剛（2011）「東日本大震災における東北大学史料館の被災状況と対応」『アーカイブズ』45、国立公文書館

# 被災地方言会話集



け せん ぬま し  
気 仙 沼 市



気仙沼市魚市場  
(写真提供：宮城県観光課)



## 宮城県気仙沼市概要

### ①気仙沼市の概観

気仙沼市は宮城県の北方沿岸部に位置する。岩手県に食い込むような格好をしており、西は岩手県一関市に、北は同じく陸前高田市に接している。太平洋に面した沿岸地域は変化に富んだリアス式海岸を形成しており、その美しさから、陸中海岸国立公園・海中公園、および、南三陸金華山国立公園の指定を受けている。気仙沼湾は湾口に大島を抱き、天然の良港であることから、東北太平洋沿岸を代表する漁港のひとつとして栄えている。

気仙沼市の産業の中心は水産業とこれに関連した製造業である。観光キャラクターとして登場した「ホヤばーや」は、剣はサンマ、ベルトはホタテと当地方の特産品を活かした愛らしい姿で、全国的にも人気を博している。

平成 18 年に唐桑町と、平成 21 年に本吉町と合併したのが現在の気仙沼市である。

### ②収録地点について

今回の話者は、お一人は市の南方海岸部に位置する波路上の出身であり、その後、そこより北側に位置する松崎に移っている。もうお一人は市の北西山間部に位置する塚沢の方である。収録は塚沢にある旧月立中学校の校舎で行った。

### ③東日本大震災による気仙沼市の被害

地震による津波は市の中心部を襲い大きな被害をもたらした。死者・行方不明者は 1,380 人に及び、宮城県では石巻市に次ぐ人的被害となった。JR 気仙沼線は不通となり、大島へはフェリー流出のため交通が途絶えた。気仙沼漁港では大半の漁船が失われ、魚市場や水産加工場、冷凍施設が被害を受けた。ワカメやカキの養殖場の被害も甚大であった。

表 1 気仙沼市の人的・住宅被害

| 気仙沼市<br>人口 | 人的被害    |       |                  | 住宅被害    |         |
|------------|---------|-------|------------------|---------|---------|
|            | 死者      | 行方不明  | 死者・行方不明<br>の対人口比 | 全壊      | 半壊      |
| 73,489 人   | 1,029 人 | 351 人 | 1.88%            | 8,486 棟 | 2,540 棟 |

表 2 気仙沼市の浸水被害

|    | 浸水範囲の被害   | 割合    |
|----|-----------|-------|
| 人口 | 40,331 人  | 54.9% |
| 世帯 | 13,974 世帯 | 54.9% |

※ 本文の内容は、衛藤 (2012) P.128~134 に  
依拠する部分が多い。特に、表 1・表 2 は  
衛藤 (2012) のデータをそのまま引用した。

### 参考文献等

衛藤英達 (2012) 『統計と地図でみる東日本大震災市町村のすがた』 日本統計協会  
気仙沼市ホームページ (<http://www.city.kesenuma.lg.jp/www/toppage/0000000000000/APM03000.html>) (2013/02/23 アクセス)

# 被災地方言会話集

## － 宮城県気仙沼市 －

### <自由会話>

#### 自由会話の概要

収録地点 宮城県気仙沼市

収録日時 2012（平成24）年8月1日

収録場所 宮城県気仙沼市塚沢 旧月立中学校

話題 【震災のときのこと】

#### 話者

|   |   |             |          |        |
|---|---|-------------|----------|--------|
| A | 女 | 1941（昭和16）年 | （収録時71歳） | [Bの知人] |
| B | 男 | 1937（昭和12）年 | （収録時75歳） | [Aの知人] |

#### 話者出身地

|   |               |
|---|---------------|
| A | 気仙沼市波路上（ハジカミ） |
| B | 気仙沼市塚沢（ツカザワ）  |



【震災のときのこと】

話し手

A 女 1941 (昭和 16) 年 (収録時 71 歳)

B 男 1937 (昭和 12) 年 (収録時 75 歳)

001A : アンドギモ サムクテネー、ジエータイノ ヒトダチネー、(B ウン) アノ  
あの時も 寒くてね、 自衛隊の 人たちねー、(B うん) あの

プルプルテ (B ホンダホンダホンダ) ホントーニ、ンデー アノー アノヒノ  
プルプルって (B ほんとほんとほんと) 本当に、そして あの あの日の

フジンカイノ ヒトダジ アツカイ ミソシルドガ (A ウン) ダシテネー、  
婦人会の 人たち 温かい 味噌汁とか (A うん) 出してねー、

オイシガッターッテ アドデ キーダノネー。  
美味しかったって 後で 聞いたのねー。

002B : ウン ンダネ。 オラホサモ コ コゴサ ショーポーヒヤカ° キテ  
うん そうだね。 俺の方にも × ここに 消防車が 来て

(A ウンウン) トマッタガラ ミンナ ア アノ タギダステ  
(A うんうん) 止まったから みんな × あの 炊き出しして

カシェダダ。 (A ソーダネー) スタラ ソノ アツカイ オツユネ  
食べさせたんだ。 (A そうだねー) そしたら その 温かい 御汁ね

(A ウンウン) クイダインダナ。 (A ソーナダネー) ウン オニキ° リ  
(A うーんうん) 食べたいんだな。 (A そうなんだねー) うーん おにぎり

モラッタッテ アリカ° ダグネンダ。 (A ソーソーソー アツカイ)  
もらっても ありがたくないんだ。 (A そうそうそう 温かい)

オツユダケ ホスインダ。  
御汁だけ 欲しいんだ。

003A : ンダッテネー、 アノ ジエタイノヒト ユッテダッテー、 (B ウン) アノ  
そうだってねえ、あの 自衛隊の人 言ってたって、 (B うん) あの

ミソシル ウマガッタヤッテ。 ウン (B ンダベ) ンダガラ アノー  
味噌汁 美味しかったなって。うん (B そうだろう) そうだから あの

サイカ° イデネ イツツモ オモウノ。ソノ タベモノネ。 (B ウン)  
災害でね いつも 思うの。 その 食べ物ね。 (B うん)

サイカ° イ ミンナ ソノタンビ チカ° ウカ° スト。 (B ウン) シテ  
災害 [は] みんな その度 違うでしょ。 (B うん) そして

ジダイカ° カワッテッカラ ワスレタコロニ {笑} クルンダヨネ。 {笑}  
時代が 変わっているから 忘れた頃に {笑} 来るんだよね。 {笑}

(B ワスレダゴロニ クルネー ウン) ソー、ソーソーソー。  
(B 忘れた頃に 来るねえ うん) そう、そうそうそう。

ソストツサ ホントニ アレ ナニカ° イガッテユード クイモノダネー。  
そうするとき 本当に あれ 何が 良いかって言うと 食べ物だねえ。

(B ウン) アッタカイ クイモノネー。  
(B うん) 温かい 食べ物ねえ。

004B : マ カラダオ アッタガグスル ホーホーモ (A ソー) ダイズダ。  
まあ 体を 暖かくする 方法も (A そう) 大事だ。

(A ソー) ウン。  
(A そう) うん。

005A : ホントニネ、ンダガラ アノー ワダシモ マズ コレガラ  
本当にね、 だから あの 私も まず これから

ベンキョシテク° ノワ ミズワ カナラズ モッテオグゴド。  
勉強していくのは 水は 必ず 持っておくこと。

ソレガラ コ カンプツルイカ ミソ ショーユ (B ウン) タヤサナイデ  
それから こう 乾物類か 味噌 醤油 [を] (B うん) 絶やさないで

カッテオッカナッテ {笑} イッツモ コノコ° ロ オモウノネ、 (B ウーン)  
買っておこうかなって {笑} いつも この頃 思うのね、 (B うーん)

アレサエ アレバネ、シオトネ。  
あれさえ あればね、塩とね。

006 B : ウン。ナンボ カネ アッタッテ モノワ ネーнда。  
うん。どれだけ 金 あったって 物は ないんだ。

007 A : ナイカラ。 {笑} ソーソーソー。  
ないから。 {笑} そうそうそう。

008 B : カネデワナイナ。 (A ウン)  
金ではないな。 (A うん)

009 A : デ アダシモ カンプツルイデ ケッコ シノイダんだネー。 (B ウーン)  
で 私も 乾物類で 結構 凄いんだね。 (B うーん)

アノ ヒジキノ ホシタノトガ (B ウン) アト キリボシダイコントカ  
あの ひじきの 干したのとか (B うん) あと 切干大根とか

(B ハー)、デ アノ ニンジントカモー コー イッパイ モラッタドギ  
(B はああ)、で あの 人参とかも こう いっぱい もらった時

アノ オヒサマニ ホシテ カリカリニ シテオイデ、 ワズカナ ミズデネ、  
あの お日様に 干して かりかりに しておいて、 わずかな 水でね、

(B ウン) モドルガラー、 (B ウン ウーン) ソレデー マコ° ダジ  
(B うん) 戻るから、 (B うん うーん) それで 孫たち [が]

コンナノ ハジメデ クッタッテ ユッタケントネ、 (A ンダネー)  
こんなの 初めて 食べたって 言ったけどね、 (A そうだね)

カンブツモ ダイジダネー ウドントカネ、(B ウンウンウン) ウドンモネ、  
乾物も 大事だね うどんとかね、(B うんうんうん) うどんもね、

アノ グラグラグラ ニナクテモ イーノッサ。 チョット ニダッタラ  
あの ぐらぐらぐら 煮なくても いいのさ。 ちょっと 煮立ったら

アド オモセバ イーノネ、(B アー——) タベラレンノ。  
あと 蒸せば いいのね、(B あー——) 食べられるの。

マー マズーイー (B ウン) ッテエバ マズイケンド クエナエワゲデ  
まあ まずい (B うん) っていえば まずいけど 食べないわけで

ナイガラネ。(B ウンウン) デ ベンキョシタネー。  
ないからね。(B うんうん) で 勉強したねえ。

(B ウーン) クイモノモネー。

(B うーン) 食べ物もね。

010B : クイモノワ ナイベス イズバン (A ウン) コマッタノ ミズダッタン。  
食べ物は ないだろうし 一番 (A うん) 困ったの [は] 水だったの。

(A ソーソーソー) サイシヨ、(A ソー) サッ ミーズー

(A そうそうそう) 最初、(A そう) さあ 水

ネーッテ イワレデモネ、 サッ クルマノ ガソリンカ° ナインダ。  
無いって 言われてもね、 さあ 車の ガソリンが 無いんだ。

(A ア ガソリンカ° ナインネ。 {笑} ンダオンネー)

(A あ ガソリンが ないのね。 {笑} そうだもんねー)

ンダガラ モッテガレネーンダイヤ。(A ソーソー)

だから 持って行けないんだよ。(A そうそう)

011A : シテ アダシモネー アノ チチオヤカ°、 ナグナッタ チチオヤカ° ネ、  
そして 私もね あの 父親が、 亡くなった 父親がね、

クルマツツノ ハンブ イツツモ {コーヒーを飲む音} ハンブンマデ アブラ  
車というの ××× いつも {コーヒーを飲む音} 半分まで 油

イレトゲッテ イワレダノ。(B ウン)デ ソレ イツツモ マモッテンノネ。  
入れておけて 言われたの。(B うん)で それ いつも 守っているのね。

(B ウン)ダガ ケッコー ハシレタノサ ハンブン アツカ。  
(B うん)だから 結構 走れたのさ 半分 あったから。

(B アー ホンダー イガッタナー) ンデモ ワダシ チョード マエノヒ  
(B あー それなら よかったなー) それでも 私 ちょうど 前の日

シズカ° ワサ、アノー ギリノ イモートサン イルノデ ナンダガ  
志津川に、 あのー 義理の 妹さん 居るので 何だか

シャネゲド ヨーアッテ コーコツツカラ イッテ、ア キー  
知らないけど 用あって 来い来いと言うから 行って、× ××

ジューチニチノ フィー ダーイッテ イワレダンネ、  
十一日の 日 いらっしゃいって 言われたのね、

ンダゲッド ジューイチニジー アダシモ ツゴー ワルイガラーッテ  
そうだけど 十一日 [は] 私も 都合 悪いからって

トーカニ イッタノッサ。 デ ジューイチニチニ イッダラ  
十日に 行ったのさ。 で 十一日に 行ったら

カエッテ コレネガッタオンネ。(B ウーン)デー ソノー トーグサ  
帰って 来られなかったもんね。(B うーん)で その 遠くに

イク° ガラッテ マンタンニ イレデアツタノ。(B ウン)アブラネ。  
行くからって 満タンに 入れてあったの。(B うん)油ね。

(B ウン)ソシテ カエリモ ンジャー トオモッテ マダ マンタンニ  
(B うん)そして 帰りも それじゃあ と思って また 満タンに

ツカッタブン イレダノネ。(B ウン) ソエ、(B アーー) ナカ  
使った分 入れたのね。(B うん) それ、(B あーー) ××

ナンカ ムシノシラセダガ オヤカ° マモツテケダノガナ (B アーー)  
なにか 虫の報せだか 親が 守ってくれたのかな (B あーー)

トオモツタリ {笑} シテネ。  
と思ったり {笑} してね。

012B : オラ マイニズ センエン エレレバ イード オモツデッガラネ。{笑}  
俺は 毎日 千円 (分) 入れれば いいと 思ってるからね。 {笑}

センエンスカ (A ホンダガラ) エレネンダ。  
千円しか (A そうだから) 入れないんだ。

013A : アドー ウサ エサ カエツデキデ カネツコ ハタイデ ア アノー  
あと ×× 家に 帰ってきて お金 はたいて × あのー

タスカッタヤーッテイッタネー。  
助かったよって言ったね。

014B : アー ンダナー。(A ウン) ソレデ タスカッタネー。  
あー そうだな。(A うん) それで 助かったねー。

015A : ソレ ヤッパリ コー トショリーノヒトダジカ° キー ワガイ ヒトタチサ  
それ やっぱり こう 年寄りの人たちが ×× 若い 人たちに

キカセンノモ ダイジデナエベガ。(B ウンウン) アダシ ソノ、  
聞かせるのも 大事でないだろうか。(B うんうん) 私 その、

ムガスカラ コ トショリヒトダジノ [1] ハナシ キーデデ、  
昔から こう 年寄りの人たちの 話 聞いてて、

タメンナツタゴド イッパイ アルネ、ソノ カンプツモ。  
為になったこと いっぱい あるね、その 乾物も。

(B アー ナルほど) ホレガラ ミソ ショーユ キラスナドカネ。

(B あー なるほど) それから 味噌 醤油 切らすなとかね。

016B : ウン。 オラドゴワ ツナミ コネアガラネ。

うん。 俺の所は 津波 来ないからね。

017A : コネガラ アンシン シテッケントー。

来ないから 安心 してるけれど。

018B : ウン ソーユー アノー オモイカ° ナインダ。

うん そういう あのー 思いが 無いんだ。

019A : アー—— (B ウン) ナンデモ アツカラネ。

あー—— (B うん) なんでも あるからね。

020B : ナンデモ アルンダ。

なんでも あるんだ。

021A : ハダゲ ホッケシテワ ナニアルシネー。

畑 掘り返しては なんでもあるしねー。

022B : ウン、ンダガラ クルマデ ハ モツテイキ° ダグテモ

うん、それだから 車で × 持って行きたくても

イカ° レネー ndarray。 (A ンダネ) アブラカ° [2] ナクテ。

行けないんだよ。 (A そうだね) 油が 無くて。

(A ソーダオンネ——) うーん。

(A そうだもんね——) うーん。

023A : ゲンダイノ ソノ キキ ダネ。アブラトカ。 (B ウン) ムカシ

現代の その 危機 だね。油とか。 (B うん) 昔

アルイダダケントネ。 (B ソーソー) クルマ ネット

歩いたんだけどね。 (B そうそう) 車 無いと

ウコ° ケネツツハナシモ オガシーガッタダケド {笑} アタシサ、  
動けないって話も おかしかったんだけど {笑} 私さ、

ナニ アブラアブラッテッテ、アルゲバイッチャト オモッタノンサー。  
なに 油油って言って、 歩けばいいさと 思ったのさ。

024 B : ウン。 マー ミンナ アルイダゴド アルイダネー。  
うん。 まあ みんな 歩いたこと 歩いたねー。

025 A : マー アルイダネー。 (B ウン) ウンウン。  
まあ 歩いたねー。 (B うん) うんうん。

026 B : スデ ムガスト イ イマワ ツカ° ウガラネ (A ウーン) ムガスワ アノー  
そして 昔と × 今は 違うからね (A うーん) 昔は あのー

ヤマノ モクザイデ イエー タデダデシヨ。(A ハイ) ソ ツナミ クット  
山の 木材で 家 建てたでしょ。(A はい) × 津波 来ると

ナカ° サレルト、(A ウン) ソノー ナカ° サレタ アノー ガレキデ イエオ  
流されると、(A うん) その 流された あのー がれきで 家を

タデタンダ。ストー アドモ コノ コーイー ガレキオ ゼンブ フロダドガ  
建てたんだ。すると あとも この こういう がれきを 全部 風呂だとか

ネンリョーシニ [3] ツカッダガラネ。(A アー) ホンダガラー ハマモ  
燃料費に 使ったからね。(A あー) そうだから 浜も

ナンモ キレーニ ナッタノサ。(A ア ナルホド) ウン。(A イマ)  
何も きれいに なったのさ。(A あ なるほど) うん。(A 今)

ヨコ° レッゴド ネーンダ。(A ハイハイ) イマ デンコ モラッテ  
汚れること 無いんだ。(A はいはい) 今 お金 もらって

ヤッテッカラネ。ウーン カダズケルチモ ナニモ ヤルチモ ネーンダワ。  
やってるからね。うーん 片づける気も 何も やる気も ないんだよ。



027A : ンー ンダネー。 (B ンー) ソシテ アダシモ コー  
んー そうだねー。 (B んー) そして 私も こう

オモッタダケントネ、ムガシワ アノ ソー タトエバ カジデー  
思ったんだけどね、 昔は あの そう 例えば 火事で

アノー イエ ヤゲダッテユード カナラズ ダレガノ イエサ (B ウン)  
あの 家 焼けたっていうと 必ず 誰かの 家に (B うん)

オセワ ナッタガスト。 (B ソーソー) シテ ミンナ ナガヨグ  
御世話 [に] なったでしょ。 (B そうそう) そして みんな 仲良く

クラシテネー、 (B ウン サワキ° [4] ネーнда) サワキ°  
暮らしてね、 (B うん 騒動 [は] ないんだ) 騒動

ナガッタケント コンカイ ソーデモ ナガッタミタイダネー。  
なかったけど 今回 そうでも なかったみたいだねー。

028B : コンカイワ アッダネー。 ミツカデ オワリダ。  
今回は あったねー。 三日で 終わりだ。

029A : ンダネー。 (B ウン) ナダガ ズイブン サワキ° カ°。アレ ナンダイ、  
そうだね。 (B うん) なんだか 随分 騒動が。 あれ なんだい、

キズナッテ ユーワリニ。 {笑} ミンナ ハナシ キグドネー、  
絆って 言う割に。 {笑} みんな [に] 話 聞くとねー、

(B ワガママ) エラ エラレナガッダー。 (B ウン) エラレダホーモ  
(B わがまま) ×× 居られなかった。 (B うん) 居られた方も

タイヘンダー。 (B ソーソー イラレダホーカ° タイヘンダ) アト アレ  
大変だ。 (B そうそう 居られた方が 大変だ) あと あれ

イズノマニ コンナ ヨノナガン ナッタノガナーッテオモッタネー。  
いつのまに こんな 世の中に なったのかなーって思ったねー。

030 B : ウン ミンナ ホダッタ。

うん みんな そうだ。

031 A : ヤッパリ ゲンダイナンダイガネー。(B ゲンダイガナー) カクカゾグノー、  
やっぱり 現代なんだろうかねー。(B 現代かなー) 核家族の、

032 B : オレンドゴノ オ オイッコサー キタ オヨメサンノー オフクロカ°  
俺のとこの × 甥っ子に 来た お嫁さんの おふくろが

キタノサ。(A ウン) ソシテー ナンボニズ イダベナー。

来たのさ。(A うん) そして 何日 居ただろうな。

ミッカモ イダラ ケンカシテ カエッタ。(A ウーン) ウン。  
三日も 居たら けんかして 帰った。(A うーん) うん。

033 A : コンナ ダイジナジキデネー。

こんな 大事な時期でねー。

034 B : ウーン。 ココ ヤッセ [5] ダガラ ベツニ ナンツーゴダ ネーンダ。  
うーん。 ここ [は] 八瀬だから 別に なんてことは ないんだ。

ホンダケントモ ヤッパリ ダメナンダナー。

そうだけれども やっぱり だめなんだな。

035 A : ハー——。 ガマンカ° タリナインダイガネー。

は——。 我慢が 足りないんだろうかね。

036 B : ガマンカ° タンネーンダ。

我慢が 足りないんだ。

037 A : オモイヤリモ タンネンデネベガ。

思いやりも 足りないんじゃないだろうか。

038 B : ウン。ズブンノー アノー イシオ トーソート ステル。

うん。自分の あのー 意思を 通そうと してる。

039 A : アー カンシャノ キモジモ タンネガッタカモネー。  
あー 感謝の 気持ちも 足りなかったかもねー。

040 B : ウン ンダノ ネーндаネー。  
うん そういうの 無いんだねー。

041 A : ンダガラ ボランティアデ コー キタヒトタチワネー ナニシロ モー  
だから ボランティアで こう 来た人たちはねー なにしる もう  
  
ムチュー ダッタネー。ヤツテモラツテネー。  
夢中 だったねー。やってもらってねー。

042 B : アノ ボランティアアツテイエバー サイコーノ カンシャダ。  
あの ボランティアっていえば 最高の 感謝だ。

043 A : ソーダヨネー。  
そうだよねー。

044 B : ウン。アリヤ ココニ イデサゲア イツテ、 アノ ハエカ° エツペ イデ  
うん。あれは ここに 居てさえ 行って、 あの ハエが いっぱい いて

クサイドゴッサー (A ウン) ヤッタヤズワ イネーнда。  
臭い所 [を] さあ (A うん) やったやつは いないんだ。

(A ホントニネー) シテ ミンナ モー ココノ ヒドタチ ヤツタンダヨ。  
(A ほんとにねー) そして みんな もう この 人たち やったんだよ。

(A ソーダヨネー) ドブワネー。 [6]  
(A そうだよねー) どぶはねー。

045 A : アノ スバラシサワネ (B ウン) ミナラウベキダネー。  
あの 素晴らしさはね (B うん) 見習うべきだねー。

046 B : ンダネー。オレノ オドツ ココサ トマツデダカラネー、 (A ハイハイ)  
そうだねー。おれの ××× ここに 泊まったからねー、 (A はいはい)

ソノ一 ヤサイガナンカ (A ア) ケダケントモネー。

その一 野菜かなんか (A あ) やったけどもねー。

047A : ア。 ミンナネー シンパイシテ キテケダンダモンネー。  
あ。 みんなねー 心配して 来てくれたんだもんねー。

048B : ンダネー。 オギナワガラ アノ一 ホッカイドーマデ キタガラ ミナ。  
そうだねー。 沖縄から あの一 北海道まで 来たから 皆。

049A : ハイ ホッカイドノ カタモネ、 アタシタチ ココサ キデ  
はい 北海道の 方もね、 私たち ここに 来て

チョット シリアイニ ナッタノネ、 (B ウン) ホントニネ  
ちょっと 知り合いに なったのね、 (B うん) 本当にね

ミナサン アタマ サカ° ルネー。  
みなさん [には] 頭 下がるねー。

050B : アタマ サカ° ルー。 シテ ジューイズカ° ズニーー アノ エキデンタイカイ  
頭 下がる。 そして 十一月に あの 駅伝大会

ヤッタノッサ。 (A ハイ) ソシタラ ソノボランティアノ ヒト オキナワガラ  
やったのさ。 (A はい) そしたら そのボランティアの 人 沖縄から

ホッカイドーマデ キテ、 (A ウン) ゼンブ トローヒーガラ  
北海道まで 来て、 (A うん) 全部 トロフィーから

ショーシンガラ イーッパイ ナラベテッサー (A ウン) ウーーン。  
賞品から いっぱい 並べてさー (A うん) うーん。

051A : ヤッセノ アノ コーレーノ (B ウン) マラソンタイカイネ。 (B ソーソー)  
八瀬の あの 恒例の (B うん) マラソン大会ね。 (B そうそう)

アー一 スコ° ガッタネー。  
あー一 すごかったねー。

052 B : ソレデ オレ ハズメダモンダガラー、 (A ウン) ウーン、  
それで 俺 始めたものだからー、 (A うん) うーん、

ホントニ カンシャダ、ソレモ。  
本当に 感謝だ、 それも。

053 A : ホントダネー。 (B ウン)  
本当だねー。 (B うん)

054 B : マー アノ クサイドゴ ハタライデケデ、 (A ソーソーソー) ソレガラ  
まー あの 臭い所 働いてくれて、 (A そうそうそう) それから

ショーシン ダシテガラニー (A ソー) ミンナ イッショニ ハスツタンダ  
賞品 出したうえに (A そう) みんな 一緒に 走ったんだ

ソノヒトダツモ。 (A ウン)  
その人たちも。 (A うん)

055 A : チョード キョネンノ イマゴロネー、 (B ウン) ヤッパリ アズクテ  
ちょうど 去年の 今頃ねー、 (B うん) やっぱり 暑くて

ハエカ° デデー (B アズグ ハイハイ) ネー。  
ハエが 出て (B ××× はいはい) ねー。

056 B : ソンデモ アノー ツナミーカ° オギダドキワ サムガッタガラ、  
それでも あのー 津波が 起きた時は 寒かったから、

(A ソーソーソー) ソノ デンセンビョーニモ ナニモ ナンネノサ。  
(A そうそうそう) その 伝染病にも なにも ならないのさ。

イガッタノサ。 (A ナンネガッタゲントネー) ウン。 (A ウン デモ)  
良かったのさ。 (A ならなかったけどねー) うん。 (A うん でも)

ナズダッダラ タイヘンダ。 (A ンダネー) ウン タスカッタ ヒトタツモ  
夏だったら 大変だ。 (A そうだねー) うん 助かった 人たちも

カタッパスガラ ヨワッテイク°。  
片っぱしから 弱っていく。

057A : ソー ミンナ ノリゴエダネー。(B ノリゴエダ) ヤッパリ  
そう みんな 乗り越えたねー。(B 乗り越えた) やっぱり

ボランティアサンノ オカケ° ダネー。(B ンダンダ) スコ° イネー。  
ボランティアさんの おかげだねー。(B そうだそうだ) すごいねー。

(B スコ° イ) シートニ、 アノー ドゴダガノ オバンツァカ°  
(B すごい) 本当に、 あのー どころかの おばあさんが

ボランティアッテ ナンデッサッテ ホラ ユッタッテ。 モットモ  
ボランティアって なんですかって ほら 言ったって。 最も

ワガンネノサネー。(B ワガンネノワガンネノ)  
わからないのさねー。(B わからないのわからないの)

デ ボランティアッテ タダデー カセーデケル ヒトダヨッテタゲ  
で ボランティアって ただで 働いてくれる 人だよって言ったら

ナニスー タダデスー {コーヒーを飲む音} ッテ ホラ イッタッテ。  
何です ただです [か] {コーヒーを飲む音} って ほら 言ったって。

(B ウン) デ クーモノ ナゾシテンダベッテ。 タツケ  
(B うん) で 食べるもの どうしてるんだろうって。 そうしたら

ジブンデ カッテキテ クーンダガラッテ。(B ソーソー) タケ  
自分で 買ってきて 食べるんだって。(B そうそう) そしたら

ナニス ソンナゴド アンノスカッテ オバンツァン イッタッテネ、  
なんです そんなこと あるんですかって おばあさん 言ったってね、

モー キュージュースキ° タ オバンツァンガネー。(B ウンウン)  
もう 九十 [歳] 過ぎた おばあさんがねー。(B うんうん)

気仙沼市 自由会話

ナミアムダブナミアムダブッテ テー アワセダッテッサー。 (B ウーン)

南無阿弥陀仏南無阿弥陀仏って 手を 合わせたってさ。 (B うーん)

宮城県気仙沼市方言会話集（自由会話）注記

〔1〕 トショリヒトダジ

「年寄りの人たち」の意味であるが、「の」にあたる部分が聞き取れない。

〔2〕 アブラ

自動車のガソリンのこと。

〔3〕 ネンリョーシニ

「燃料費に」と解釈される。文脈上は「燃料に」でよいところであるが、発話者は「燃料相当のものとして」という意味を表したかったらしい。

〔4〕 サワキ°

「騒ぎ」であるが、ここは騒動を意味する。

〔5〕 ヤッセ

気仙沼市八瀬地区。

〔6〕 アリャ ココニ イデサゲァ イッテ、以下の文脈

地元の人たちでさえ、泥掻きにはなかなか行けなかったのに、ここに滞在していたボランティアたちが、劣悪な環境でも積極的に活動してくれたという趣旨。



宮城県気仙沼市方言会話集（自由会話）担当者

収録担当者 小林 隆（東北大学大学院文学研究科教授）  
崔 柳美（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）  
三沢由季子（東北大学文学部3年）

文字化担当者 小林 隆（東北大学大学院文学研究科教授）  
川越めぐみ（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）  
三沢由季子（東北大学文学部3年）

**被災地方言会話集**  
**－ 宮城県気仙沼市 －**  
**<場面設定会話>**

**場面設定会話の概要**

収録地点 宮城県気仙沼市

収録日時 2012（平成24）年8月1日

収録場所 宮城県気仙沼市塚沢 旧月立中学校

話題 **【場面設定会話】**  
全13場面

話者

|   |   |             |          |        |
|---|---|-------------|----------|--------|
| A | 女 | 1941（昭和16）年 | （収録時71歳） | [Bの知人] |
| B | 男 | 1937（昭和12）年 | （収録時75歳） | [Aの知人] |

話者出身地

|   |               |
|---|---------------|
| A | 気仙沼市波路上（ハジカミ） |
| B | 気仙沼市塚沢（ツカザワ）  |

【場面設定会話】

話し手

A 女 1941 (昭和16)年 (収録時71歳)

B 男 1937 (昭和12)年 (収録時75歳)

〈あいさつ〉

(1) 朝、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : アレー ドゴサ イク° ノー。

あれ どこへ 行くの。

002B : スコ° ドスサ。 イマ ヒョーバイデ イク° ドゴ。

仕事しに。 今 商売で 行くところ。

003A : アー ホント。 ア ンデ イッテダイン。

あー 本当。 あ それでは 行ってらっしゃい。

004B : ハイ マイド ドーモネー。

はい 毎度 どうもね。

005A : ハイー。

はい。

(2) 昼、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : アレ オヒルダネー。 オヒル タベダノスカー。

あれ お昼だね。 お昼 食べたんですか。

002B : マダダー。

まだだー。

003A : ンデー ハヤグ タベデー オヒルネスライン。

それでは 早く 食べて お昼寝してください。

004B : ハイ アリカ° トー。

はい ありがとう。

005A : ハイー。

はい。

(3) 夜、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : オバンデゴザリースー。

こんばんは。

002B : オバンデース。

こんばんは。

003A : イマ カエッタノスカー。

今 帰ったんですか。

004B : ハーイ。

はい。

005A : ンジャ キツケデネー。

それじゃ 気をつけてねー。

006B : ハイ オヤスミー。

はい お休み。

〈 労い 〉

(4) Aが仕事に精を出すBと会い、Bの労をねぎらう際にどのようなやりとりを行うか。

001A : ア ナニシテタドゴッサー。

あ 何していたところですか。

002B : スコ° ドステダー。

仕事していた。

003A : アー ナントー ゴクローサンデゴザリッスー。  
あー なんと ご苦労さまでございます。

004B : ウーン オモイガラ アセ カイデダー。  
うーん 重いから 汗 かいてた。

005A : アー カラダ ヤスメナカ° ラ ヤラハリセー。  
あー 体 休めながら おやりなさいませ。

006B : ハイ アリカ° トヨー。  
はい ありがとよ。

007A : ハイ。  
はい。

〈 勧め 〉

(5) Aが、仕事をしているBに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり。

001A : ハイ イップグシタラー。  
はい 一服したら。

002B : ハーイ アンマリ ココ° マッテッドー コッサ [1] マカ° ッカラナ。  
はい あんまり かがんでいると 腰が 曲がるからな。

イップグスツガ。  
一服するか。

003A : ンダネー ヤスマハリセー。 (B ハイ) アマッコイモノデモ ドーゾー。  
そうだねー お休みなさいませ。 (B はい) 甘いものでも どうぞ。

004B : ハイ ドーモ アリカ° トー。  
はい どうも ありがとう。

005A : ハイ。  
はい。

〈 訪問時の声掛け 〉

(6) 昼間、AがB宅を訪れるときにどのように声をかけるか。また、返事をするか。

001A : コンニズワー。

こんにちは。

002B : オーイ。

おーい。

003A : イダノスカー。

いたんですか。

004B : ハーイ ヒトリ イダヨ。

はーい 一人で いるよ。

005A : アー ナントー ンジャ アノー ヨーダゲ ユツテ カエツカラッサー。

あー なんと それじゃ あのー 用だけ 言って 帰るからね。

006B : イヤ ユックリ アカ° ャツテ オジャッコ ノマイン。

いや ゆっくり [家に] 上がって お茶 飲んでください。

007A : ハイハイ。 ンデー アドデ クッカラー。

はいはい。 それでは 後で 来るから。

008B : アラー ナント イソク° ゴドー。

あら 何と 急ぐこと。

009A : ハイ。

はい。

〈 借用の依頼と受託 〉

(7) AがBにスコップを借りるときのやりとり。(Bが貸す場合)

001A : イマー アナホリシテタンダケントモッサー。

今 穴掘りしていたんだけどね。

002B : ウン。

うん。

気仙沼市 場面設定会話

003A : スコップー、サギ マグレデテ サツパ ホレネクテー、カリニ  
スコップ、先 めくれている さっぱり 掘れなくて、借りに

キタンダケントモ カシテケンネベガネスー。  
来たんだけども 貸してくれませんかねえ。

004B : ア イーヨ。 ソゴニ アツカラ モツテケ° ー。  
あ いいよ。 そこに あるから 持っていけ。

005A : ハイ コイツテ イーベガネスー。  
はい これで いいでしょうか。

006B : アー ソイズダー。  
あー それだー。

007A : ハイ ホンデ コイズ カリテイツカラ。  
はい それでは これ 借りていくから。

008B : ハーイ。  
はーい。

009A : ハイハイ。  
はいはい。

〈 お礼 〉

(8) Aが借りたスコップをBに返しに行ったときのやりとり。

001A : ア サッキ カリダ スコップー、 オカケ° サマデ シコ° ド  
あ さっき 借りた スコップ、 おかげさまで 仕事

ハガイッタヤー。  
はかどったよ。

002B : アー ソイズァ ウデカ° イーカラガナー。  
あー それは 腕が いいからかな。

気仙沼市 場面設定会話

003A : アー ソーダイガネ。 スコップ イガッタガモ。 {笑}  
あー そうだろうかね。スコップ [が] よかったかも。 {笑}

アリカ° ドゴザリシタ。  
ありがとうございました。

004B : ハーイ。 イガッタゴドワ。  
はい。 よかったこと。

005A : ハイ ドーモ ドーモ。 オガケ° サマデシター。  
はい どうも どうも。 おかげさまでした。

006B : ハーイ マダ ドーゾ。  
はい また どうぞ。

〈 破損の謝罪・許容・不満 〉

(9) AがBに借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとり。

(9-1) Bが構わないという場合。

001A : アノ サッキ カリデッタ スコップッサー、  
あの さっき 借りて行った スコップさ、

002B : ハーイ。  
はい。

003A : ナンダガ イシサ アダッタガ マグレデシマツテ コワシテシマッタヤー。  
何だか 石に 当たったか めくれてしまっ て 壊してしまっ たわ。

004B : ハイ イガッスヨー。 ソゴサ オイデッテケライン。  
はい いいですよ。 そこに 置いて行ってください。

005A : アラー アンマリダネー。 ワルイゴドー。  
はい あんまりだね。 悪いこと。

006B : ハーイハーイ。  
はいはい。



007A : モーシワゲナイネー。

申し訳ないね。

008B : ドーズドーズ。

どうぞどうぞ。

009A : アリカ° ドゴザリシタ。

ありがとうございました。

010B : ハーイ。

はい。

(9-2) Aが破損に対して不満を述べる場合。[2]

001B : オガケ° デ ゴボンワ ホッタケントモー スコップ コワスチマッタヤ。

おかげで 牛蒡は 掘ったけれども スコップ 壊してしまったよ。

ヤーヤ モーシワゲネーヤ。

いやいや 申し訳ないなあ。

002A : アラー ナンダベー。 オライデモ コイズスカネーノニ、 ナズスッペー。

あらー なんだろう。 私の家でも これしかないのに、 どうしよう。

003B : インデワー ベンショースルヨーダドイーガナー。

それでは 弁償するようだといいいかな。

004A : ベンショーマデ スナクテモ イーガラ コゴノ マグレダドゴダゲ

弁償まで しなくても いいから この めくれたところだけ

ナオシテケンネベカ。

直してくれないだろうか。

005B : アー ソンダラ オレモ タスカルナー。

あー それなら おれも 助かるなー。

006A : ハイー。

はい。

〈 誘いと断り 〉

(10) AがBを物産市に誘う際のやりとり。

001A : ア キョー アレ ブッサンイチカ° アツカラ イカ° ネッスカ。

あ 今日 あれ 物産市が あるから 行きませんか。

002B : ウン オレア アノー テンノーサマデ [3] オガク° ラ アツカラ (A ン)

うん おれは あのー 天王様で 御神楽 あるから (A うん)

エカ° レネーヤ。

行けないな。

003A : アー ソー。(B ウン) ナント セツカグノ ブッサンイチナンダゲツト

ああ そう。(B うん) 何と セツかくの 物産市なんだけど

ザンネンダネー。

残念だねー。

004B : アー ンダナー。

ああ そうだなー。

005A : アー ホンデ オラ イツテクツカラ。

ああ じゃあ 私 行ってくるから。

006B : ア イツテダイン。

あ 行ってらっしゃい。

〈 お見舞い 〉

(11) 体調を崩しているBに、Aが体の調子を尋ねる際のやりとり。

(11-1) Bの調子がいい場合。

001A : アレ ナント キノーマデ ゲンキデ イダツケー、 チョーシ ワルイッテ、

あれ なんと 昨日まで 元気で いたのに、 調子 悪いって、

ダイジョーブダイガ。

大丈夫だろうか。

気仙沼市 場面設定会話

002B : ウーン コノ アツササゲァー トーリスキ° レバ マダ モドニ モドツカラ。  
うーん この 暑ささえ 通り過ぎれば また 元に 戻るから。

003A : アー ナント シンパイシタヤー。(B イヤイヤイヤイヤ) キオツケデー。  
あー 何と 心配したよ。(B いやいやいやいや) 気をつけて。

004B : ハイ。  
はい。

005A : ヌックリ ヤスマハリセー。  
ゆっくり お休みなさいませ。

006B : ハイ。  
はい。

007A : マダ キテミツカラ。  
また 来てみるから。

008B : ハイ アリカ° トヨー。  
はい ありがとうよ。

009A : ハイハイ。  
はいはい。

(11-2) Bの調子が悪い場合。

001A : アレ ナント チョーシ ワルイゴッテー。  
あれ なんと 調子 悪いんだって？

002B : ウン ココンドゴ スコス スク° レナイ。  
うん ここのところ 少し [調子が] 優れない。

003A : ナンダベ カオイロー アンマリ ヨグ ネーネー。  
何だろう 顔色 あんまり よく ないね。

004B : ウン オメーサマカ° カオ ダサネーガラダ。  
うん あなたが 顔 出さないからだ。

005A : アラララ。 ンデ ビョーインサ イッテ ミデ モライッスぺ。  
あららら。 それでは 病院へ 行って 見て もらいましょう。

006B : ウン。  
うん。

007A : ソノホ イーガストー。  
その方 いいですよ。

008B : ウン ソー。  
うん そう。

009A : ウン。  
うん。

〈 申し出 〉

(12) 体の調子が悪く、家の片付けもできないというBに、Aが「(私が) 片付けてやろう」というときのやりとり。

001A : チョーシ ワルソーダガラー カタズゲサ キタガラー。  
調子 悪そうだから 片付けに 来たから。

002B : ア オリヤー ヒトリモンダガラ ナンダリ カタズゲラレット、 ショルイカ°  
あ おれは 独り者だから 何でも 片付けられると、 書類が  
テノ トドク ドゴニ アッカラ アンマリ カタズゲナイヨーニ タノムヨー。  
手の 届く 所に あるから あんまり 片付けしないように 頼むよ。

003A : ア ソースカ。(B ウン) ハイハイ。 ホンデ ネンブンニ  
あ そうですか。(B うん) はいはい。 それでは 適当に

カタズゲデ (B ハイ) カエツカラッサ。(B ハイ) イーベガ。  
片付けて (B はい) 帰るからさ。(B はい) いいだろうか。

004B : エーヨ。  
いいよ。

005A : ハイ。  
はい。

〈 禁止 〉

(13) 片付けの最中に、大事な写真をAが間違っ  
て捨てようとしているときに、Bがそれを  
制止してどのようにいうか。

001B : Aサン ソコンドゴ カタズケナイヨーニナ。  
Aさん その所 片付けないようにな。

002A : ハイハイ。  
はいはい。

003B : ソコニ ダイズナシャスン ハイッテツカラ。  
そこに 大事な写真 入っているから。

004A : ア コノシャシンネ。  
あ この写真ね。

005B : ウン ナケ° ナイデヨ。  
うん 捨てないでよ。

006A : ハイハイ アラアラ ワガリシター。  
はいはい あららら わかりました。

宮城県気仙沼市方言会話集（場面設定会話）注記

〔1〕 コッサ

「コス+サ」（腰サ）ともとれるが、当地にこのような格助詞「サ」の用法はないはずである。おそらく、「コス」（腰）に格助詞「が」に相当する「ア」が付き、「コスア>コッサ」の変化を起こしたものと思われる。

〔2〕 (9-2) Aが破損に対して不満を述べる場合。

この会話では、話者Aと話者Bとが役割を交替している。

〔3〕 テンノーサマ

天王様（テンノーサマ）は、気仙沼市八瀬（ヤッセ）地区塚沢（ツカザワ）にある八雲神社（ヤグモジンジャ）のこと。毎年、旧暦6月14日に塚沢神楽が奉納される。

宮城県気仙沼市方言会話集（場面設定会話）担当者

収録担当者 小林 隆（東北大学大学院文学研究科教授）  
崔 柳美（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）  
三沢由季子（東北大学文学部3年）

文字化担当者 小林 隆（東北大学大学院文学研究科教授）  
川越めぐみ（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）  
崔 柳美（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）

## 【 宮城県気仙沼市の方言概観 】

ここでは、今回の会話集に現れた特徴を中心に、伝統的な気仙沼市方言の音声や文法を概観していきます。

### Ⅰ 音 声

#### 【子音】

##### ▼カ・タ行の有声化

語中・語尾にあるカ・タ行の音が有声化し、ガ・ダ行になる。

☞これは簡単に言えば、単語の頭以外の位置にあるカ・タ行の音が濁音のガ・ダ行になり、濁って聞こえることです。専門的に言えば、母音に挟まれた無声子音/k/ /t/が有声子音/g/ /d/になることで、有声化と呼びます。単語の頭にあるカ・タ行は普通は有声化しません（下の例で言えば「柿」は「ガギ」にはなりません）。

例) カ行→ガ行 (k/→g/) : 開ける → アゲル、柿 → カギ  
タ行→ダ行 (t/→d/) : 旗 → ハダ、 的 → マド

この特徴は、今回の会話集の話者たちにもかなりよく保たれているようです。例えば、カ行音については、「オモイガラ」（重いから）、「サギ」（先）、「イップグ」（一服）、「ヨーダゲ」（用だけ）、「ワルイゴド」（悪いこと）、また、タ行音については、「イダ」（居た）、「コンニズワ」（今日は）、「アセ カイデダ」（汗かいてた）、「アドデ」（後で）、といった例が聞かれます。

ただし、完全にガ行やダ行に濁るのではなく、共通語の発音よりはやや濁っているといった程度の発音も多く聞かれます。それら軽度の有声化音も、文字化資料ではガ行・ダ行の文字で表示してあります。

##### ▼ガ・ダ・ザ・バ行の鼻音化

語中・語尾にあるガ・ダ・ザ・バ行の音が鼻音化する。

☞単語の頭以外の位置にあるカ行がガ行になることによって、「開ける」はアゲルとなり、「上げる」と混同してしまいそうです。しかし、「上げる」のほうは「げ」が鼻濁音、すなわち鼻にかかった濁音（「ヶ」のように半濁点で表記する）となり、



「開ける」＝アゲル

「上げる」＝アケ°ル

で両者の混同は起こりません。このように、「げ」が鼻にかかる現象を鼻音化と言います。

今回の会話集の話者たちもこの特徴を持っています。例えば、「ヤスメナカ°ラ」(休めながら)、「トリスキ°レバ」(通り過ぎれば)、「イソク°」(急ぐ)、「オガケ°サマ」(おかげさま)、「スコ°ド」(仕事)のような発音が聞かれました。ただし、鼻にかかっているのかいないのか微妙で、聞き取りの難しいケースも多くありました。そうした問題を含むものの、文字化資料では一律に鼻濁音で表記してあります。

以上のガ行に加えて、同じようにダ・ザ・バ行も鼻音化します(ここでは「ンダ・ンゼ・ンビ」のように上付きのンで表記します)。

例) ダ行：肌 → ハンダ  
 ザ行：風 → カンゼ  
 バ行：首 → クンビ

以前は、気仙沼市でもこうした発音が行われていたものと思われていますが、現在は衰微が著しく、今回の話者たちからはほとんど聞かれませんでした。

#### ▼キ(キャ行)の口蓋化

キが「チ」に近く発音される。また、キャ、キュ、キョも「チャ、チュ、チョ」と似たように発音される。

☞これは「口蓋化」と呼ばれる現象の一種です。この場合の口蓋化とは、キの発音をするときに、舌の前の部分が上あご(硬口蓋)に接近する現象を指します。

例) 機械(きかい) → チカイ  
 救急車(きゅうきゅうしゃ) → チューチューシャ  
 今日(きょう) → チョー

上の例では、「チ」と表記しましたが、気仙沼では完全にチになるのではなく、キのあとにシの発音を添えるような微妙な音になることが多いようです。今回の会話集の話者たちにもこの特徴は見られ、「ヤルチ」(やる気)のような例が聞かれます。しかし、概してこの傾向は強くは現れていません。

## 【母音】

### ▼イとエの統合

イとエが同じ発音となる。

☞母音単独で発音されるイとエは区別されず、ともにエに近い音になります。

例) 息 (いき)、駅 (えき) → 両方ともエギ  
鯉 (こい)、声 (こえ) → 両方ともコエ

今回の会話集の話者たちからも、「エカ° レネー」(行かれない)、「エレレバ」(入れれば)、「エラレナガッタ」(居られなかった)などの例が聞かれます。ただし、この特徴も弱まってきており、イとエが似たような発音になるものの、完全に同じではなく、一応区別はするという状態になりつつあるようです。

### ▼シとス、ジとズ、チとツなどの中舌化

イ段音とウ段音が近い音となる。

☞イの音がウの音に近づく現象(またはその逆も)を「中舌化」(ちゅうぜつか、なかじたか)と言います。宮城県ではイ段音とウ段音でこの中舌化が起き、ニとヌ、ミとム、リとルなどが互いに近い音になります。これらは一応の区別がありますが、シとスに関しては両方とも「ス」、ジとズは両方とも「ズ」、チとツは両方とも「ツ」のように発音され、これらは区別がありません。いわゆるズーズー弁と呼ばれる所以です。

例) 獅子 (しし)、煤 (すす)、寿司 (すし) → すべてスス  
知事 (ちじ)、地図 (ちず)、辻 (つじ) → すべてツズ

今回の会話集の話者たちからも、「スコス」(少し)、「センエンスカ」(千円しか)、「ツカ° ウ」(違う)、「マイニズ」(毎日)、「ダイズナシャスン」(大事な写真)などの発音が聞かれました。

ただし、現在ではこの中舌化の特徴も弱まりつつあり、シとス、ジとズ、チとツが、似た発音ではあるものの一応の区別はなされている、という段階に入りつつあります。共通語とあまり変わらない発音が聞かれることも多くなっています。

## Ⅰ アクセント

気仙沼市のアクセントは、宮城県中・南部の無型アクセントとは異なり、アクセントの型をもつ有型アクセントである。

☞例えば「橋」と「箸」を声に出したときに、有型アクセントの地域ではハとシの音の高低が決まっています（＝型が有る）、それによって単語の区別がつかますが、無型アクセント地域では高低が決まっていない（＝型が無い）ため、区別されません。

低い発音を細い文字、高い発音を太い文字で表すと、気仙沼市の場合、「橋」と「箸」は、単語のみ発音したときには両方とも、[ハシ] ないし [ハシ] のような似た発音になりますが、助詞をつけて「橋が」「箸が」と発音すると、「橋が」の方は [ハシガ～ハシガ]、「箸が」の方は [ハシガ] のようになり、区別が現れます。

高年層においては、共通語の [ハシガ] のように単語の頭が高い発音はあまり聞かれません。ただし、世代が下るにつれ共通語化が進み、若い世代では、そうした単語の頭が高いアクセントも聞かれるようになってきています。

## Ⅰ 文 法

### 【格助詞】

#### ▼ 「が」「を」の不使用

共通語の「が」「を」にあたる格助詞を使わないことが多い。

☞共通語の「が」のような主語を表す助詞や、「を」のような目的語を表す助詞が用いられず、以下のように無助詞で表示されることがよく見られます。特に、「を」にあたる助詞に顕著です。

例) 主語 : 俺 行く (俺が行く)

目的語 : 酒 飲む (酒を飲む)

今回の会話集の話者たちからも、「ス Copp イガッタガモ」(ス Copp がよかったかも)、「ダイズナシャスン ハイッテッカラ」(大事な写真が入っているから)、「ス Copp コワスチマッタ」(ス Copp を壊してしまった)、「コイズ カリテイッカラ」(これを借りて行くから) などのように、「が」や「を」を使わない発話が聞かれました。

▼「サ」

共通語の「へ」「に」に当たる格助詞に「サ」がある。

☞「サ」は共通語の「へ」よりも意味が広く、「に」に重なるところも多くあります。

- 例) ドゴサ イク<sup>°</sup> ノー (どこへ行くの)  
ビョーインサ イッテ (病院へ行って)  
エサ カエッデキデ (家に帰ってきて)  
カタズゲサ キタカラ (片付けに来たから)  
ココサ トマッテタ (ここに泊まっていた)

ただし、「サ」は共通語の「に」ほど広い意味をもっているわけではありません。微妙なのは存在の場所を表す用法であり、今回の会話集でも、「シズカ<sup>°</sup> ワサ イルノデ」(志津川に居るので)のように「サ」を使った発話例が聞かれる一方、「ソゴニ アツカラ」(そこにあるから)のように「サ」を使わず「ニ」を用いた発話例もあります。気仙沼市では、もともと「～サ 居る」「～サ ある」という言い方はしませんでした。が、しだいに、そのような言い方をするようになってきたものと考えられます。

【副助詞】

▼「サケア」

共通語の「さえ」にあたる副助詞として「サケア」が使われる。

- 例) ジモトニイテサケア ヤンネアノニ (地元に住てさえやらないのに)  
アツササゲア トーリスキ<sup>°</sup> レバ (暑ささえ通り過ぎれば)

【接続助詞】

▼「ガラ」

共通語の「から」に当たる接続助詞(順接既定条件)に「ガラ」がある。

☞「ガラ」の用法は共通語の「から」とほぼ同じと思われます。共通語同様、次のように、終助詞的に使用されることもあります。

- 例) ツナミ コネアガラネ (津波は来ないからね)  
クエナエワゲデ ナイガラネ (食べないわけではないからね)  
エレレバ イード オモッデッガラネ (入れればいいと思っているからね)

▼「ケント (モ)」

共通語の「けれど (も)」に当たる接続助詞 (逆接既定条件) に「ケント (モ)」がある。

☞「ケント (モ)」のほかに、「ケンド (モ)」「ゲント (モ)」といった濁音の加わった形も使用されます。

例) カリニ キタンダケントモ カシテケンネベガネスー。(借りに来たんだけど、貸してくれませんかねえ)  
マズイケンド クエナエワゲデナイガラネ (まずいけれど、食えないわけではないからね)

☞「カラ」と同様、終助詞的に使用されることも多いようです。

例) コネガラ アンシンシテッケントー (来ないから安心しているけれど)  
アナホリ シテタンダケントモッサー (穴掘りをしていたんだけどね)

☞「ケ」という語が使われることもあります。共通語の「のに」にあたる感じです。

例) キノーマデ ゲンキデ イダッケー、チョーシ ワルイッテ、ダイジョーブダイガ。  
(昨日まで元気でいたのに、調子悪いって、大丈夫だろうか)

【接続詞】

▼「ンダガラ」「タ (ッ) ケ」「ンデ」「ンダゲッド」

共通語の「だから」にあたる「ンダガラ」、「そしたら」にあたる「タ (ッ) ケ」、「それでは」にあたる「ンデ」、「だけど」にあたる「ンダゲッド」などが用いられる。

例) ンダガラ モッテガレネーンダイヤ (だから、持って行かないんだよ)  
タケ ソンナゴド アンノスカッテ イッタテネ (そしたら、そんなことあるのですかって、言ったってさ)  
ンデ ビョーインサ イッテ ミデモライッスペ (それでは、病院へ行って見てもらいましょう)  
ンダゲッド ツゴー ワルイガラッテ (だけど、都合が悪いからって)

☞今回の会話集には現れていませんが、「ンダガラ (ホンダガラ、ダガラ)」は、単独で相づちのようにも使われ、相手の言ったことへの強い同意・共感を表す用法もあります。

例) ー今日、暑イゴド (今日は暑いね)  
ーンダガラ ((本当に) そうだね)

### 【助動詞】

#### ▼「べ」

共通語の「～だろう」(推量)や「～しよう」(意志)に相当する助動詞に「べ」がある。

☞「べ」は<推量><意志>のほかにも<確認><勧誘>などがあり、その用法は多岐にわたります。また、「取る、起きる、来る」など「る」で終わる動詞に接続するときは「る」が「ッ」となる促音便が生じ、それぞれ「トッペ、オギッペ、クッペ」のようになります。

|                            |      |
|----------------------------|------|
| 例) 明日、雨だべ。(明日雨だろう)         | <推量> |
| 明日は早く起きッペ。(明日は早く起きよう)      | <意志> |
| お祭り、お前も行くべ?(お祭り、お前も行くだろう?) | <確認> |
| みんなでがんばッペ。(みんなでがんばろう)      | <勧誘> |

今回の会話集では、「オモイヤリモ タンネンデネベガ」(思いやりも足りないのではないだろうか)、「コイッテ イーベガネッスー」(これっていいでしょうかねえ)などのように「～ベガ」の形で相手に確認をとる用法が見られます。また、「ナンダベ カオイロー アンマリ ヨグ ネーネー」(何だろう、顔色があまりよくないね)、「オライデモ コイズスカネーノニ、ナゾスッペ」(私の家でもこれしかないのに、どうしよう)などのように、「ナンダベ」「ナゾスッペ」の形で感動詞風に使う発話も聞かれます。

### 【終助詞】

#### ▼「チャ」

共通語の「だろ」「じゃない(か)」「よね」などにあたる終助詞として「チャ」が用いられる。

☞相手が知っているはずだ、当然わかるはずだ、と思う事柄を示し、相手に確認させる機能があります。今回の会話集では、次のような例が聞かれます。この場合、「何で歩かないの?」といった非難の感情が込められています。

例) アルケバイーッチャ (歩けばいいじゃないか)

▼「ダイガ」

共通語の「だろうか」にあたる終助詞として「ダイガ」が使用される。

例) ダイジョーブダイガ (大丈夫だろうか)

ガマンカ° タリナインダイガネー (我慢が足りないんだろわかねえ)

☞今回の会話集には「ダイヤ」という終助詞も登場します。こちらは「ダイガ」とは違って、共通語の「だよ」にあたるもので、強く断定する気持ちが込められていると思われます。

例) モツテカ° レネーダイヤ (持って行かれないんだよ)

▼「オンネ」

共通語の「もんね」にあたる終助詞として「オンネ」が用いられる。

例) カエツテコレネガッタオンネ (帰って来られなかったもんね)

ンダオンネー (そうだもんねー)

▼「ネス」

丁寧に相手にもちかける終助詞として「ネス」が使用される。

例) カシテケンネベガネス (貸してくれませんかねえ)

コイツテ イーベガネッスー (これっていいでしょうかねえ)

【敬語】

▼「ス」「ガス」「ゴザリス」「ハリス」「(ラ)イン」

敬意を表す形式として「ス」「ガス」「ゴザリス」「ハリス」「(ラ)イン」などがある。

☞共通語との対応を考えると、大まかに言って、「ス」は「です」「ます」、「ガス」は「です」、「ゴザリス」は「ございます」、「ハリス」は「なさいます」などにあたります。「(ラ)イン」は相手に丁寧に働きかける言い方で、柔らかい印象を与えます。

例) ブッサンイチカ° アッカラ イカ° ネッスカ。(物産市があるから行きませんか)

ハイハイ ワガリシター (はいはい、わかりました)

オヒル タベダノスカー (お昼食べたのですか)

ソノホ イーガストー (その方がいいですよ)  
ソノタンビ チカ° ウガスト (その度に違うんですよ)

ゴクローサンデゴザリス (ご苦労さまでございます)  
アリカ° ドゴザリシタ (ありがとうございました)

カラダ ヤスメナガラ ヤラハリセー (体を休めながらおやりなさいませ)  
ユックリ ヤスマハリセー (ゆっくりおやすみなさいませ)

オジャッコ ノマイン (お茶を飲んでください)  
ソゴサ オイテッテケライン (そこに置いて行ってください)

#### ▼「ダイ(ン)」

共通語の「いらっしゃい」にあたる言い方として、「ダイ(ン)」を用いる。

例) ダイッテ イワレダンネ (いらっしゃいって言われたのね)  
イッテダイン (行ってらっしゃい)

☞お客を送り出す挨拶言葉として、気仙沼市では「マタダイン」(またいらっしゃい)という言い方をよく耳にします。

#### 【接尾辞】

#### ▼「～コ」

名詞のあとに「～コ」を付けて、そのものへの親近感を表す。

例) オジャッコ ノマイン (お茶を飲んでください)  
カネッコ ハタイデ (お金をはたいて)

- ◆以上のほか、パンフレット『支援者のための気仙沼方言入門』にも、特徴的な単語を含めて気仙沼市方言の特色を解説しておきましたので、参考にしてください。この Web サイトの次のページでご覧になれます。

<http://www.sinsaihougen.jp/大震災と方言活動情報/支援者の方へ/>



【参考文献】

- 加藤正信（1969）「東北方言概論」『言語生活』210
- 加藤正信（1992）「宮城県方言」平山輝男・大島一郎・大野眞男・久野眞・久野マリ子・杉村孝夫編『現代日本語方言大辞典 第1巻』明治書院
- 小林隆編（2012）『宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究』東北大学国語学研究室
- 佐藤亨（1982）「宮城県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会
- 菅原孝雄（2006）『けせんぬま方言アラカルト 増補改訂版』三陸新報社
- 東北大学方言研究センター（2012）『方言を救う、方言で救うー3.11被災地からの提言ー』ひつじ書房



みなみ さん りく ちょう  
南 三 陸 町



志津川湾

(写真提供：宮城県観光課)



## 宮城県本吉郡南三陸町概要

### ①南三陸町の概観

南三陸町は、宮城県北東部、本吉郡の南端に位置する。東は太平洋に面して志津川湾を抱き、西・南・北の三方は北上山地につながる丘陵地となっている。南三陸町の沿岸一帯は南三陸金華山国定公園に指定されており、リアス式海岸の美しい景観を見せている。

南三陸町は良好な漁場を多く有し、漁業が町の中心産業となっている。志津川湾でおこなうカキ、タコ、アワビ、ホタテ、銀ザケなどの養殖漁業がもっとも盛んである。かつては養蚕業も盛んであったが、現在はほとんどおこなわれていない。農業では以前のタバコ栽培や稲作から輪菊のハウス栽培へと転作が進んできた。畜産では霜降り牛肉の産地として「仙台牛」が飼育されている。

### ②収録地点について

町の中央部にある旧志津川町が、行政、経済、教育の中心であり、調査地点である南三陸町入谷地区はそこから内陸に約5キロ、車で10分弱の場所に位置している。

### ③東日本大震災による南三陸町の被害

南三陸町では震度6弱の揺れを記録した。15メートルほどの大津波は志津川湾到達後に町内の3本の川を遡上しながら中心地である志津川地区を襲った。これにより、役場、防災庁舎、公立病院など多くの施設が壊滅し、甚大な被害をもたらした。

表1 南三陸町の人的・住宅被害

| 南三陸町<br>人口 | 人的被害 |      |                  | 住宅被害   |      |
|------------|------|------|------------------|--------|------|
|            | 死者   | 行方不明 | 死者・行方不明<br>の対人口比 | 全壊     | 半壊   |
| 17,429人    | 566人 | 310人 | 5.03%            | 3,142棟 | 166棟 |

表2 南三陸町の浸水被害

|    | 浸水範囲の被害 | 割合    |
|----|---------|-------|
| 人口 | 14,389人 | 82.6% |
| 世帯 | 4,375世帯 | 82.6% |

※ 本文の内容は、衛藤（2012）P.135～141に  
依拠する部分が多い。特に、表1・表2は  
衛藤（2012）のデータをそのまま引用した。

### 参考文献等

衛藤英達（2012）『統計と地図でみる東日本大震災市町村のすがた』日本統計協会  
南三陸町ホームページ（<http://www.town.minamisanriku.miyagi.jp/>）（2013/02/23 アクセス）

## 被災地方言会話集

— 宮城県本吉郡南三陸町 —

### <自由会話>

#### 自由会話の概要

収録地点 宮城県本吉郡南三陸町

収録日時 2012（平成24）年7月7日

収録場所 宮城県本吉郡南三陸町入谷（話者A宅）

話題 【震災のときのこと／昔の仕事のこと】

#### 話者〔1〕

|   |   |             |          |          |
|---|---|-------------|----------|----------|
| A | 女 | 1939（昭和14）年 | （収録時73歳） | [B・Cの知人] |
| B | 女 | 1928（昭和3）年  | （収録時84歳） | [A・Cの知人] |
| C | 男 | 1952（昭和27）年 | （収録時59歳） | [A・Bの知人] |
| D | 男 | 1982（昭和57）年 | （収録時30歳） | [調査者]    |

#### 話者出身地

|   |               |
|---|---------------|
| A | 南三陸町入谷（イリヤ）   |
| B | 南三陸町入谷（イリヤ）   |
| C | 南三陸町志津川（シヅガワ） |

【震災のときのこと／昔の仕事のこと】

話し手

|   |   |                |            |       |
|---|---|----------------|------------|-------|
| A | 女 | 1939 (昭和 14) 年 | (収録時 73 歳) |       |
| B | 女 | 1928 (昭和 3) 年  | (収録時 84 歳) |       |
| C | 男 | 1952 (昭和 27) 年 | (収録時 59 歳) |       |
| D | 男 | 1982 (昭和 57) 年 | (収録時 30 歳) | [調査者] |

001C : Bサン アノー、タカノカイカンカラ (B ウン) ヘリコプターデ  
Bサン あの、高野会館から (B うん) ヘリコプターで

ダッシュツシタンデシヨ。

脱出したんでしょ？

002B : ウン。ンダヨ。  
うん。そうだよ。

003C : デ、ソノ、アト  
で、その、あと

004B : ソーステ、ショーカ°ッ チューカ°ッコサ オロサイダノネ。  
そうして、×××××× 中学校に 降ろされたのね。

ヒコーチデ キテ。ホシテ、コンダ チューカ°ッコガラ ショーカ°ッコサ  
飛行機で 来て。そして、今度 中学校から 小学校へ

シケデ [2] ツェデコライダノ。ソッテ ソゴノ ショーカ°ッコサ  
手を引いて 連れて来られたの。そして その 小学校で

トマッタノ。  
泊まったの。

005C : シズカ°ワショーカ°ッコサ。  
志津川小学校？

006B : ウン。(C ン一) シズカ°ワ ショーカ°ッコー。

うん。(C ん一) 志津川 小学校。

007C : イリヤワ マダ カエッテナインダ。イツ コッチニ カエッテキタノ。

入谷は まだ 帰ってないんだ。いつ こっちに 帰ってきたの？

008B : ツキ°ノシノネ、ユーカ°ダナー。フツカミノ。

次の日のね、 夕方なあ。 二日目の。

009C : ジュー、ニニチ。

十、 二日？

010B : ゴコ°ニ ムゲタ ムゲサ キサイダモンネ。

午後に 迎えた 迎えに 来られたもんね。

011C : ジューイチニジ (B ウジガラ) ワ、タカ

十一日 (B うちから) は ××

012A : ジューサンダベオン。

十三だろうよ。

013C : ジューサンニチ。(B ジューサンニズガナー。)

十三日？ (B 十三日かなあ。)

014A : ウン。フツカコ°。(B フツカダラナ)

うん。二日後。(B 二日ならな)

015C : フツ、フツカメニネ。(B ウン) カエッテキタノ、ウチニ。(B ハイ)

××、二日目にね。(B うん) 帰ってきたの、うちに。(B はい)

ヨガッタネ。

良かったね。

016B : ナーヌ一、ダレモ ショーカ°ッコーニ イネンダドヤ。ミナ

何、 誰も 小学校に いないんだよ。みんな



ムゲサ デテキテ。(A ンー) オラバリ イデ。オレド  
迎えに 出てきて。(A うん) 私だけ いて。私と

X1サンバリ。(A ンー) ミエネノ。 サムイモノ サムー、  
X1さんだけ。(A うん) [迎えが] 見えないの。寒いもの 寒い、

カーテン ハンズシテ {笑} カーテンサ クルマッテッサ。サン ミンダモノ。  
カーテン 外して {笑} カーテンに くるまってさ。 寒いんだもの。

017C : サムインダ。サムインダネー。(B ウーン) アシワ ツメタイシ。  
寒いんだ。寒いんだねえ。(B うん) 足は 冷たいし。

018B : アスワ ツメタイシ。ンー。  
足は 冷たいし。うん。

019A : ナンジョニ ミンナ マジサ イク°ド モッテ リッパナノ キテーナ  
なぜか みんな 町に 行くと 思って 立派なの 着てな

ウスキ°シテ イッタベガラサ  
薄着して 行っただろうからさ

020B : ホーステネア カイカンカ° ホドツカラッテネ (A ウン)  
そうしてね 会館が 温まるからってね (A うん)

アッタカイガラッテ、ウスキ°シテ ゴザッタモンダ。  
暖かいからって、 薄着して いらっしやったもんだ。

(C ウン) (A ウン) ホンダッテ オラエノ (C ゴザッタガ) {笑} [3]  
(C うん) (A うん) だって うちの (C ゴザッタか) {笑}

オガサマ、 ナーヌ (C ンー) オバーチャン ウスキ°デ インダオ  
お母さん[が]、なーに (C ンー) おばあちゃん 薄着で いいんだよ

ツッテサー アー ウスキ° シテッテッチャ [4] ホドット モッテ、  
と言っさ ああ 薄着 していつてるでしょ 温まろうと 思って、

サンミノ サミノ。ホナノ ズスンデ ンノー シャンデリア  
寒い の 寒い の。そんな の 地震 で あの シャンデリア

ザク°ザク°ザク°ザク°ザク°ド。(C ン一) イッペ ユレデッサ、  
ザグザグザグザグザグと。(C うん) いっぱい 揺れてさ、

アイズア オツテキテ、オラ ミンナ  
あれが 落ちてきて、私 みんな

021C : シャンデリア (B イシ) デシヨ。  
シャンデリア (B ××) でしょ?

022B : ン一、シャンデリア。  
うん、シャンデリア。

023C : ネ。  
ね。

024B : コイズア オツテキテ オラ ミンナ スヌドツテ イッタノ。  
これが 落ちてきて 私 みんな 死ぬぞって 言ったの。

(C アラー) ナンナモネーヤッタド ヨグ ジンミシテ  
(C あら) 何もなかったよ よく 吟味して [=念を入れて]

コヒェダモンダナー。アスコ イッペニ ヘツテランダ、ンデ、 シト。  
作ったもんだなあ。 あそこ たくさん 入ってるんだ、それで、人。

コンダ ミンナ ウッショサ モン ミンナ ウッショサ モンドレッテ。  
今度 みんな 後ろに × みんな 後ろに 戻れって。

(A ン一) ホンドギ ホレ、Y1ノ [5] ロージンクラブノ  
(A うん) その時 ほら、Y1の 老人クラブの

カイチョサンカ°ネー、クルマ オイデッタガラ、スタサ、オイダガラ、カイカ  
会長さんがね、 車 置いてたから、下に、 置いたから、×××

025C : Y1ッテ X2。

Y1って X2?

026A : ウン、X2。(B X2)

うん、X2。(B X2)

027C : アー。

ああ。

028A : X2、カイチョーサンダ。コゴノ。

X2、会長さんだ。ここの。

029C : アー ソーナンダ。(A ウン) Y2ネ。[6] (A ウン)

ああ そうなんだ。(A うん) Y2ね。(A うん)

030B : アノシトニ ノシエラエデ イッタノサ。イガネーバ イガッタノサ。

あの人に 乗せられて 行ったのさ。行かなければ 良かったのさ。

ヤー、ヨッタヨッタ.....。{笑} アー、ムリ スンナーッテ。

いやあ、.....。{笑} あー、無理 するなって。

031C : {笑} マサガ コーナッドモ オモワナイモノ。

{笑} まさか こうなるとも 思わないもの。

032A : ウン。

うん。

033B : ン ヨロゴンデ ヌッテッタベガヤー。ホーツァケ マンド アゲダダッケ

ん 喜んで 乗っていったかなあ。そうしたら 窓 開けてたら

034C : X2モ トマッタノ。

X2も 泊まったの?

035B : X2モ オラド イッシュヨニ トマッタ。(C アー)

X2も 私と 一緒に 泊まった。(C ああ)

イノスタズ スンダド モッタツツ。フツカモ イカネガラ。  
家の人たち 死んだと 思ったって。二日も [家に]行かないから。

036C : ア、ダヨネー。  
あ、だよねえ。

037B : Y2デ。  
Y2で。

038A : ウーン。  
うん。

039B : オラノ ズンツァモ ナヌ スンダド オモッテ アジラメッタット。  
私の じいちゃんも なに 死んだと 思って 諦めていたって。

ホンデ タネサモ [7] コネデ。{笑}  
それで 探しにも 来ないで {笑}

040C : アソゴデ ナンビャグニンモノ、イタンダモンネー。  
あそこで 何百人もの、 [人が]いたんだもんねえ。

041B : イタンダモノー。  
いたんだもの。

042C : ヨグ タスカッタッテバ。  
よく 助かったよね。

043B : ヨグー タスカッタ。  
よく 助かった。

044C : ネー。  
ねえ。

045B : ウーン。オレ、ヒトアス サキサネア、アノー、アレ、ンド、  
うん。私、一足 先にね、 あのー、あれ、んと、

Y3ノスト [8]、オンバーサンタズァ デヒヤッタノ。ホノスタズカ°  
Y3の人、 おばあさんたちが 出たの。 その人たちが

ナカ°サイダツツー。デヒヤッテスマツテタガラ。(A アー) (C アー)  
流されたって。 出てしまったたから。(A ああ) (C ああ)

イク° トズニ。デハネンデ イレバイガッタノサ。(C アー、アー)  
行く 途中に。出ないで いればよかったのさ。(C ああ、ああ)

オラミデニ。ダメダ、アンナンドゴサツテ  
私みたいに。だめだ、あんなところに[行くのは]と言って

スンブドグステ イダガ タスカッタヤ。  
しぶとくして いたから 助かったよ。

046A : ーン ーン。マズナ、スンブドイ スタズァ イガッター。ホントヌ。{笑}  
うん うん。まあね、しぶとい 人たちは よかった。 本当に。 {笑}

047B : ホントニヤ。オラ ワッシェライネーヤ。  
本当にさ。 私 忘れられないよ。

048A : ウーン。  
うん。

049B : ントニ コイズァ スヌゾンノ。(A ウン) ネデモ オギデモ。ナンーダベ。  
本当に これは 死に損の。(A うん) 寝ても 起きても。なんだろう。

(C ウーン) クーモノワ ネー、ハラワ ヘル。(C ウーン) ノミモノモ  
(C うん) 食べるものは ない、腹は 減る。(C うん) 飲み物も

ナンデモ カイッカンデモ ホレ、ナヌ、ジュースンナノ ネーツチャ。  
なんでも 会館でも ほら、なに、ジュースなんか ないよね。

ナンボンモ。(A ウン、ウン) (C ウン) ゴホン ズッポン モツテキテサ、  
何本も。(A うん、うん) (C うん) 5本 10本 持ってきてさ、

アノ X3 アレ、アノヒト (A ウン) ナンツ ヒトダ。

あの X3 あれ、あの人 (A うん) なんていう 人だ？

(C ウン) エライヒトネー。

(C うん) 偉い人ねえ。

050 C : X3サンカナ。

X3さんかな？

051 B : ウン、X3サン。(A ウン、X3サンツーヒトダ)

うん、X3さん。(A うん、X3さんっていう人だ)

コイズ ミンナデ ワゲルド モタッテ イギズリシタ ナニ  
これ みんなで 分けようと 思ったって \_\_\_\_\_

シトリ サップド ノンデ マーッテクルノモ コネーモンダ。{笑}  
一人[で] すっかり 飲んで 回ってくるのも 来ないもんだ。{笑}

ハラ ヘッテツカラ。(C ア、ソーソー)

腹 減っているから。(C あ、そうそう)

052 A : ンーー。

うーん。

053 B : ナンヌモ ネガッタナー。オラホネヤ。

何にも なかったなあ。うちのほうにさ。

054 C : アー、ンダヨネ、サ (A ンー) サンビヤグニンガラノヒト

あー、そうだよ、× (A んー) 三百人 からの人[が]

イダンダモノネー。(A ンー、ンー) ミンナニ マワンネー。

いたんだものねえ。(A うん、うん) みんなに 回らない。

055 A : マンンネ マンンネ。(B サンンービヤグニン)

回らない 回らない。(B 三百人)

056 C : アリヤ ムリダ。(A ウン)

あれは 無理だ。(A うん)

057 B : ムリダ ムリダ。ホドルバリモ ホドツタラ イッペ。 ナンダベ。

無理だ 無理だ。温まるだけでも 温まったら いいだろう。なんだろう。

ソイツ アノ コンクレーノ ナガサゴソ オラ ヘアッテスマッタモンダ、  
それ あの コンクリの 中にこそ 私 入ってしまったもんだ、

アレ。エレベータノ チケー ヘッタドゴサ ヘッテスマッタガ。  
あれ。エレベータの 機械 入ったところに 入ってしまったから。

(C アー) ヌゲベ ヌゲベッテ。

(C ああ) 暖かいだろう 暖かいだろうって。

058 C : アー、ソーナノ。{笑} エレベータノ ナカニ ハイッタノ。

ああ、そうなの。{笑} エレベータの 中に 入ったの？

059 B : ンー、アンナ チケー ニデー アンダデバ。アスグヌ。(C ウン)

んー、あの 機械 二台 あるんだよ。あそこに。(C うん)

エレベータノ チケ ル。ソイズー スヌダグネーガラ ヘエッタラ、  
エレベータの 機械 ×。それ 死にたくないから 入ったら、

ナンズニ、コンクリダエッチャ、スタモ。

どうして、コンクリじゃないか、下も。

060 A : ハイ、コレ バーチャンノ、ソソデ。[9]

はい、これ ばあちゃんの、シオデ。

061 C : オ、アー。

お、ああ。

062 B : タダチ タダデ イーヨー。

××× たただで いいよ。

063A : ナーndaヨ。サン  
なんだよ。 ××

064C : {笑} タダデ イーノ。  
{笑} ただで いいの？

065B : ndaガラ ナンジョノ タダ (A シー) サンミンダ。  
だから どうにも ただ (A んー) 寒いんだ。

コンクリノ (A ンアー) {蠅を叩く音} ナガダガラ。(A シー)  
コンクリートの (A うん) {蠅を叩く音} 中だから。(A うん)

(C アッチャー) [10] イヤー、 イヤーノ ヨグー スヌ スナネガッター。  
(C あっちゃあ) いやあ、 いやあの よく ×× 死ななかつた。

オラモナー。ンデ マンダ イギノゴツテダ。  
私もなあ。 それで まだ 生き残ってた。

066C : ダイジョブ。  
大丈夫。

067B : ダイジョブダガ。(C ウン)  
大丈夫か。(C うん)

068A : ンダ。バーチャン、マダ ワゲーオン。(B シー) (C ウン) ダイジョブ。  
うん。ばあちゃん、まだ 若いもの。(B んー) (C うん) 大丈夫。

069C : マイニジ (B ンダー) コー シャベッテット (A ウン) ダイジョーブダ。  
毎日 (B ×××) こう シャベっていると (A うん) 大丈夫。

(A ウン)

(A うん)

070B : ndaツテ シルマ シャツパリ シャンベル イエデ ネーデバ。 {笑}  
だって 昼間 さっぱり 話す 家で[は] ないじゃない。 {笑}



イマ マサガ ドッカラモ ズンツァン カリデクルワケデネ {笑}  
今 まさか どこからも じいさん[を] 借りてくる訳で[も]ない。 {笑}

071A : ズンズバ イラネガラ、 アド。  
じいちゃんは いないから、あと。

072B : ウン、イラネ イラネ。 シトリノホカ イ。 {笑}  
うん、いない いない。一人の方が いい。 {笑}

073A : ズンズダデ マダ シナネーダラネー。 (B カド クマサキタ ンナ)  
じいちゃんだって まだ 死なないならねえ。 (B ×× ×× ××)

シーナ オメ、タイヘンダ。  
そんな お前、大変だ。

074C : イマ ヒトリデ イルノ。  
今 一人で いるの?

075B : ソー、ワゲ (A ホーライ アレー) ムスコド (C ム) オッカサン  
そう、若い (A ほら あれ) 息子と (C ×) お母さん[と]

(A ムスコド) (C ムスコ) イルノ。 (A シー)  
(A 息子と) (C 息子) いるの。 (A うん)

076C : ジャー、ダイジョーブジャン。  
じゃあ、大丈夫じゃん。

077A : サンニンダ。  
三人だ。

078C : ダヨネー。  
だよねえ。

079B : シー、サンニンダ。タマヌ、オハナス カダリヌ  
うん、三人だ。 たまに、お話し[を] 話しに

ゴンザッテクダサイ。

いらっしゃってください。

080C : オレ。 {笑}

俺? {笑}

081B : ウン。 {笑} サミスイ。

うん。 {笑} さみしい。

082A : ア ダンデモ イーノツシャ、ナンナネア。

あ 誰でも いいんです、なんならね。

083C : アー。アド アレダネ。ムガシノコトワ キキタイコト アルケドネ。

ああ。あと あれだね。昔のことは 聞きたいこと あるけどね。

084B : ンダナー。

そうだねえ。

085C : シ シコトニ ナッテシマウケド。オチャノミバナシワ チョットナー。

× 仕事に なってしまうけど。お茶飲み話は ちよつとなあ。

086D : {笑} ゼヒ イマ オチャノミバナシグライノ ムカシバナシ、

{笑} ぜひ 今 お茶飲み話ぐらいの 昔話、

ゼヒ (C アー) キーテミテ クダサイヨ。 {笑}

ぜひ (C ああ) 聞いてみて くださいよ。 {笑}

087B :        クロバガリストナ。 (A ウン) {笑} Aチャン ナ、

       苦勞ばかりしてな。 (A うん) {笑} Aちゃん ね、

(A ウン) オシェライネ。 (A ウン) (C ウン)

(A うん) 教えられない。 (A うん) (C うん)

088A : クロースタ コドダガラ、オシェーロト。

苦勞した ことだから、教えろと。

089 C : タンボノ (B ユーゴド) オ コドダノ一、ウ一、ホラ、ヤマ  
田んぼの (B 言うこと) × こととか、 ん一、ほら、山[で]

スミヤギ シタコトダノッテ アンデナイノ、 イッパイ。  
炭焼き したこととあって あるんじゃないの、いっぱい。

090 B : アンノツサ、イッペーナ。 (A ウン)  
あるのさ、 いっぱいね。 (A うん)

091 D : アー、スミヤキナンカ  
ああ、炭焼きなんか

092 B : コンド、ヤマサ スミヤギニ ツェデイカレデ、 (D アー)  
今度、 山に 炭焼きに 連れて行かれて、 (D アー)

キシヨイオシャ、ショワシェライデ、ヤマガラ。キー ヨシ  
木背負いをさ、 背負わせられて、 山から。 木 ××

093 C : ナニ ショッタッテ。  
何[を] 背負ったって？

094 A : キー。  
木。

095 B : キー、 キッタノ。 (C アー アー) スミ ヤグノツシヤ。 (C アアー)  
木[を] 切ったの。 (C ああ ああ) 炭[を] 焼くのさ。 (C ああ)

096 A : スミノ キ。  
炭の 木。

097 B : ホイデ シェナガズ [11] ツツモノオ ショワシェライデ。  
それで セナガズ っていうものを 背負わされて。

098 C : ブ ブ ブナダノ。ナラダノ。ソイズ、 (B ンーン) (A ン一)  
× × ブナとか。ナラとか？そういうやつ、 (B ううん) (A ん一)

クヌキ°ダノ。

クヌギとか？

099A : クヌキ°、クヌキ°。

クヌギ、クヌギ。

100C : シー、(B ホイズ) クヌキ°カ。コノヘンダト。

んー、(B それ) クヌギカ。この辺だと。

101A : シー、クヌキ°カ°、ウン。

んー、クヌギガ、うん。

102B : ホイズ、ショワ ショッテサー、ドーロ オリ オッテクンダガラ。

それ、××× 背負ってさ、 道路 ×× 降りてくるんだから。

ヤマンミズ。

山道。

103A : アノ ヤマガラダヨ。

あの 山からだよ。

104B : シー、シデー ヤマオ。ショッタンダガラ、オラ。ホンデ、イマ マダ コレ、

うん、大変な 山を。 背負ったんだから、私。 それで、今 また これ、

(C アー) ホーシテ ツメデイッカラ タイシタモンダ。

(C ああ) そうして //////////////// たいしたもんだ。

105C : ムガシノヒト スコ°インダヨー [12]、アルグノ。(A ホラー) (B シー)

昔の人 すごいんだよ、 歩くの。(A ほら) (B うん)

ホンット スコ°イナー。

ほんと すごいなあ。

106A : デ アレ、コゴサ ヨメコ°ニ キテネー。オラ、ズッカデッシャ、

で あれ、ここに 嫁に 来てね。私、 実家でさ、

ヤマーモアルー、ナニモアル、トズ イッペ アッカラネー。  
山もある、 何もある、 土地 いっぱい あるからね。

マイニズ オレノ オヤワ ス ヤッパリ スミヤギッシャ。  
毎日 私の 親は × やっぱり 炭焼きさ。

ホンダガラ アノー、コナスタ キーガネー、ゼンブ  
それだから あの、 こんなような 木がね、 全部

タギモノツツーノ アッカラッシャ。ウ ワーギ、イエノ ワギ、スキ°、  
焚き物っていうの あるからさ。 × 脇、 家の 脇、 スギ、

アッカラ、スキ° ッパ ガッコガラ ケツテクット、ソノ スキ° ッパコ  
あるから、スギの葉 学校から 帰ってくると、その スギの葉

シロツテ、タギモノヌステ (C ウンウンウン)。タギズギツツーノネ、  
拾って、焚き物にして (C うんうんうん)。焚き付けっていうのね、

(C ウン) クンドコショステ [13] ゴハン ヌンノ カナラズ  
(C うん) かまど起こしして ご飯 煮るの[に] 必ず

ソイズデネグテ ワガンネガラ。ソーユーノワ シコ° ドダッタノッサ。  
それじゃなくて[は] 駄目だから。 そういうのは 仕事だったのさ。

(D アーー) ソーシテ コンド、ヨメコ°ヌ コゴサ キタツケ コンダ  
(D ああ) そうして 今度、 嫁に ここへ 来たら 今度は

キー トリサインベドユー。 サンミードギ、ジューイジカ°ズ  
木[を] 取りに行こうという。寒いとき、 十一月

ジューヌカ°ズヌ。ソレー イズバン シンデガッタナ。  
十二月に。 それ 一番 大変だったな。

(B ンダ、ンダサ) キートリー。

(B そう、そうさ) 木取り。

107B : キートリ スタンダ。スキッパ トッテ タメデダノネ。(A ンン一)  
木取り したんだ。スギの葉 取って 貯めてたのね。(A うん)

(C ウン) (D ウン) ユ一 タグノニネ。(C ウーン)

(C うん) (D うん) 湯[を] 焚くのにね。(C うん)

108A : ショッテサー。デ、 ヤソーノ [14] ヤマノ イリコノ [15]  
背負ってさ。 それで、弥惣の 山の 奥の

ホ一 (C ヤ) ガラネ一。

左 (C や) からね。

109C : ヤソーマデ イッテキタ。  
弥惣まで 行ってきた。

110A : ヤソ一ダヨ一。(B ヤソ一) ヤソ一ガラダヨ一。(C ア一)  
弥惣だよ。(B 弥惣) 弥惣からだよ。(C ああ)

111B : ホイナノ ワシエライネ一ノネ。  
そんなの 忘れられないのね。

112A : スツト オイエノ オヤズワ ベゴ シッパッテイッテッシヤ。  
すると うちの 親父は 牛 引っ張って行ってさ、

ベコサ ソリ コシエデ。ガガー [16]、マンダ  
牛に そり[を] 作って。お母さん、 まだ

ヨンズッキロク<sup>レ</sup>レーデ ホソコイガッタガラ。{笑} ガガ ヨウエクテ  
40キロぐらいで 細かったから。 {笑} お母さん 弱くて

ヌスア ソッテモ ナンダッテ、 キモ ナモ  
「お前は 背負っても なんだ」って、「木も 何も

ショワシエライネガラッテ ベゴ シッパッテイッテア..... {笑}  
背負わせられないから」って 牛 引っ張っていった..... {笑}

キンマサ [17] ノシエデケデ モツテクッペツテ。(C アー ナルホド)  
そりに 乗せてくれて 持って来ようって。(C ああ なるほど)

ホステ ヤマノ コンナ キューナドゴ ウス シッパッテイッテネア。  
そして 山の こんな 急なところ 牛 引っ張って行ってね。

ハー オレ ソイツツァ ヌレナンテ イワイダッテ オカナクテ オカナクテ。  
はあ 私 それに 乗れなんて 言われたって 怖くて 怖くて。

サガ ナンジョニ ビューット クルスサ。{笑} トマレバ ギグーット  
坂 どんなにか びゅーっと 来るしさ。{笑} 止まれば ぎくっと

ナルシシャー。ナンノ ブレーキモ アワイノ。アステ コナゴド スタッテ  
なるしさ。 何の ブレーキも \_\_\_\_\_ 足で こんなこと したって

ソレア ウスダモノ。{笑} シトツツモ。  
それは 牛だもの。{笑} ひとつも。

113B : イマー イマワ チカイダゲットモサ。(A ンー) ナンジョニ オメー、  
今 今は 機械だけれどもさ。(A うん) どうして お前、

アシノ ノロイ ベゴ テデッテダモノサ。(A ソーダヨー)  
足の のろい 牛 連れて行ってたものさ。(A そうだよ)

(D ソーデスヨネー) ンー、ホツツァ イエデヌ シッパッタ\_\_\_\_\_  
(D そうですよね) ンー、そいつは \_\_\_\_\_ 引っ張った\_\_\_\_\_

114C : ウマ イナガッタノ。ウマ。  
馬 いながったの？馬。

115B : ウマモ (A ウマ) ソノメーダ。  
馬も (A 馬) その前だ。

116A : ズッカワ ウマ イッペー イダゲットモ。(B ソノー アドワ) (C ハー  
実家は 馬 いっぱい いたけれども。(B その 後は) (C はあ

ウシダッタ) コゴワ ウシ。(B ウス ウシニ ナッタンダ)  
牛だった) ここは 牛。(B ×× 牛に なったんだ)

(C ウシダッタンダネ) ウシダッタノ。

(C 牛だったんだね) 牛だったの。

117B : ウマ イネグナッテ。(A ウン)

馬 いなくなって。(A うん)

118C : ベゴダッタノネ。(A ウン)

牛だったのね。(A うん)

119B : ベゴ。 シー。

牛。 うん。

120A : ベゴア イツツゴドデ ベゴン ナッタ。

牛は いいとうことで 牛に なった。

121B : ウマッコデ コンダ アレ クサ カッタノ ホステネー。 ホシクサ。

馬で 今度 あれ 草 刈ったの 干してね。 干し草。

(C シー シー) ホイズ ツケデ ネ サッコンナッテサ ンマッコサ

(C うん うん) それ[を] つけて ね // // // // // 馬に

ノッテ イッタンダド、ヤマサ。

乗って 行ったんだよ、山に。

122A : ンダガッ ガッコー ケッテキテ、チューカグ サンネンニ ナッテネ。

だから 学校[から] 帰ってきて、中学 三年に なってね。

(B ウマサ ヌッテ) ウ ウマ イッピギ アンズゲライデッシャ。

(B 馬に 乗って) × 馬 一匹 預けられてさ。

ヨイ ヤシェピコナ ウマ、メ オレノ ウマ。 アゲー、 {笑}

// やせ細った 馬、 × 私の 馬。 赤い、 {笑}



アゲー ベッコイ [18] ウマッコ。ホイズデ コンダ アノー  
赤い 小さい 馬。 それで 今度 あのー

サガノグッテ [19] ホレア ハ ウダズチョーサ コエル、イマ リッパナ  
坂の貝って ほら × 歌津町に 越える、今 立派な

ドーロ、コシエダゲットモ。アーノ ヤママデ イッテー。クサ カッテ  
道路、 作ったけれども。 あの 山まで 行って。 草 刈って

ソイズサ ツケデ モッテクンダヨ。 (B ンダ) {驚いた声} [20]  
それに つけて 持って来るんだよ。 (B そう) {驚いた声}

ムッツ ツケデ クンダヨ。 コノ クサ。マル。 [21]  
六つ 付けて 来るんだよ。この 草。 束[で]。

123 C : ヤマヤ [22] ノ ホーマデ イッタノネ。  
山谷 の 方まで 行ったのね。

124 A : ヤマヤダラダゲットモサ。 (B イシノデーラ) (C       )  
山谷あたりだけれどもさ。 (B 石ノ平) (C       )

イシノデーラノ、キョセギノホー。 [23]  
石ノ平の、 巨石の方。

125 C : アー、ソッチノホーマデ イッタノ。  
ああ、そっちの方まで 行ったの。

126 A : キョセギノ ウエ。 (B サガノウエツツンダ) (C アー ス) ウエノ ヤマ。  
巨石の 上。 (B 坂の上っていうんだ) (C ああ ×) 上の 山。

127 C : サガノカ<sup>°</sup>イノ。  
坂の貝の。

128 A : ソー ソー ソー ソー。  
そう そう そう そう。

129 C : ホー。テッペンノ ホーマデ。  
ほう。 てっぺんの 方まで？

130 A : ソー。テッペンカ° カガッタ。(B ナンニ) スツカリ アチマデ。  
そう。てっぺんが // // //。(B なに) すつかり あっちまで。

(B \_\_\_\_\_) ホスット トジューサ クット、ウマ

(B \_\_\_\_\_) そうする 途中で 来ると、馬

コンナヌ カラシダ ユスルツカラッシャー。{笑} ソーノー シトズガ  
こんなに 体 ゆするからさ。 {笑} その ひとつか

フタツツカ° ユルンデ クンダオン。アノ ロープガラ。(C アー)  
ふたつが ゆるんで くるんだよ。あの ロープから。(C ああ)

ハー ホスタラバ コイツァ スカッテ ブラサカッテッシャー、  
はあ そしたら これに すがって ぶら下がってさ、

(B ナオシテーナー) イーマンデ モツテコネゲネーガラ

(B 直したいな) 家まで 持ってこなきゃならないから

コレ タイフェンナ ゴドバリ イツソ アッタノ。(C アー)  
これ 大変な ことばかり いつも あったの。(C ああ)

(B ワシエライネンダナー) ンダー ホンデ スツジュマデ イギダナンテ

(B 忘れられないんだなあ) だから それで 七十まで 生きたなんて

ホントニナー。{笑} (B オラ ホンダラ) イマ ホンニンカ°  
本当になあ。 {笑} (B 私 それなら) 今 本人が

ビックリ (B オラ) スルヨーダ。

びっくり (B 私) するようだ。

131 B : シトーデ ビックリ ステンダ、(A ウーン) ハチジュヨンマデ  
一人で びっくり してるんだ、(A うーん) 八十四まで

イギデヤー。  
生きてさ。

132A : ソーンダナー。 {笑} オレワ ハツマデ イギレッカ ナンカ  
そうだなあ。 {笑} 私は 80まで 生きれるか なんか

ワガンネーゲットモサー。 (B アー イヤー)  
わからないけれどもさ。 (B ああ いやあ)

宮城県本吉郡南三陸町方言会話集（自由会話）注記

〔1〕 話者

基本的にはA～Cの三名による会話であるが、一部調査者Dの発言が挿入されている。その他同席した調査者の笑い声などが聞こえる場合もあるが、それについてはいちいち表示しない。

〔2〕 シケデ

控えて。手を引く、手を携えるの意味。

〔3〕 ゴザツタカ

直前のBの伝統的な方言の言い回しを繰り返して口にただけで、談話自体には直接関係ない。

〔4〕 シテッテッチャ

実際の談話では二つ目の促音の長さが明らかに前のそれより短く、正しくは「シテッテチャ」のように聞こえる。しかし、当地域の「チャ」という形式は「テ」には後接しない。そうすると、この箇所は「シテッテシャ」（して行ってさ）のような発音が「シテッテチャ」のように聞こえた可能性もある。いずれか判断がつかなかったために、この箇所は本文のように文字化して訳を与えたが、なお検討の余地がある。

〔5〕 Y1

屋号。

〔6〕 Y2

地名。

〔7〕 タネサモ

「たねる」は尋ねる、探すの意味。

〔8〕 Y3

職業名。

〔9〕 ハイ、コレ バーチャンノ、ソソデ

ここがかんたんな食事をみんなに取り分けBさんに渡す声である。ソソデ（シオデ、牛尾菜）はユリ科の多年草で新芽や若芽をおひたし、和え物などにして食す。

〔10〕 アツチャー

直前の蠅を叩く音に反応した声で、談話自体には関係のない発話である。

〔11〕 シェナガズ

多くはわら製で重い物や固い物を背負うとき、背に当てる道具。背当て。

〔12〕 スコ<sup>レ</sup>インダヨー

これは調査者に向かったの発言である。

〔13〕 クソドコシヨステ

クソドはかまどの意味。クソドオコシシテが訛った言い方で、火をおこすなどの意味と解される。

〔14〕 ヤソー

調査地と隣接する登米市の境界にある弥惣峠のこと。

〔15〕 イリコ

山や谷などの奥。

〔16〕 ガガ

ここではAさんの母親のこと。

〔17〕 キンマ

木馬。山から木材などを運搬するそりのこと。

〔18〕 ベッコイ

小さいの意味。

〔19〕 サガノカ<sup>レ</sup>イ

入谷神平地区と歌津弘川地区を結ぶ坂の貝峠のこと。

〔20〕 驚いた声

同席している調査員の声である。

〔21〕 マル

木や草などを束ねたひとかたまりのこと。束。

〔22〕 ヤマヤ

調査地の北東にある桜葉沢（たらばさわ）のあたりを指す。

〔23〕 イシノデーラノ、キョセギ

調査地の北側にある神行堂山の登山口にほど近いところを石の平と呼んでおり、そこにある花崗岩の巨石は古くから信仰の対象となっていた。

宮城県南三陸町方言会話集（自由会話）担当者

収録担当者 内間 早俊（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）  
黄 川川（東北大学大学院文学研究科博士前期課程1年）  
福井 幸（東北大学文学部3年）

文字化担当者 内間 早俊（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）  
田附 敏尚（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）

## 被災地方言会話集

— 宮城県本吉郡南三陸町 —

### <場面設定会話>

#### 場面設定会話の概要

収録地点 宮城県本吉郡南三陸町

収録日時 2012（平成24）年7月7日

収録場所 宮城県本吉郡南三陸町入谷（話者A宅）

話題 【場面設定会話】〔1〕  
全11場面

話者

|   |   |             |          |        |
|---|---|-------------|----------|--------|
| A | 女 | 1939（昭和14）年 | （収録時73歳） | [Bの知人] |
| B | 女 | 1928（昭和3）年  | （収録時84歳） | [Aの知人] |

話者出身地

|   |             |
|---|-------------|
| A | 南三陸町入谷（イリヤ） |
| B | 南三陸町入谷（イリヤ） |



【場面設定会話】

話し手

A 女 1939 (昭和 14) 年 (収録時 73 歳)  
B 女 1928 (昭和 3) 年 (収録時 84 歳)

〈 あいさつ 〉

(1) 朝、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001B : ナント オメ ハエーゴダー。

なんと お前 早いなあ。

002A : Bチャンモ ズイブン ハエイナヤー。オリモ ハエイゲットモ

Bちゃんも ずいぶん 早いなあ。 私も 早いけれども

ズイブン アンダモヤー、ハエイゴダヤー。 {咳}

ずいぶん あんたもね、早いなあ。 {咳}

(2) 昼、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

なし [2]

(3) 夜、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

なし [2]

〈 労い 〉

(4) Aが仕事に精を出すBと会い、Bの労をねぎらう際にどのようなやりとりを行うか。

001A : オメーガ ホコデ ナニステダノ。

あんたが そこで 何していたの。

002B : イーマサ イモオ ホッテミッペト オモタツケ コーンナ

今さ 芋を 掘ってみようと 思ったけど こんな[に]

チャッコグテサー マダ カリーネーヤ。 {笑}  
小さくてさ まだ 食えないよ。 {笑}

003A : オレ ケツカラ コ。  
私 あげるから 来い。

〈 勧め 〉

(5) Aが、仕事をしているBに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり。

001A : オーイ Bチャン、ナヌステヤノ チョワ。  
おーい、Bちゃん、何していたの 今日は。

002B : ナニモ ステネー。イマ クサドリサ {笑}  
何も してない。今 草取りに {笑}

003A : オレサー、アノ タラスモズ コシャエタンダ。(B ウン)  
私さ、 あの たらし餅 作ったんだ。(B うん)

ンダカラサ アノ (B モツ) クービス インビヤー オライサ。  
だからさ あの (B ××) 食べましょう 行こうよ 私の家に。

オジャコ ノンデーヤ クツピス。 {3}  
お茶 飲んでさ 食べましょうよ。

〈 訪問時の声掛け 〉

(6) 昼間、BがA宅を訪れるときにどのように声をかけるか。また、返事をするか。

001B : イエスタガー。  
いましたか。

002A : ハーイ、イダヨー Bチャン、ヨク° キタゴダー。  
はい、いるよ Bちゃん、よく きたなあ。

〈 借用の依頼と受託 〉

(7) AがBにスコップを借りるときのやりとり。(Bが貸す場合)

001A : Bチャン イダッタノー。

Bちゃん いたの。

002B : ハイハイ、イエスタ。

はいはい、いました。

003A : アノサ (B ン) イマ オレー タンボサ キテサ ツズ アゲッペト  
あのさ (B ン) 今 私は 田んぼに 来てさ 土 あげようと

シタツケ シャベロサー イダマッテ スマッタンダー。

したんだけど シャベルさ 壊れて しまったんだ。

ホンダガラ イマ カリデート オモッテ キタンダゲッドモー。

それだから 今 借りたいと 思って 来たんだけど。

004B : ドーズドーズ。モッテッテ ツカッテケッシェ。

どうぞどうぞ。持って行って 使ってください。

005A : ハイ {手を叩く音} ホンデア カリッカラ。

はい {手を叩く音} それでは 借りるから。

006B : ウン、モッテッテ ツカシェー。(A ウン)

うん、持って行って 使いなさい。(A うん)

〈 お礼 〉

(8) Aが借りたスコップをBに返しに行ったときのやりとり。

001A : Bチャン Bチャン オガゲサマデサー タンボ ツケーカラ

Bちゃん Bちゃん おかげさまでさ 田んぼ 近いから

アンタンドゴサ キテ カリタンダゲッドモヤー オガゲサンデ

あなたの所に 来て 借りたんだけどもさ おかげさまで

イマ ツズ アゲオワッタ。ドーモドーモ。アラッテキタカラ。  
今 土 あげおわった。どうもどうも。洗ってきたから。

002B : アイアイ (A モッテルカラ) [4] ホントゲー。ハイハイ (A ウン)  
はいはい (A 持ってるから) 本当かい。 はいはい (A うん)

ドーモドーモ カエッテ ワルカッタネ。  
どうもどうも かえって 悪かったね。

〈 破損の謝罪・許容・不満 〉

(9) AがBに借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとり。

(9-1) Bが構わないという場合。

001A : アー Bちゃん、サッキサ カリダイッチャ アノ スコップ。  
ああ Bちゃん、さっきさ 借りたじゃない あの スコップ。

ソステ (B     ) ツカッテミタツケサ ナーダツケヤー イェ スツカリ  
そして (B     ) 使ってみたからさ なんだろうねえ 柄 すっかり

ブンモケ° テスマッター。 {笑}  
もげてしまった。 {笑}

ホンダガラ ビツナノデ ケースガラヤー。カンヌンステケロヤ。  
そうだから 別な物で 返すからさ。 堪忍してくれよ。

002B : ナンボモ アツカラ。ソナノ ケースモ ナンヌモ イラネーガラ  
いくらでも あるから。そんなの 返すも 何にも いらぬから

スンペー スネーデ。 ダイジョーブダガラ。  
心配 しないで。 大丈夫だから。

(9-2) Aが破損に対して不満を述べる場合。

001B : Bちゃん、タイフィンナコト ステスマッター、オレヤー。  
Bちゃん、大変なこと してしまったよ、 私さ。

南三陸町 場面設定会話

アンダヌ カリタ スコップヤー サッパド イダメデ スマッタ。  
あんたに 借りた スコップさ さっぱり 壊して しまった。

モースワゲネーナー。  
申し訳ないなあ。

002A : イダメテ スマッタモノ カダッタラ オレ オゴルズケラエルヤー。  
壊して しまったもの [夫に]話したら 私 怒鳴りつけられるよ。

カッテ ホントワ マヤッテ モラワナゲネーнда、 ホントワ。  
買って 本当は 弁償して もらわなければいけないんだ、本当は。

〈 誘いと断り 〉

(10) AがBを物産市に誘う際のやりとり。

001A : Bチャン (B ハイ) キョーツシャ アリヤ アソゴノ ナヌデ  
Bちゃん (B はい) 今日さ あれ あそこの 何で

フッコーイズデサー ウリーカタ アルツツーカーラ オレ イク° ベト  
復興市でさ 販売 あるっていうから 私 行こうと

オモンダゲッドモ イカ° ネー。  
思うんだけど 行かない？

002B : オレ イク° デーゲッドモヤ ワゲーヒトニ [5] サソワレテ  
私 行きたいけれどさ 若い人に 誘われて

イカ° ンズラ [6] ワルイガラ。 オレ チョ イカ° イネーヤ。  
行かないというのは 悪いから。 私 今日 行かないよ。

コレ モッタイネーナー。  
これ もったいないなあ。

003A : アー ザンネンダッタナー。  
ああ 残念だったな。

〈 お見舞い 〉

(11) 体調を崩しているBに、Aが体の調子を尋ねる際のやりとり。

(11-1) Bの調子がいい場合。

001A : Bチャン コンニチワー。(B ハイ) イダノスカー。

Bちゃん こんにちは。(B はい) いるんですか。

002B : ハイ イエスター。

はい いましたよ。

003A : ナンダカ キョ ゲンキ イーヨーダネー。(B ンダヨー)

なんだか 今日 元気 良いようだね。(B そうだよ)

ハダグサ (B チョワネー) イク° ニイー。

畑に (B 今日はね) 行くことができるの？

004B : ハダグサ イツテネー (A ウン) ミツカト オモツテイダノ。

畑に 行ってね (A うん) 見るかと 思っているの。

005A : ア。デハ イー。

あ。それでは [もう]いい[の]？

006B : ソノ クセガ イグナツタカラ (A ウン) オカケ° サマデ。

その / / / 良くなったから (A うん) おかげさまで。

007A : ハイ。デワ イガツタ イガツタ。(B ハイ)

はい。それでは 良かった 良かった。(B はい)

(11-2) Bの調子が悪い場合。 [7]

001A : Bチャン イダノイダノー。

Bちゃん いるのいるの。

002B : イダヨー。ア (A ウン) Aチャン オメ ヨグチタナー。へレへレ。

いるよー。あ (A うん) Aちゃん あんた よく来たなあ。入れ入れ。

南三陸町 場面設定会話

オレ コワクテ コワクテナー、ログナシコ° トモ スネケッドモ、  
私 疲れて 疲れてなあ、 ろくな仕事も しないけれども、

トスノタメダガ ナンダガ コワクテ トテモ オジデライネガラ。  
年のせいだか なんだか 疲れて とても 起きてられないから。

003A : Bチャンサー、アンマリ オメーサー (B ア ホンダラ オメ)  
Bちゃんさ、 あんまり あんたさあ (B あ そしたら お前)

カングガラダー。ダガラ スコシ ヤスミナー。  
働くからだ[よ]。だから 少し 休みな。

〈 申し出 〉

(12) 体の調子が悪く、家の片付けもできないというBに、Aが「(私が) 片付けてやろう」  
というときのやりとり。

001A : Bチャーン。  
Bちゃん。

002B : ハーイ。オメ ナンサ キタノ。  
はあい。あんた 何に 来たの。

003A : Bチャンガサー、アンベワリーッツカラサー、オレ ス オメーノ  
Bちゃんがさ、 具合悪いっていうからさあ、私 × あんたの

イタドコバリモ カタズケテケツカト オモツテ イマ キタンダー。  
いる所だけでも 片付けてやるかと 思って 今 来たんだ。

オイドゴ タノムガー。  
私を 頼るか。

004B : タノムガラ イラネーモノバ ナケ° テ カタズケテキロヤー。  
[あなたに]頼むから いらぬものを 捨てて 片付けてくれよ。

〈 禁止 〉

(13) 片付けの最中に、大事な写真をAが間違っ捨てようとしているときに、Bがそれを  
制止してどのようにいうか。

001A : Bちゃん、コイズモ イーノガー。ナケ° テイーノガー。

Bちゃん、こいつも いいのか。捨てていいのか。

コイズモ ゴミサ イレディーノガー。ナンジョスツケー。

こいつも ごみに 入れていいのか。 どうするかい。

002B : アレ、ホイズワ ダイズナモンダガラ ソイズバ ナケ° ネーデケロ。

あれ、そいつは 大事なものだから そいつを 捨てないでくれ。

003A : ホンデーナー ナンダナー、コイツバリ ホンデ (B ウン)

それじゃあな なんだなあ、こいつだけ それじゃあ (B うん)

トツテオクベナー。 アドワー。ドイズガ トルモノアルー。

取っておこうね。 あとは？ どれか 取る物ある？

004B : アダー ネーガラ ミンナ ナゲテケシエ。

あとは ないから みんな 捨ててください。



宮城県本吉郡南三陸町方言会話集（場面設定会話）注記

〔1〕ここで公開する会話集の内容は、実際に収録時に得られた内容そのままではない部分がある。収録された会話の中には、自然な流れとは言えない部分があったため、資料作成にあたって音声の切り貼りによる編集を行っているからである。それでもなお不自然な部分が残るため、資料利用の際には注意を要する。また、話し手の二人は古い友人であるため、話者としての役割を演じながら笑い声が多く入ったり、発話内容にプライベートな内容を多く含む傾向にあった。

なお、録音の一部には調査に同席した男性の笑い声や相づちなどが聞こえる箇所もあるが、それは会話進行に影響を与えないと判断して、特に文字として反映しなかった。

〔2〕当該場面における会話は十分な内容を採取することができなかつたため、未収録とした。

〔3〕クッピス

調査後にこの会話を話者本人に聞いてもらったところ、「クッピス」は正確に発音すると「ケアッピス」であり「帰ったらどうだ」の意味であるとの内省を得たが、会話全体の流れや明らかに「クッピス」と発音していたことなどを総合して考えると、おそらく発話当時には直前の「クーピス」と同じ意味で用いていたものと判断した。

〔4〕モッテルカラ

調査背景の出来事に対する発話で談話内容とは無関係であるが、直前の音声と重複しているために省くことができなかったため、さしあたって文字化をおこなった。

〔5〕ワゲーヒト

ここでは家族や友人などの若い人を指して言っている。

〔6〕イカ°ンズラ

南三陸町では共通語の「～という」に相当する形式は「ツツー」であるが、ここではそれが有声の「ズ」で発音されたものと解釈した。

〔7〕録音状態について

この箇所の録音音声には背後にいる調査者の声が若干入ってしまっているが、それについては文字化に反映していない。

宮城県本吉郡南三陸町方言会話集（場面設定会話）担当者

収録担当者 内間 早俊（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）  
黄 川川（東北大学大学院文学研究科博士前期課程1年）  
福井 幸（東北大学文学部3年）

文字化担当者 内間 早俊（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）  
黄 川川（東北大学大学院文学研究科博士前期課程1年）  
福井 幸（東北大学文学部3年）

## 【 宮城県本吉郡南三陸町の方言概観 】

ここでは、今回の会話集に現れた特徴を中心に、伝統的な南三陸町方言の音声や文法を概観していきます。

### Ⅰ 音 声

#### 【子音】

##### ▼カ・タ行の有声化

語中・語尾にあるカ・タ行の音が有声化し、ガ・ダ行になる。

☞これは平たく言えば、単語の頭以外にあるカ・タ行の音が濁音のガ・ダ行になることです。専門的には、母音に挟まれた無声子音 /k/ /t/ が有声子音 /g/ /d/ になることで、有声化と呼びます。単語の頭にあるカ・タ行は普通は有声化しません（下の例で言えば柿は「ガギ」にはなりません）。

例) カ行→ガ行 (/k/→/g/) : 開ける → アゲル、柿 → カギ  
タ行→ダ行 (/t/→/d/) : 旗 → ハダ、 的 → マド

今回の会話集にも次のように有声化の例が多く見られます。

例) カ行 /k/→/g/ : マサガ (まさか)、ムガシ (昔)、スミヤギ (炭焼き) など。  
タ行 /t/→/d/ : シコ<sup>o</sup>ド (仕事)、ネデモオギデモ (寝ても起きてても) など。

ただし、これらは完全にガ行やダ行に発音されるわけではなく、個人差や語によってもその程度は異なります。共通語の発音よりはやや濁っているといった程度の発音も多く聞かれます。会話集では、清音、濁音で迷うような軽度の有声化音もガ行・ダ行の文字で表示してあります。

##### ▼ガ・ダ・ザ・バ行の鼻音化

語中・語尾にあるガ・ダ・ザ・バ行の音が鼻音化する。

☞上記のとおり、単語の頭以外にあるカ行がガ行になることによって、「開ける」はアゲルになってしまい、「上げる」と混同しそうですが、「上げる」のゲが鼻にかかった

音（鼻濁音とも言い、この現象を鼻音化と言います。ここでは「ケ°」のように半濁点で表記します）のアケ°ルとなり、

「開ける」＝アゲル

「上げる」＝アケ°ル

となって、両者の混同は起こりません。同様にダ・ザ・バ行も鼻音化します（ここでは「ンダ・ンゼ・ンビ」のように上付きのンで表記します）が、これらは衰微が著しく、高年層からも聞かれないことがあります。今回の会話集からそれらの例を挙げると次のようなものがあります。

- 例) ガ行：中学校 → チューガ°ッコ  
ダ行：窓 → マンド  
ザ行：風 → カンゼ  
バ行：おばあさん → オンバーサン

#### ▼キ（キャ行）の口蓋化

キが「チ」に近く発音される。また、キャ、キュ、キョも「チャ、チュ、チョ」と似たように発音される。

☞一般的にはこれは「口蓋化」の一種と見られています。口蓋化とは舌の前の部分が上あご（硬口蓋）に接近する現象を言います。キがキとシの中間のような音になるという似た現象は東北一般で見られますが、南三陸町では極端な口蓋化が起こってチに近くなります。例として、会話集に見られたものを取り上げます。

- 例) 機械（きかい） → チケ  
来たな（きたな） → チタナ  
今日（きょう） → チョ

また、「ギ」が「ジ」に発音されるのも口蓋化の一種です。

- 例) 吟味（ぎんみ） → ジンミ

#### 【母音】

#### ▼イとエの統合

イとエが同じ発音となる。

☞母音単独で発音されるイとエは区別されず、ともにエに近い音になります。

- 例) 息 (いき)、駅 (えき) → 両方ともエギ  
鯉 (こい)、声 (こえ) → 両方ともコエ

ただし、この特徴も弱まってきており、イとエが似たような発音になるものの、完全に同じではなく、一応区別はするという状態になりつつあるようです。

#### ▼シとス、ジとズ、チとツなどの中舌化

イ段音とウ段音が近い音となる。

☞イの音がウの音に近づく現象 (またはその逆も) を「中舌化」(ちゅうぜつか、なかじたか) と言いますが、南三陸町ではイ段音とウ段音でこの中舌化が起き、ニとヌ、ミとム、リとルなどは互いに近い音になります。これらは一応の区別がありますが、シとスに関しては両方とも「ス」、ジとズは両方とも「ズ」、チとツは両方とも「ツ」と発音され、これらは区別がありません。今回の会話集に見られる中舌化の例を挙げてみましょう。

- 例) 七十 (しちじゅう) → スツジュ  
地震 (じしん) → ズスン  
何 (ナニ) → ナーヌー

#### ▼シュ、ジュ、チュの直音化

シュが「ス」、ジュが「ズ」、チュが「ツ」と発音される。

☞これに上記の中舌化も合わせると、シ・ス・シュがすべて「ス」、ジ・ズ・ジュがすべて「ズ」、チ・ツ・チュがすべて「ツ」という発音となります。いわゆるズーズー弁というのはこの特徴に注目した言い方です。今回の会話集に挙げた中にはあまり多く見られませんが、会話集以外のところでは次のような例があります。

- 例) 爺さん (じいさん)、十三 (じゅうさん) → 両方ともズーサン  
手術 (しゅじゅつ) → スズツツ  
注射 (ちゅうしゃ) → ツーシャ

現在ではこの中舌化の特徴も弱まりつつあり、シとス、ジとズ、チとツが、似た発音ではあるものの一応の区別はなされている、という段階に入りつつあります。共通語とあまり変わらない発音が聞かれることも多くなっています。

### ▼母音連続の融合

アイ・アエが「エー」「エァ」と発音される。

☞一般的にアイ・アエという母音の連続（連母音）は融合して[ɛ:]（共通語のエー[e:]よりも口を開いて発音する）と発音されますが、南三陸町では/ɛ/～/ae/のように広めに発音されたり融合せずに発音されたりすることもあります。また伸ばさずに「エ」と短く発音されることもあります。会話集から融合した例を挙げると次のようなものがあります。

例) 一杯（いっぱい） → イツペ  
機械（きかい） → チケ  
迎え（むかえ） → ムゲ

### ▼その他、以下のような特徴もあります。

・ヒの音がシに近い音となる。

例) 一人（ヒトリ） → シトリ  
昼間（シルマ） → シルマ  
次の日（ツギノヒ） → ツキ<sup>o</sup>ノシ

・サ行の音がハ行音になる。

例) そして → ホシテ  
作った（コサエタ） → コヒエダ

・rの子音が無声化する。これは後ろ（ウシロ）のrが発音されずに「ウッシヨ」になるような現象のことです。

例) 乗せられて（ノセラレテ） → ノシエラエデ  
流された（ナガサレタ） → ナカ<sup>o</sup>サイダ

### ¶ アクセント

南三陸町は、仙台市以南の無型アクセント地域とは異なり、東京式アクセントに準ずる型をもつ有型アクセントをもっています。

☞例えば「橋」と「箸」を声に出したときに、有型アクセントの地域ではハとシの音の高低が決まっています（＝型がある）、それによって単語の区別が付きませんが、無型アクセント地域では高低が決まっていない（＝型がない）ため、区別されません。南三陸町は有型アクセントの地域で、「橋が」と「箸が」の高く発音される所を太字で示すと、それぞれ「ハシガ～ハ**シガ**」、「ハ**シガ**」のように異なった発音をしております。高年層においては、共通語の〔ハシガ〕のように単語の頭が高い発音はあまり聞かれません。ただし、世代が下るにつれ共通語化が進み、若い世代では、そうした単語の頭が高いアクセントも聞かれるようになってきています。

## Ⅱ 文 法

### 【格助詞】

#### ▼「が」、「を」の不使用

共通語の「が」格、「を」格が無助詞で表示されることが多い。

☞共通語の「が」のような主格を表す助詞や、「を」のような目的格を表す助詞が用いられず、以下のように無助詞で表示されることが多いです。

例) 主格 : オレ ケッカラ コ (俺があげるから来い)  
目的格 : タラスモズ コシエダ (たらし餅を作った)

#### ▼「サ」

共通語の「へ」「に」に当たる格助詞に「サ」がある。

☞「サ」は共通語の「へ」よりも意味が広く、「に」に重なるところが多いですが、存在の場所を表す「ここサある」は言えないなど、その用法は「に」とは若干の違いがあります（ただし、若年層では存在の場所を表す「サ」も使えるという報告もあります）。

例) 草取りサ行く  
オライサインビヤ (うちに行こうよ)  
田んぼサ来る

【助動詞】

▼「べ」

共通語の「～だろう」（推量）や「～しよう」（意志）に相当する助動詞に「べ」がある。

☞「べ」は＜推量＞＜意志＞のほかにも＜確認＞＜勧誘＞などがあり、その用法は多岐にわたります。また、「取る、起きる、来る」など「る」で終わる動詞に接続するときは「る」が「ッ」となる促音便が生じ、それぞれ「トッペ、オギッペ、クッペ」のようになります。会話集のものではありませんが、次のように使用します。

|                             |      |
|-----------------------------|------|
| 例) 明日、雨だべ (明日雨だろう)          | ＜推量＞ |
| 明日は早く起きッペ (明日は早く起きよう)       | ＜意志＞ |
| お祭り、お前も行くべ? (お祭り、お前も行くだろう?) | ＜確認＞ |
| みんなでがんばッペ (みんなでがんばろう)       | ＜勧誘＞ |

▼「タ」「タッタ」

「タ」は共通語の過去・完了の助動詞「た」よりも用法が広く、現在目の前にあることの確認などにも使われる。また、「タッタ」は過去の思い出など、現在と切り離された過去で用いられる。

|               |   |            |
|---------------|---|------------|
| 例) (Bちゃん) イダノ | → | (Bちゃん) いるの |
| (Bちゃん) イダッタノ  | → | (Bちゃん) いたの |

【終助詞】

▼「チャ」

強調、当然、働きかけの意味を表す「チャ」が用いられる。

☞具体的には、相手が知っているはずの事柄を示し確認させるなどの機能があり、共通語の「でしょ」「じゃない(か)」「よね」などのような意味を持ちます。

|                         |
|-------------------------|
| 例) サッキサ カリダイッチャ アノ スコップ |
| (さっきさ 借りたじゃない あのスコップ)   |

★その他、以下のような特徴もあります。

- ・逆接既定条件（共通語の「けれども」）は南三陸では「ゲットモ」が用いられやすい。
- 順接既定条件（共通語の「から」）は「ガラ」が用いられる。



例) イマワ チカイダゲットモサ (今は 機械だけれどもさ)  
コシエダゲットモ (作ったけれども)  
ワカンネーゲットモサ (わからないけれどもさ)

・待遇表現は「ス」「(デ) ガス」「(デ) ゴザリス」「イ (ン)」などが用いられる。

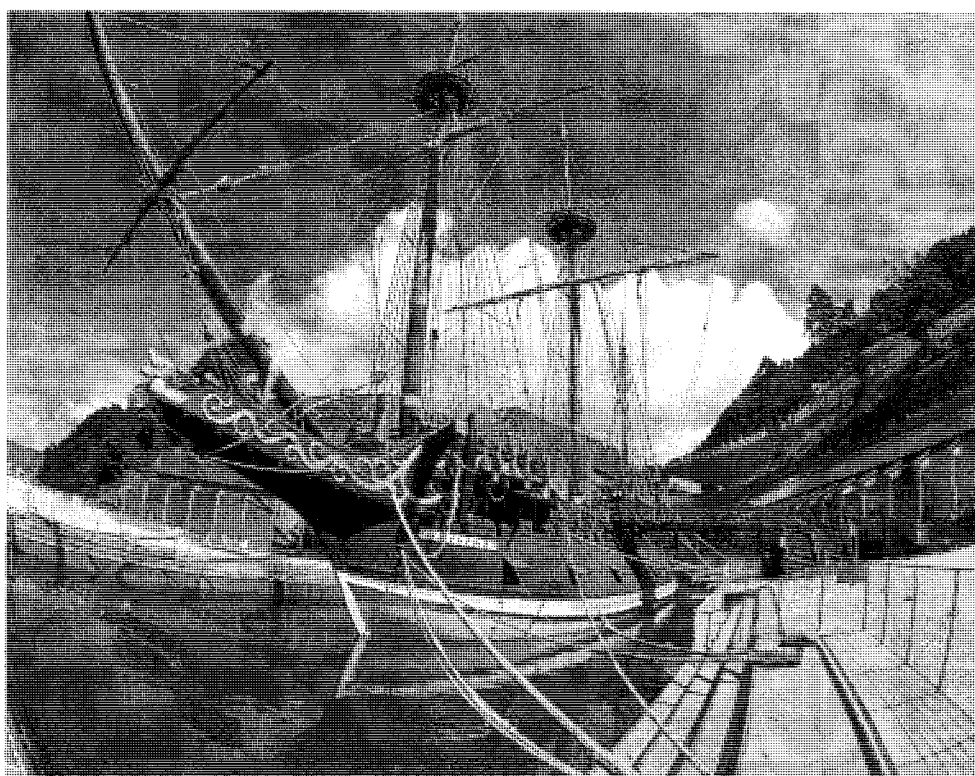
例) 取りス (取ります)  
んデガス (そうです)  
おはよゴザリス (おはようございます)  
お茶でも飲まイン (お茶でも飲みなさい)

【参考文献】

- 加藤正信 (1969) 「東北方言概論」『言語生活』 210  
加藤正信 (1992) 「宮城県方言」平山輝男・大島一郎・大野眞男・久野眞・久野マリ子・杉村孝夫編『現代日本語方言大辞典 第1巻』明治書院  
佐藤亨 (1982) 「宮城県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会  
小林隆編(2012)『宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究』東北大学国語学研究室  
東北大学方言研究センター (2012)『方言を救う、方言で救うー3.11 被災地からの提言ー』  
ひつじ書房



いしの まき し  
石 卷 市



サン・ファン・バウティスタ号  
(写真提供：宮城県観光課)



## 宮城県石巻市概要

### ①石巻市の概観

石巻市は県東部に位置し、仙台市に次いで人口を擁する県内第二の市である。現在の石巻市は2005年の大合併で、石巻市、河南町、河北町、雄勝町、牡鹿町、桃生町、北上町の1市6町が併合して生まれた。

石巻市の産業は古くから北上川と関わって進展してきた。北上川の河口一帯の浚渫工事によって漁港として整備されることで、水産加工業や造船業が栄えた。また、製紙業をはじめとする多くの工場が立地され工業も栄えた。合併前の旧町地域でもそれぞれ特徴のある生産がおこなわれている。さらに、金華山の鹿や石巻川開き祭り、サン・ファン・パウティスタ号など、観光にも力を入れている。

### ②収録地点について

市の中心部は旧北上川河口一帯の西側に位置するが、自由談話の収録地点である湊地区は旧北上川の東側の地区にある。また、場面設定会話の収録地点である万石町はさらに東側の万石浦に面した地域である。

### ③東日本大震災による石巻市の被害

石巻市では震度5強～6弱の揺れを記録した。石巻市は震源地からもっとも近く、地震発生直後に津波の最大波に襲われ、河口にほど近い石巻市街地は松島や牡鹿半島に反射した津波が集中して甚大な被害を被った。地震、津波被害のほか、工場火災による被害も相次いだ。宮城県ではもっとも多くの被害を出した地域である。

表1 石巻市の人的・住宅被害

| 石巻市人口    | 人的被害   |      |              | 住宅被害    |         |
|----------|--------|------|--------------|---------|---------|
|          | 死者     | 行方不明 | 死者・行方不明の対人口比 | 全壊      | 半壊      |
| 160,826人 | 3,181人 | 651人 | 2.38%        | 22,357棟 | 11,021棟 |

表2 石巻市の浸水被害

|    | 浸水範囲の被害  | 割合    |
|----|----------|-------|
| 人口 | 112,276人 | 69.8% |
| 世帯 | 42,157世帯 | 72.8% |

※ 本文の内容は、衛藤（2012）P.142～149に依拠する部分が多い。特に、表1・表2は衛藤（2012）のデータをそのまま引用した。

### 参考文献

衛藤英達（2012）『統計と地図でみる東日本大震災市町村のすがた』日本統計協会  
石巻市ホームページ（<http://www.city.ishinomaki.lg.jp/>）（2013/02/23アクセス）

# 被災地方言会話集

## — 宮城県石巻市 —

### <自由会話>

#### 自由会話の概要

収録地点 宮城県石巻市

収録日時 2012（平成24）年7月8日

収録場所 宮城県石巻市湊町御所の入 松巖寺仮本堂

話題 【震災のときのこと】

#### 話者

|   |   |             |          |            |
|---|---|-------------|----------|------------|
| A | 男 | 1938（昭和13）年 | （収録時74歳） | [Bの夫]      |
| B | 女 | 1943（昭和18）年 | （収録時68歳） | [Aの妻]      |
| C | 女 | 1935（昭和10）年 | （収録時77歳） | [A・B・Dの友人] |
| D | 男 | 1957（昭和32）年 | （収録時55歳） | [A・B・Cの友人] |

#### 話者出身地

A 石巻市門脇（かどのわき）

B 石巻市湊（みなと）

C 岩手県一関市（いちのせきし） [1]

D 石巻市清水町（しみずちょう）

【震災のときのこと】

話し手

- |   |   |                |            |
|---|---|----------------|------------|
| A | 男 | 1938 (昭和 13) 年 | (収録時 74 歳) |
| B | 女 | 1943 (昭和 18) 年 | (収録時 68 歳) |
| C | 女 | 1935 (昭和 10) 年 | (収録時 77 歳) |
| D | 男 | 1957 (昭和 32) 年 | (収録時 55 歳) |

001C : ボランティアノ ヒドニ オ チョクセツ ワダシ キーダダケドッサ  
ボランティアの 人に × 直接 私 聞いたんだけどさ

(D ウンウン) ドッカノ ホゴノ (B ウン) ホリッコトカ (B ウン)

(D うんうん) どこかの そのの (B うん) 土掘りとか (B うん)

ゴミシロイ シテヤンダト。 (B ウン) (D ウン)

ゴミ拾い してたんだと。 (B うん) (D うん)

スタッケネ ンメ ダレニ タノマエデ シ キテンノヤ ヨゲナコド  
そしたらね お前 誰に 頼まれて × 来てるんだ 余計なこと

スナッテ (D アー アー アー) ワダシ オゴラエタヨッテ。

するなって (D ああ ああ ああ) 私 怒られたよって。

(B ウン) (D ウン) ホンデ ナンカイ キテンダヨッテ コゴサ。

(B うん) (D うん) それで 何回[も] 来てるんだよって ここに。

(B ウン) (D ウン) ソユッデ ユッデダ ヒド イダヨ二。

(B うん) (D うん) そう言って 言った人 いたよ。

(B ウン) (D ウン)

(B うん) (D うん)

002A : ナンデ マダ ソノ ユッダ ヒドモ ユッダ (B ウン) ヒドダッチャナヤ。  
なんで また その 言った 人も 言った (B うん) 人だよな。

003C : ウン (B ウン) ワタシワ ソノヒトモ ワカケッドモ、  
うん (B うん) 私は その人[が誰か]も わかるけども、

(B ウン) (D ウン) ソコマデワ イワナエケッドモサ。

(B うん) (D うん) [誰だと]そこまでは 言わないけれどさ。

(A ウン) (B ウン) ンー ナンーダイ セッカグネ。

(A うん) (B うん) うーん なんだよ せっかくね。

004A : ヤ ボランティアノネ、(C スギデ キテンデ ネーダヨ一)  
いや ボランティアのね、(C 好きで 来てるんじや ないんだよ)

(B ウン) チカラワ タイシタモンダ。(C ウーシ) ウン。

(B うん) 力は たいしたものだ。(C うーん) うん。

ナンカイトナグネ アノー (B ソーダネ一) ソッコーダ アノ  
何回となくね あの一 (B そうだね一) 側溝だ あの

ウチノ ナガノ (B ウン) (D ウーシ) へドロヨケダーノナ、  
家の 中の (B うん) (D うーん) へドロ除けだのな、

(C ウーシ ナノニ) ヤツテモラッタケド、(C クセーノモ ネ一)

(C うーん なのに) やってもらったけど、(C 臭いのも ね)

アノ ダイガクノ ジョ オ オ オバ チョード オタグ [2] ミタイナネー、  
あの 大学の ×× × × ×× ちょうど おたく みたいなね、

ワカイコカ° (C オネーチャンタズネ一) カオ ドロダラゲニ シテネー、  
若い子が (C お姉ちゃんたちね) 顔 泥だらけに してねー、

ウデマグリシテ カギアズメデダヨ一、アセダグンナツテ ホンド、  
腕まくりして かき集めてだよ、 汗だくになって ほんと、

ヤッケツテ アレ キテツチャ、ヤッケ {笑} アレガ アセ ト  
ヤッケって あれ 着てるよね、ヤッケ {笑} あれが 汗 ×



トーシテ、キョネンノ ナツナンカ コトサラ ムシアツガッタカラ  
通して、 去年の 夏なんか ことさら 蒸し暑かったから

(B アツガッタガラネー) ソンデネー、スィードー ソノコロ

(B 暑かったからね) それでね、 水道 その頃

マダ (B ウン ナイ) デネー~~ン~~ダヨナー。 (B ウン) [3]

まだ (B うん 無い) 出ないんだよな。 (B うん)

(D ウン、デナイス デナイス)

(D うん、出ないです 出ないです)

005 B : アト ヨコレタママ カエツテツタツチャ (A ウン ソノマンマ ホレ)  
あと 汚れたまま 帰ってったよね (A うん そのまま ほら)

ミンナ バスサ ノツテ。

みんな バスに 乗って。

006 A : ヒガイリダガラ。 (D ウーン ソーデシタ) (B ネ ネ)  
日帰りだから。 (D うーん そうでした) (B ね ね)

ソノマンマネー (B アラウトコ ナクテ) ヤッケダケ ヌイデ  
そのままねー (B 洗うところ なくて) ヤッケだけ 脱いで

(B ウン) バスニ ノツデ (B ウン) ホイデ カエツテツタナー。

(B うん) バスに 乗って (B うん) それで 帰ってったなー。

007 D : ソレモ (B シレルナ) ヘドロダガラ クサインダヨネー。 (A クサイーヨ)  
それも (B           ) ヘドロだから 臭いんだよねー。 (A 臭いよ)

(B ネー) ウーン。

(B ね) うん。

008 A : ハスタデネガラネー。 クササツタラ。  
半端でないからねー。 臭さつたら。

009B : ヤッタ、ソノ ソノママデ カエッテッテ ンダガラ アノー ツキノヒカナー  
///、その そのままで 帰ってって だから あの 次の日かな

アノー シンブンニ (A ウン) ソシタラー アノ トーキョーノ ホラ  
あの 新聞に (A うん) そしたら あの 東京の ほら

ニュースダッタノネ (A ウン) ソシタラ アノー スッカリ モー ミンナ  
ニュースだったのね (A うん) そしたら あの すっかり もう みんな

ヨコレテ (D ウン) カエッテ (D ウンウンウン) ドーロ アルイテダ  
汚れて (D うん) 帰って (D うんうんうん) 道路 歩いてた

オンナノコガ (D アー) イタンダッテ (D アー アー アー)。  
女の子が (D ああ) いたんだって (D ああ ああ ああ)

ナンデ コノ コン コンナ コンナグ シテンダイッテ (D アー)  
なんで この ×× こんな こんなふうにしてるんだいって (D ああ)

キータンダッテ。{戸を閉める音} ソシタラ ホラ トーホグニ イッデ  
聞いたんだって。{戸を閉める音} そしたら ほら 東北に 行って

(D アー) ウン ヘドロオ (D ウン) コー  
(D ああ) うん ヘドロを (D うん) こう

トッテキタンダヨッテ、 ビックリシタトカッテ、アサニ ハヤグ  
取って来たんだよって[言うので]、びっくりしたとかって、朝に 早く

ホラ (A ウンウンウン) (D ウンウン) バスデ ツイテ ホラ  
ほら (A うんうんうん) (D うんうん) バスで 着いて ほら

(A アー カイツエイッタ) ウン ソノママノ ジョータイデネ、  
(A ああ 帰っていった) うん [汚れた]そのままの 状態でね、

(A オンナノコワナ ウンウン) (C ソーダネ) カエッテイタンダッテ ウン。  
(A 女の子はな うんうん) (C そうだね) 帰って行ったんだって うん。

010C : シダガラネ ワダシタジガ イッショーケンメ コーシテ ボランティアニ  
だからね 私たちが 一生懸命 こうして ボランティアに

トウグカラ キテ スケラレル、(B ウン) インザ ムゴーノ ヒトタツガネ  
遠くから 来て 助けられる、(B うん) いざ 向こうの 人たちがね

ソイグニ ナッタラ (B ウン) イク°ニイーガナト オモウヨ。  
そういうことに なったら (B うん) 行くことができるかなと 思うよ。

タスケサ (B ウン) イク°ノ ヒトタツ (A シマ) イッカナト、  
助けに (B うん) 行くの[=という] 人たち (A まあ) いるかなと、

ソゴワ オモウヨ。  
そこは 思うよ。

011A : コノ トシデワー モー イカ°イネ。シダガラ ワゲー ヒタジカ°  
この 年では、もう 行けない。だから 若い 人たちが

ソノ カンカク シ カンジ モッテカナートワナ。  
その 感覚 × 感じ 持っているかなとは[思う]ね。

012C : ア ワタシタチワ イカ°イネーヨ。{笑} シダガラ イマノ ワゲ ヒトタジワ  
あ 私たちは 行かないよ。{笑} だから 今の 若い 人たちは

(B ウーン) トンデ イク°カナート オモウ。ウン  
(B うん) 飛んで 行くかなと 思う。うん

ソゴ オモウノ。(A ウン)  
そこ[=若い人たちの感覚がある] 思うの。(A うん)

013D : ナッテンジャナイスカ。ダッテ アノ コトモダチガ ジエータイ  
なっているんじゃないですか。だって あの 子どもたちが 自衛隊

ナリタイッテ ヒトダジ フエタガラー (A ウン) (B ウーン) アレワ  
なりたいて 人たち 増えたから (A うん) (B うん) あれは

カンシャノ (B ソーダネ) アラワレナンデシヨ。(B ウン)  
感謝の (B そうだね) 表れなんでしょ。(B うん)

014A : マタ ジエータイッテバ (B マーズ ジエータイサンモ) ズエータイー、  
また 自衛隊って言えば (B まず 自衛隊さんも) 自衛隊、

タイシター チカラ、ス ネ。(B アタ アタマ サカ<sup>ル</sup>。ウン)  
たいした 力、 × ね。(B ×× 頭 下がる。うん)

015C : ウン。  
うん。

016A : アノ アレモー (B ウーン) クニノ タカラダナ、ジエータイ。  
あの あれも (B うん) 国の 宝だな、自衛隊。

(B ンダネー)  
(B そうだね)

017D : チョード アノ サンガツ ジューイチニチニ (B エー) ツナミニ  
ちょうど あの一 三月 十一日に (B ええ) 津波に

ナッテガラ (B エー) ンデス ソレデ モー タダ ミンナ コー  
なってから (B ええ) ××× それで もう ただ みんな こう

ドーロ アルゲルヨーニ ナッタラ ジブントゴニ アルイテカエッテ  
道路 歩けるように なったら 自分[の]所に 歩いて帰って

(B エー) アト コー ムユービョーシャノヨーニ タダ (B ウン)  
(B エー) あと こう 夢遊病者のように ただ (B うん)

ゴミトガ ダシテルダゲナンデスヨ。(A ウンウンウンウン)  
ゴミとか 出してるだけなんですよ。(A うんうんうんうん)

(B ソーナダヨネ) メガ イキテナインデスヨ。  
(B ソーナダヨネ) 目が 生きてないんですよ。

(A ウンウンウンウン) (B ウン) ソ ソレ ヤッタトギニ コンド  
(A うんうんうんうん) (B うん) × それ やった時に 今度

シガツノ マタ デカイヤズ キテ (A ウンウンウンウン) (B ネ)  
四月の また でかいやつ [=地震] きて (A うんうんうんうん) (B ね)

ホンデ アレデー [4] モー、ワタシタジモ リーダー、アノー  
それで あれで もう、私たちも リーダー、あの

トシヨリノ リーダートモ ハナシタンダゲド、  
年寄りの リーダーとも 話したんだけど、

モー ダメダネッテ (A ウンウン) ナニヤッタッテッテ。(B ウン)  
もう 駄目だねって (A うんうん) 何やったってって。(B うん)

{戸を閉める音} {舌打ち} モー テー ウテナイヨーニ  
{戸を閉める音} {舌打ち} もう 手 打てないように

ナッテタラ {笑} アトー ミンナ ドロダシモ ミンナ シナグナッテ  
なっていたら {笑} あとは みんな 泥出しも みんな しなくなって

イエニ モドンナクナッデ。(B ウンウンウン) (A ウンウンウンウン)  
家に 戻らなくなって。(B うんうんうん) (A うんうんうんうん)

ソシタラ ソゴニ ボランティアガ カケツケテクレテ (A ソーソーソー  
そしたら そこに ボランティアガ 駆けつけてくれて (A そうそうそう

アレデ) (B ソー) ミンナ ドロカキシテ モラッタンデスヨ。  
あれで) (B ん) みんな 泥かきして もらったんですよ。

アレデ ユー (B ネー) ミンナデ タチナオレタンデスヨ。  
あれで こう (B ねえ) みんなで 立ち直れたんですよ。

(B ソーソーソー、ネ) (A ハー)  
(B そうそうそう、ね) (A はあ)

018C : ハンパデ ネンダヨ アノ ニオイネ。 ドロ。

半端で ないんだよ あの においね。 泥。

019B : イ イッタン ホントニ ミンナ ナゲタ ナゲタシタモノネ。

× いったん 本当に みんな 投げた 投げ出したもんね。

020D : ウーン アノ (B ウン) シガツノ ジシンデネ モ カンゼンニ

うん あの (B うん) 四月の 地震でね もう 完全に

(B ウン ソーソー) ヤラレマシタワ。(B ソーソーソー)

(B うん そうそう) やられましたわ。(B そうそうそう)

021A : ンデー ン ン マズー (B ウーン) シ シンサイーゴノ (B ウン)

それで × × まず (B うん) × 震災後の (B うん)

ガレキノ ヤマッテ ン ミタゴト ネーベгентモ (D ウンウン) [5]

がれきの 山って うん 見たこと ないだろうけど (D うんうん)

ア アー {笑} アリ イッピギ トーレナイカンジ。(B ウーン)

× ×× {笑} 蟻 一匹 通れない感じ。(B うん)

ドーロツテユー ドーロ ミナ。(B ウーン) ソレガー (D ウーン)

道路っていう 道路 全部。(B うん) それが (D うん)

オーガダジュージ ハイッテガラ (B ウンウン) アレヨ アレヨッテ

大型重機 入ってから (B うんうん) あれよ あれよって

ユーマニ ドーロガ ネ (D ウーン) カンツーシテ。(C ウーン)

いう間に 道路が ね (D うん) 貫通して。(C うん)

ソレマデ ヤッパリー、トーカド カガッタンデネベガ。

それまで[に] やっぱり、十日と かかったんでないだろうか。

022D : カカリ (A ド) モット ン モット マエデスネ。(C モット)

かかり (A ×) もっと × もっと 前ですね。(C もっと)

カカッタナー) ワタシガ ソノー ミナトショーカ° ッコーニ トニカグー  
かかったなあ) 私が その 湊小学校に とにかく

アノ クルマ、シャチューハクシテルー レンチューノ (B ウン) クイモノ  
あの 車[で]、車中泊している 連中の (B うん) 食べ物

モッテコナキャナイガラー (A ウーウンウンウン) ミナ  
持ってこなければならぬから (A うんうんうんうん) みんな

ワガイノ アズメテー フダン ジューゴフンデ アルケットコロオ  
若いのを 集めて 普段 十五分で 行ける所を

イチジカンハン カカッタソダ。 (B ウン) ダッテ ヤマ ク  
一時間半 かかったそうさ。 (B うん) だッテ 山 X

(B ヤマネー) (C ヤマ) クルマ コエデー (B テユカ)  
(B 山ねえ) (C 山) 車[で] 越えて (B と言うか)

{笑} (A ウンウンウンウン) (C ソー) (B ソーソーソー)  
{笑} (A うんうんうんうん) (C そう) (B そうそうそう)

ヤマ コエデー ヒトンチ ノ イエ [6] (A ソーソーソーソー)  
山 越えて 人 の 家 (A そうそうそうそう)

(B ソーソー) ゴメンネーッテ ハイッテ イッテー  
(B そうそう) ごめんねーッテ 入って いった

(A ウンウンウンウンウン) {笑} ソレデ オーフグデ  
(A うんうんうんうんうん) {笑} それで 往復で[=して]

(A ソーダッタノガ) マタ モッテクルモノガ ミズダドガ {笑}  
(A そうだったのか) また 持ってくるものが 水だとか {笑}

(A ウーウン) オモイノバック ナンデスヨ。 {笑}  
(A うん) 重いばかり なんですよ。 {笑}

023C : ンダガラ キサノ (A       ) (B ホント ソーダネー)  
だから 今朝の (A       ) (B 本当 そうだね)

クンレンデモッサ、 (A ン) (B ウン) コノ クサカヤマノ [7]  
訓練でもさ、 (A うん) (B うん) この 草刈山の

ホノ ヒトダズネ、 (A ウン) (B ウン) コゴニ  
方の 人たちね、 (A うん) (B うん) ここに

イッペチャツツタツケ アノー マエニ アルイダドゴ ドゴ  
居ようねって言ったから あのー 前に 歩いた所 どこ

アルイダダダガ モイツカイ モベチャツテ、 (A ウン) ウズノ トゴ  
歩いたんだか もう一回 戻ろうよって、 (A うん) うちの 所[を]

トーッテ アンダエノ トゴ {笑} トーッテ、 {笑} コー アゾゴサ  
通って あなたの家の 所 {笑} 通って、 {笑} こう あそこに

ヌゲデダダダヨ。 (A ウン) (B ハーン) ンダガラ ホラ、  
抜けてたんだよ。 (A うん) (B はあ) だから ほら、

イザツツートキ コゴ イクッチャートガッテ。 (B ソーソーソーソー)  
いさという時 ここ 行くねとか言って。 (B そうそうそうそう)

024D : アノ ガッコ (C マー) イッテ モラッテキテ (B ネ)  
あの 学校 (C まあ) 行って [物資を]もらって来て (B ね)

ソントギニ トジューデ アシ イテートカッテ (A ウン) サワイデル  
その時に 途中で 足 痛いとかって (A うん) 騒いでいる

オッサン イルナト オモッタラ (B エ) X サンデスヨネ ダガラ。  
おじさん いるなど 思ったら (B ええ) X さんですよ だから。

(A ウン) (B アー ア) クギ フンダラシクテ。 (A ア)  
(A うん) (B ああ ああ) 釘 踏んだらしくて。 (A ああ)



(B アー) (C アーー) ソーユーノバッカ ナンデスヨネー、ミンナ。

(B ああ) (C ああ) そういうのばかり なんですよ、みんな。

(A アー ソーソー。オレモ フンダ) (B フーン)

(A ああ そうそう。俺も 踏んだ) (B ふーん)

クギナンカ フムノ ミナ アタリマエミタイデ。(B フーン)

釘なんか 踏むの みんな 当たり前みたいで。(B ふーん)

025A : フンズゲテ スマッテサー、(D エー、エー) アドー ナン カナズズ  
踏んづけて しまつてさ、(D ええ、ええ) あと ×× 金づち

ネーガラ トツカグ アルモノデ (D アー アー) ハダエデ、(B フーン)

無いから とにかく 有るもので (D ああ ああ) 叩いて、(B ふーん)

026D : ハショーフーニ キオツケテヨ ナンテネ コエ カケナガラ  
破傷風に 気をつけてよ なんてね 声 かけながら

(A ウーン ウン) (B ネ ホダネ) アルイテマシタカラ。

(A うーん うん) (B ね そうだね) 歩いていましたから。

(C クルマ クルマ クル) [8]

(C 車 車 来る)

027B : ホンダガラ マイノ ヒトノ アレネ、コエ カゲナガラダモノネ。  
だから 前の 人の あれね、声 かけながらだもんね。

(A ウーン) (C ウーン)

(A うん) (C うん)

028A : ホンデヤ アナ アイター ホノー ナカ°グ°ツ ハイデ ハイキューブッシー、  
それでね 穴 開いた その 長靴 履いて 配給物資、

ハイキューデー ナカ°グ°ツ モラッタ トギワ ウレシガッタネアー。{笑}

配給で 長靴 もらった 時は 嬉しかったなあ。{笑}

アンナ ナカ<sup>カ</sup>グ<sup>ツ</sup> バヤツリダオネア。 {笑} オー。 ホイデ  
あんな 長靴 取り合いだもんなあ。 {笑} うん。 それで

モンスー [9] ツカ<sup>ウ</sup>ノ。 {笑} アド ミギダラ ミギダケ、 {笑}  
文教 違うの。 {笑} あと 右なら 右だけ、 {笑}

(D ミギダケ) バヤツリ。 {笑} ンー ハナサネンダカラ。 {笑}  
(D 右だけ) 取り合い。 {笑} うん 離さないんだから。 {笑}

ヒッシダネ、 (D ウーン) アントキワ。 (B ホダネー)  
必死だね、 (D うーん) あの時は。 (B そうだね)

029D : アノ ワーグマンニ [10] ドロボー ハイラレテ (A アー)  
あの ワークマンに 泥棒 入られて (A ああ)

(B ウン アー) ヤッパリ ゼンブ ナグナツタツテ (A アー)  
(B うん ああ) やっぱり 全部 無くなつたって (A ああ)

(B アー) ナカ<sup>カ</sup>グツトカー。 (A ウーン) (B へー エー) ハツパイ  
(B ああ) 長靴とか。 (A うん) (B へえ ええ) やっぱり

カンガエデルゴドワ イッシヨナンダナツテ オモッタケド。 (B ンダネー)  
考えていることは 一緒なんだなって 思ったけど。 (B そうだね)

030A : イヤ ダゲド アノ ブッシワ アリガタガッタド。 シタキ<sup>ニ</sup>シロ  
いや だけど あの 物資は ありがたかったぞ。 下着にしろ

(B ソウダネー) ナー。 (B ウーン) ウ ウワッパリニシロサ。  
(B そうだね) ねえ。 (B うん) × 上着にしろさ。

031C : ホラ アソゴマデ (B ソーソーソー) イッタヨ、ブッシ モライサ、  
ほら あそこまで (B そうそうそう) 行ったよ、物資 もらいに、

(A ウーーン) ダイモンザギノ [11] アノ アレ パチンコヤノ ドゴサ  
(A うーん) 大門崎の あの あれ パチンコ屋の 所に、

(A アーアーアー) (B アー) (D アー) ジエータイノ ヒトダズネー  
(A ああ) (B ああ) (D ああ) 自衛隊の 人たちね

(B ネー) キテサー、(A ウンウンウン) ソシテ ヨゲナ キシヤ [12]  
(B ねえ) 来てさ、(A うんうんうん) そして 余計な もの

トライネンダ。 ヨゲナ キシヤ トル ヒトモ インノ ミデットネ。  
取れないんだ。 余計な もの 取る 人も いるの 見てるとね。

(D ウンウンウンウン) (B ウン ウン) コメダノッサ  
(D うんうんうんうん) (B うん うん) 米だのさ

(D ウン) (B ウン) コッチサ サキデ コッチサ マダ トツテ  
(D うん) (B うん) こっちに 下げて こっちに また 取って

コッチワ フタッコ シテ コヤッテ (B ウン)  
こっちは 蓋を して こうやって (B うん)

フタズ モツテク ヒトモ (A ウンウンウン) インノヨ。(B ウンウン)  
二つ 持って行く人も (A うんうんうん) いるのよ。(B うんうん)

ンダケドモ コノ ジエータイノ ヒトワ コー マッテ (A アー)  
だけでも この 自衛隊の 人は こう 回って (A ああ)

ハイ ハイッテネ (B ウン) ミンナ ワタサエデ。  
はい はいってね (B ウン) みんな 渡されて。

032 A : マズー コノ ハナシワネ (B ウン) (C ツギネーヨネ)  
まず この 話はね (B うん) (C 尽きないよね)

ツギネーネ コレ。 {笑} ウン。  
尽きないね これ。 {笑} うん。

宮城県石巻市方言会話集（自由会話）注記

〔1〕話者出身地

26歳の頃に石巻に嫁いできた。出身地を離れて現在までの期間が長いため、一関方言と石巻方言が混ざっているおそれもあるが、本会話集においては他の話者とのはっきりとした違いは見られなかった。

〔2〕オタグ

ここは調査者に向かって話しかけており、直後にあるCの「オネーチャンタズ」も調査者を指している。以下、〔3〕の注まで調査者に向かって話をしている。

〔3〕デネーダヨナー

これは他の話者に向けて発話されたもので、これ以降に話者同士の会話へと戻っている。

〔4〕該当箇所の音声

「ホンデ アレデー」という声に重なって「すみません」と言う調査者の声ははいっているが、会話に影響を与えていないことから文字にはそれを反映しなかった。

〔5〕ネーベンゲントモ

この表現は調査者に向かって話をしているものと解される。

〔6〕ヒトンチノイエ

この場合、ヒトンチは家庭などを指し、特に家屋を指すために「イエ」を付けていると解される。

〔7〕クサカヤマ

湊地区にある草刈山という地名。

〔8〕クルマ クルマ クル

この発話は前後文脈との関係が薄く、何か別の話題へ展開しようとしたものとも解されるが、これだけでは意図が通らない。さしあたって、聞こえたとおりにこのように掲載しておく。

〔9〕 モンスー

靴や足袋のサイズのこと。

〔10〕 ワークマン

工場・土木現場向け用品店の店名。

〔11〕 ダイモンザキ

湊地区の大門崎という地名。

〔12〕 キンヤ

人から受ける施しのこと。ここでは支援物資のことを指していると思われるので、さしあたって共通語訳は「もの」にしておいた。

宮城県石巻市方言会話集（自由会話）担当者

収録担当者 内間 早俊（東北大学大学院文学研究科博士後期課程 3年）  
黄 川川（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1年）  
福井 幸（東北大学文学部 3年）

文字化担当者 内間 早俊（東北大学大学院文学研究科博士後期課程 3年）  
黄 川川（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1年）  
福井 幸（東北大学文学部 3年）

# 被災地方言会話集

— 宮城県石巻市 —

<場面設定会話>

## 場面設定会話の概要

収録地点 宮城県石巻市

収録日時 2012（平成24）年11月28日

収録場所 宮城県石巻市万石町（話者A・B宅）

話題 【場面設定会話】  
全12場面

話者

|   |   |             |          |       |
|---|---|-------------|----------|-------|
| A | 男 | 1931（昭和6）年  | （収録時81歳） | [Bの夫] |
| B | 女 | 1937（昭和12）年 | （収録時75歳） | [Aの妻] |

話者出身地

|   |                 |
|---|-----------------|
| A | 石巻市万石町（マンゴクチョウ） |
| B | 大崎市松山（マツヤマ）〔1〕  |

【場面設定会話】

話し手

A 男 1931 (昭和 6) 年 (収録時 81 歳)

B 女 1937 (昭和 12) 年 (収録時 75 歳)

〈 あいさつ 〉

(1) 朝、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001 B : オハヨー。

おはよう。

002 A : オハヨーゴザイマス。(B ウン)

おはようございます。(B うん)

003 B : ドゴサ イク<sup>ろ</sup>ノー。

どこに 行くの。

004 A : ウーン。イマカラ チョットー ハダゲサー (B アー) インカト  
うん。今から ちょっと 畑に (B ああ) 行くかと

オモッテサー。

思ってき。

005 B : ナニガ ウエテタノー。

何か 植えてたの？

006 A : ウーン、イロイロ アッケッドモ キョワー (B アー) アイター、  
うん、いろいろ 有るけれども 今日は (B ああ) あれだ、

ミテクルダケダ。

見てくるだけだ。

007 B : ア ホント。サムイガラ キオツケラインヨ。ンデネ。

あ 本当。寒いから 気をつけなさいよ。じゃあね。



(2) 昼、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : コンヌズワー。

こんにちは。

002B : アラー。 (A ス) ドゴサ イッテキタノー。

あら。 (A X) どこに 行ってきたの。

003A : コレガラー チョコット ハダゲッコサ マワッテ インカト オモッテヤー。

これから ちょっと 畑に 回って 行こうかと 思ってさ。

004B : ジデンシャ アブナエカラネ キツケテ アルガインヨ。 [2]

自転車 危ないからね 気[を]つけて 歩きなさいよ。

(A ウン。ダネー) ンデネー。

(A うん。そうだね) それじゃあね。

005A : ハイ、ンデー。 ドモドモ。

はい、それでは。どうもどうも。

(3) 夜、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : オー オバーン。

おう こんばんは。

002B : アラー ドゴサ イッテキタノー。

あら どこに 行ってきたの。

003A : チョコット グルーット サンポサ イッテクツカト オモッテサ。

ちょっと ぐるっと 散歩に 行って来るかと 思ってさ。

004B : ユーカ<sup>°</sup>タ サムイガラ ハヤグ カエッタホ イーヨー。キーツケテー。

夕方 寒いから 早く 帰った方[が] いいよ。 気をつけて。

005A : ンダネー。 (B ウーン) ンダガラド オモッテ ハヤメニ キタンダケッドモ。

そうだね。 (B うーん) だからと 思って 早めに 来たんだけども。

006B : ウーン、ンデネー。 (A ハーイ ンジャ) コロバネヨーニネ。  
うん、それじゃあね。(A はい それじゃ) 転ばないようにね。

〈 労い 〉

(4) Aが仕事に精を出すBと会い、Bの労をねぎらう際にどのようなやりとりを行うか。

001A : キョワ オテンキ イークテ コレア カキムギモ イイネア。  
今日は お天気 良くて これは 牡蠣剥きも いいね。

002B : ンダヨー。キョーネー (A ウーン) アッタカイガラネー ワリト  
そうだよ。今日ね (A うん) 暖かいからね わりと

イーデバーツテ。 [3]  
いいよ。

003A : ンダネー。 オレモ チョコット (B ウン) イマ ホレー ウエノ デ  
そうだね。俺も ちょっと (B うん) 今 ほら 上の ×

デアクサンサ イッテキタンダケッドモー、フネッコ ナオシテモラウノニ。  
大工さんに 行ってきたんだけど、 船 直してもらうのに。

アー イマ ジョーツタツケ、 アイッタネー、  
あー [その帰りにここに]今 寄ったら、 あれだねえ、

アー メーコイッチャ ホレー。 [4]  
あ 小さいね ほら。

004B : ア ンデモ ネーンダヨー。タ カラ カデグテ タイヘンダデバー。  
あ そうでも ないんだよ。 × 殻 固くて 大変なんだよ。

005A : アー。 (B ウーン) ンジャ シンデーネー。 (B ウーン)  
ああ。 (B うーん) それじゃあ ひどい[=大変だ]ね。(B うーん)

ンデー ガンバツテ (B ハイヨー) ムイテケライン。  
それでは 頑張って (B はいよ) 剥いてください。

〈 勧め 〉

(5) Aが、仕事をしているBに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり。

001A : アー ヤッテヤネー。

ああ やっているね。

002B : ハーイ {咳} ムイデダヨー。

はい {咳} [牡蠣を]剥いているよ。

003A : ウーン マイヌズ イイネア。(B ウーン) ニダンモ イーンダイッチャネー。

うん 毎日 いいなあ。(B うん) 値段も いいようだね。

004B : ネダン イーデバ コドシー。

値段 いいよ 今年。

005A : ウーン (B ウン) ホガヌーモ ネーガラネア。

うん。(B うん) 他にも [牡蠣作っているところ]ないからなあ。

006B : ウーン。コドシ

うん。今年

007A : みんな ヤライデ アレ あの ツ ツナミデネー。

みんな やられて あれ あの × 津波でねえ。

008B : ンダネー。コドシミダイニ ネダン イートシモ ネーガラネ。

そうだね。今年みたいに 値段 いい年も ないからね。

009A : ネー

ねえ。

010B : ウン。

うん。

011A : ウーン。オラエニ アレ ケアリニ ヨッテ、ガガ ヒトリデ

うーん。うちに あれ 帰りに 寄って、母さん[が] 1人で

ツクント シテヤカラ。 ヨツテ オジャッコ ノンデッテ一、ケアリニ。  
しょんぼりと しているから。 寄って お茶 飲んでいって、帰りに。

012B : アー、アリガト。ンジャ カエリー ヨッカラ一、  
ああ、ありがと。それでは 帰り[に] 寄るから、

(A アーイ) ユットイデー。

(A はい) 言っておいて。

013A : デ ンデ ユツテオツガラ。  
× それでは 言っておくから。

014B : ウン。ンデネ一。  
うん。それじゃあね。

015A : ハーイ。  
はい。

〈 訪問時の声掛け 〉

(6) 昼間、AがB宅を訪れるときにどのように声をかけるか。また、返事をするか。

001A : コンニズワー。  
こんにちは。

002B : ハーイ。  
はい。

003A : イダノー。  
いるの。

004B : イダヨ。  
いるよ。

005A : オヤンツ イダガ。  
お父さん いるか。

石巻市 場面設定会話

006B : アラー オット イネデバ。  
あら お父さん [=自分の夫] 居ないよ。

007A : ドゴサ イッタングー、キョワ。  
どこに 行ったんだ、今日は。

008B : チョコット ドゴサ イッタングー。  
ちょっと どこに 行ったのだから。

009A : ンー アッチモヤー {笑} アイッタガラナー、デデアルッカラナー。  
うん あいつもさ {笑} あれだからな、 出て歩くからな。

アッチコッツ。  
あっちこっち。

010B : ウン。 デモ イマ クッペカラ オチャ ノマイン。 (A ウン)  
うん。 でも 今 来るだろうから お茶 飲みなさい。 (A うん)

ハイライン。  
入りなさい。

〈 借用の依頼と受託 〉

(7) AがBにスコップを借りるときのやりとり。(Bが貸す場合)

001A : アーラ コンニズワ。  
あら こんにちは。

002B : アイヨ。  
はいよ。

003A : チョコット オネガイサ キタンダゲッドモ、(B ハイ ナニー)  
ちょっと お願いに 来たんだけども、(B はい 何)

ンー ホレー ニワッコ チョコット ホンネゲネーガラ  
うーん ほら 庭 ちょっと 掘らなければいけないから

スコップ \_\_\_\_\_ ミタツケ ネーンダオンヤ オラエノイエニ。 [5]

スコップ \_\_\_\_\_ 見たら 無いんだもんな うちに。

(B アーラ ソ。 オラエ) ドゴサ イツタンダガ。

(B あら そう。 うちの) どこに いったんだか。

004B : ドゴガ ソノヘンニ アンデネ スコップ、モツテ (A カ ウーン)

どこか その辺に あるんじゃない スコップ、持って (A × うん)

イッタラ イツチャ。

行ったら いいさ。

005A : カシデモライデート (B ウーン) オモツテサー。

貸してもらいたいと (B うん) 思ってさ。

006B : モツテイッテ ツカワイン。

持って行って 使いなさい。

007A : ハイハイ。

はいはい。

〈 お礼 〉

(8) Aが借りたスコップをBに返しに行ったときのやりとり。

001A : コンニズワー。

こんにちは。

002B : ハーイ。

はい。

003A : スコップ モツテキタ、アレ カリダヤズ モツテキタドゴダ。

スコップ 持ってきた、あれ 借りたやつ 持ってきたところだ。

004B : アレ オワッタノー。

あれ 終わったの。

005A : ウーン。

うん。

006B : ツカッタノー。(A ウーン) アー、ンデー サッキ アッタ トゴサ  
使ったの。(A うん) ああ、それでは さっき あった 所に

オイテッテケライン。

置いていってください。

007A : アー、ド ダヤー、ンデ ナヤサ オゲバ イーンダナー。

ああ、× 納屋、それで 納屋に 置けば いいんだな。

008B : ウーン ウン。

うん うん。

009A : ウーン、ンデ ナヤサ オキニ インカラ。

うん、それで 納屋に 置きに 行くから。

010B : ハーイ。

はい。

〈 破損の謝罪・許容・不満 〉

(9) AがBに借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとり。

(9-1) Bが構わないという場合。

001A : アイヤイヤイヤイヤ。スコップ コレ コワリデ スマッデ。

あいややややや。スコップ これ 壊れて しまっテ。

002B : アラ。イー

ンダヨ フルイガラ キニシネグタッテ。  
あら。いいんだよ 古いから 気にしなくたって。

003A : ウーン イヤ、アノ、カッテ モッテクッカラ。

ううん いや、あの、買って 持ってくるから。

004B : アレ イーッデバ カワネグダッテ、イーノ (A ナ ンダッテ) ドーセ、

あれ いいってば 買わなくたって、いいの (A × だっテ) どうせ、

イーノ イーノ。  
いいの いいの。

005 A : ダッテ イーノ イーノッテ ユッタテヤー、ネーゲ フズユーダベチャヤ。  
だッテ いいの いいのって 言ッたッてさ、無ければ 不自由だろうよ。

006 B : ウウン。イーガラ ソノ チョ (A ウーン) フルインダガラ ソイズ。  
ううん。いーから その ×× (A うーん) 古いんだから そいつ。

(9-2) Bが破損に対して不満を述べる場合。

なし [6]

〈 誘いと断り 〉

(10) AがBを祭りに誘う際のやりとり。

001 A : オイ イダノー。  
おい いたの。

002 B : ハイ イダヨー。  
はい いたよ。

003 A : ア ア キョ アレーー、サンハンデー [7] マズリ  
× × 今日 あれ、 サンファンで 祭り

アンダーツツケーナー。 (B ウン アー) ンダガラ イッテミネー。  
あるんだって言ッてたッけな。 (B うん ああ) だから 行ッてみない？

004 B : アラー、オラ イカ°ンネ アソコサ、イカ°ンネヨー。  
あら、 俺 行けない あそこに、行けないよ。

005 A : イーガラ クルマサ ノシテ インカラ、イーガラ。  
いいから 車に 乗せて 行くから、いいから。

006 B : アー デモサ ナニモ カウモノモ ネーシ サムイガラ  
ああ でもさ 何も 買うものも ないし 寒いから



イカ°ンネ オラ キヨ。

行けない 俺 今日。

007A : ナーндаヤ ワザワザヤ サソイサ キタノニヤ。

なんだよ わざわざさ 誘いに 来たのにさ。

008B : アラ ゴメーン。

あら ごめん。

〈 お見舞い 〉

(11) 体調を崩しているBに、Aが体の調子を尋ねる際のやりとり。

(11-1) Bの調子がいい場合。

001A : コンニチワー。

こんにちは。

002B : ハーイ。

はい。

003A : イダノ。

いるの。

004B : ハイ イダヨ。

はい いたよ。

005A : アー、キョーワ タイチョー ドーダノ。

あー、今日は 体調 どうなの。

006B : ウーン キョーワ、

うーん 今日は、

007A : ナンボガ イーノ。

いくらか いいの。

008B : ナンボガ イーデバ。

いくらか いいってば。

009A : アー、(B ウーン) デ ンデ イーネー。  
ああ、(B うーん) × それで[は] いいね。

010B : ウーン オカゲ<sup>°</sup>サマデネー。(A デモナー ウーン) ナンボガ  
うん おかげさまでね。(A でもな うーん) いくらか  
  
イーデバ。  
いいってば。

011A : ダイズニ スネート。  
大事に しないと。

012B : ンダネー。(A ウン) オタガイ トシダガラ。(A ウーン トシ  
そうだね。(A うん) お互い 年だから。(A うん 年  
  
トツタネ) キーツケネバネ。 ウン アンダモ キオツケテネ。  
取ったね) 気をつけなければね。うん あんたも 気をつけてね。

013A : ウーン。  
うん。

(11-2) Bの調子が悪い場合。

001A : アラ コンニジワー。  
あら こんにちは。

002B : ハーイ。  
はい。

003A : ナジョデガスー。(B ンダネー) タイチョーワ。  
どうです? (B そうだね) 体調は。

004B : キョ ナンダガネー、チョットネー チョーシワリーノ。(A アララ)  
今日 なんだかね、ちょっとね 調子悪いの。(A あらら)

キョ サムイガラダガ ナンダガサー チョット チョーシ ワリンダデバー。  
今日 寒いからだか なんだかさ ちょっと 調子 悪いんだってば。

005A : ビョーインサワ イッテヤンデガスツペ。  
病院には 行っているんでしょう。

006B : イッテダヨー。(A ウー) ウーン デモ ナガナガネー、ヨク°ナンネノネー。  
行ってるよ。(A ああ) ウーン でも なかなかね、良くなるないのね。

007A ウン。  
うん。

〈 申し出 〉

(12) 体の調子が悪く、家の片付けもできないというBに、Aが「(私が)片付けてやろう」というときのやりとり。

001A : アーラ コンニズワ。  
あら こんにちは。

002B : ハーイ。  
はい。

003A : タイチャー ドーダノ。  
体調 どうなの。

004B : コノゴロネー アンマリ ヨク° ネーガラサー、サツパリ ソノヘンモ  
この頃ね あんまり 良くないからさ、 さっぱり その辺も

ウーン ナニモ カタズゲネデ イダデバー。 [8]  
ううん 何も 片付けなくて いるってば。

005A : インデー カタズケテ ヤルスカ。  
それじゃあ 片付けて あげますか。

006B : インデー スコシサー ソノヘンノ クサッコ トツテケネー。  
それで[は] 少しさ その辺の 草 取ってくれない?

オネガイスッカラー。

お願いするから。

〈 禁止 〉

(13) 片付けの最中に、大事な写真をAが間違っ捨てようとしているときに、Bがそれを制止してどのようにいうか。

001A : ナヤッコ カタズゲッカ。

納屋 片付けるか。

002B : ウーン デワ オネガイネー。

うん では お願いね。

003A : デ ナンデモ イーノ。コイズラ アノ ミナ インダ、 イラネーダベ。

で 何でも いいの？こいつら あの みんな いいんだ、いらなんだろう？

004B : ウーン イーノ イーノ。

うん いいの いいの。

005A : ウーン ンデ コエ ミンナ ナケ° ッカ。

うん それで[は] これ みんな 捨てるか。

006B : ア アー ンデネーノ ソノシャシンワ シャシ シャシタテ ダメ、

あ ああ そうじゃないの その写真は ××× 写真立て 駄目、

ソイズワ ダメダヨーッテ。

そいつは 駄目だよって。

007A : ン アー コイズガー。(B ウーン) ナシテ コイズワ、

ん ああ こいつか。(B うん) どうして こいつは、

イラネツチャヤー。

いらなんでしょう。

008B : ソイズ ダイジナモノナノ。(A アラララ) ウーン、ソイズワネー

それは 大事なものなの。(A あらら) うん、それはね

石巻市 場面設定会話

(A シー シーデ) ダメ。(A シー ンデ) ソイズバ  
(A うん それで) 駄目。(A うん それで) そいつを

イーガラ。

[捨てなくても] いいから。

009A : ホイズワ ホイツ ホイツチャ ハズメツカラ ノゲデオッカー。  
そいつは ××× それに 初めから 除けておくか。

010B : ソイズバリ ヌイデ シ カダズゲデー。ンデー。  
それだけ 抜いて × 片付けて。 それじゃあ。

011A : ウン ウン。  
うん うん。

宮城石巻市方言会話集（場面設定会話）注記

〔1〕大崎市松山

旧志田郡松山町。話者はそこで生まれ二十歳の時に万石町へ嫁入りした。本来、石巻市出身者の話者同士の会話を収録すべきであったがかなわなかった。

この会話を別の石巻市出身者が聞いても違和感はないとのことであるが、利用の際には注意を要する。

〔2〕アルガイン

直訳すると「歩きなさい」であるが、石巻に限らず東北各地の方言で「歩く」という動詞は「行く」や「出かける」のように移動を表す意味で用いることができる。

〔3〕イーデバーツテ

文末の「ツテ」は調査者に向けたものと思われる。すなわち、「『いいんだよ』って（言うかな）。」のようにやや説明を志向した言い方である可能性が高い。この部分の音声は直後の音声と重なっており、取り除くことができなかつたため、さしあたって文字化はしておくが、共通語訳の方には意味を反映しないでおく。

〔4〕メーコイッチャ

石巻市で小さい、可愛いなどの意味を表す方言は「メンコイ」「メンケー」であるが、ここでは自然会話の中で「メーコイ」と発音されている。前段からの文の続きがわかりにくい、Aが牡蠣剥きの場に立ち寄りたまたまそこでBの剥いている小さい牡蠣を目にしたという設定で話されたものである。牡蠣が小さいということは剥くのにさほど苦労がいらないうろうということを示唆しているが、Bにとっては牡蠣の殻が固くて大変だと返す文脈である。このように場面依存の会話は決して珍しいものではない。

〔5〕オラエノイエニ

発音が不明瞭なため判然とはしないが、このように記述した。本来はオラエで「我が家」の意味を持つが、より具体的に場所を指すためにイエをつけたものと思われる。

〔6〕(9-2)の未掲載

相手に直接不満を述べるということが日常の場面において想定しづらいうろ、調査時に十分な内容を録音することができなかつたため、この項目については掲載し

なかった。

〔7〕 サンハン

石巻市にある宮城県慶長使節船ミュージアムの愛称。サン・ファン・パウティスタ号が展示されていることから、こう呼ばれている。

〔8〕 イダデバー

前文節と連続して「カタズケネデラデバ」のようにも聞こえる。この場合は、「カタズケネデ(イ)ダデバ」の d 音と r 音が交替したものだろうか。ここでは、文意を優先して「イダデバ」の形式で記述をおこなった。

宮城県石巻市方言会話集（場面設定会話）担当者

収録担当者 内間 早俊（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）

津田 智史（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）

文字化担当者 内間 早俊（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）



## 【 宮城県石巻市の方言概観 】

ここでは、今回の会話集に現れた特徴を中心に、伝統的な石巻市方言の音声や文法を概観していきます。

### 1 音 声

#### 【子音】

##### ▼カ・タ行の有声化

語中・語尾にあるカ・タ行の音が有声化し、ガ・ダ行になる。

☞これは平たく言えば、単語の頭以外にあるカ・タ行の音が濁音のガ・ダ行になることで、有声化と呼ばれる現象です。専門的には、母音に挟まれた無声子音/k/ /t/が有声子音/g/ /d/になること、と説明されます。但し、単語の頭に位置するカ・タ行の音は普通は有声化しません（下の例で言えば柿は「ガギ」にはなりません）。

例) カ行→ガ行 (k/→g/) : 開ける → アゲル、柿 → カギ  
タ行→ダ行 (t/→d/) : 旗 → ハダ、 的 → マド

この特徴は、この会話集に収録された用例にも数多く見られています。例えば、カ行音については、「ウチノナガ」（家の中）、「ジューギ」（重機）、「ワークマン」（ワークマン）、「余計」（ヨゲ）、「オゴラエタ」（怒られた）のように、語中のカ行音が濁音となっていることがわかります。また、タ行音も「ワダシ」（私）、「ヒトダジ」（人たち）、「フタズ」（二つ）、「タノマエデ」（頼まれて）、「ドゴ」（所）のように濁音化して現れている例が多く見られます。ただし、完全にガ行ダ行の音に濁るのではなく、共通語の発音よりは濁っているという程度の発音も多く聞かれます。また、話者によってもその濁り方の程度には差が見られます。

##### ▼ガ・ダ・ザ・バ行の鼻音化

語中・語尾にあるガ・ダ・ザ・バ行の音が鼻音化する。

☞単語の頭以外にあるカ行がガ行になることによって、「開ける」はアゲルになってしまい、「上げる」と混同しそうですが、「上げる」のほうはゲが鼻にかかった音（ここでは「ヶ」のように半濁点を用いて表記する）のアケルとなり、

「開ける」＝アゲル

「上げる」＝アゲル

で両者の混同は起こりません。このようにもともと濁音の「ゲ」と発音されていたものが「ケ」に変化するような現象を鼻音化と言います。会話集から少し抜粋してみますと、「ワカイコカ」（若い子が）、「ツキ」（次）、「ナカクツ」（長靴）、「ナケタ」（投げた）、「ヨコレタ」（汚れた）のように現れていることがわかります。

同様にダ・ザ・バ行も鼻音化します（ここでは「ンダ・ンゼ・ンビ」のように上付きのンで表記します）が、これらは衰微が著しく、今回の会話集の中にはほとんど聞かれませんでした。

例) ダ行：肌 → ハンダ  
 ザ行：風 → カンゼ  
 バ行：首 → クンビ

#### ▼キ（キャ行）の口蓋化

キが「チ」と発音される。また、キャ、キュ、キョも「チャ、チュ、チョ」と発音される。

☞一般的にはこれは「口蓋化」の一種と見られています。口蓋化とは舌の前の部分が上あご（硬口蓋）に接近する現象を言います。キがキとシの中間のような音になるという、似た現象は東北一般で広く見られますが、特に石巻市では極端な口蓋化が起こってチに近くなって聞こえることがあります。

例) 機械（きかい） → チカイ  
 木（き） → チ  
 菊（きく） → チグ  
 救急車（きゅうきゅうしゃ） → チューチューシャ  
 今日（きょう） → チョー

ただし、今回の会話集の話者たちはその傾向も弱まっているように見受けられます。

#### ▼シとス、ジとズ、チとツなどの中舌化

イ段音とウ段音が近い音となる。

☞イの音がウの音に近づく現象（またはその逆も）を「中舌化」（ちゅうぜつか、なかじたか）と言いますが、石巻ではイ段音とウ段音でこの中舌化が起き、ニとヌ、ミと

ム、リとルなどが互いに近い音になります\*。これらは一応の区別がありますが、シとスに関しては両方とも「ス」、ジとズは両方とも「ズ」、チとツは両方とも「ツ」と発音され、これらは区別がありません。ズーズー弁と言われるゆえんです。

例) 獅子 (しし)、煤 (すす)、寿司 (すし) → すべてスス  
知事 (ちじ)、地図 (ちず)、辻 (つじ) → すべてツズ

※ただし、母音単独のイだけはエに統合されます (後述)。

今回の会話集では「ハスタデネー」(半端でない; ハシタデナイ) や「フンズゲテ スマッテ」(踏んづけてしまって)、「ズエータイ」(自衛隊) のような例を確認することができます。

#### ▼シュ、ジュ、チュの直音化

シュが「ス」、ジュが「ズ」、チュが「ツ」と発音される。

☞これに上記の中舌化も合わせると、シ・ス・シュがすべて「ス」、ジ・ズ・ジュがすべて「ズ」、チ・ツ・チュがすべて「ツ」という発音となります。

例) 爺さん (じいさん)、十三 (じゅうさん) → 両方ともズーサン  
手術 (しゅじゅつ) → スズツ  
注射 (ちゅうしゃ) → ツーシャ

#### ▼その他にも、以下のような特徴があります。

・母音単独のイとエの区別がなく、エに統合されている。

例) 息 (いき)、駅 (えき) → 両方ともエギ  
鯉 (こい)、声 (こえ) → 両方ともコエ

・アイ・アエという母音の連続 (連母音) は融合して[ɛ:] (共通語のエー[e:]よりも口を開いて発音する) と発音される。また、連母音の融合は県内でも特に顕著である。

例) 大工 (だいく) → デーク  
臭い (くさい) → クセー  
若い (わかい) → ワゲ

- ・ヒの音がシに近い音となる。

例) ゴミ拾い (ゴミヒロイ) → ゴミシロイ

- ・ユの音が口蓋摩擦音を伴い、ズに近く発音される。

例) 雪 → ズキ  
ゆうべ → ズーベ  
指 → ズビ  
湯 → ズ  
寄ったから → ジョーッタツケ

- ・二重子音ツシヤ、ツシヨが見られる。

例) 支所 → ツシヨ  
知らない → ツシヤネ  
悪さ → ワツシヤ

## ¶ アクセント

石巻市は、仙台市以南の無型アクセント地域とは異なり、東京式アクセントに準ずる有型アクセントである。

☞例えば「箸」と「橋」を声に出したときに、有型アクセントの地域ではハとシの音の高低が決まっています (=型がある)、それによって単語の区別がつかますが、無型アクセント地域では高低が決まっていない (=型がない) ため、区別されません。石巻は有型アクセントの地域とされています。ただし、語によってアクセントの揺れが激しく、助詞をつけた文では東京式のアクセントで発音されても、助詞をつけなかったり、単語言い切りの場合などには、共通語とは異なったアクセントになることもあります。

## Ⅰ 文 法

### 【格助詞】

#### ▼「が」「を」の不使用

共通語の「が」「を」にあたる格助詞を使わないことが多い。「を」格相当のものとしては「バ」や「ドゴ」が用いられることもある。

☞共通語の「が」のような主語を表す助詞や、「を」のような目的語を表す助詞が用いられず、以下のように無助詞で表示されることがよく見られます。特に、「を」にあたる助詞に顕著です。

例) 主語 : 俺 行く (俺が行く)  
目的語 : 酒 飲む (酒を飲む)

今回の会話集の話者たちからも、「ヒド イダヨー」(人がいたよ)、「アタマ サカール」(頭が下がる)、「クイモノ モッテコナキャナイ」(食べ物を持ってこなければならぬ)、「ヤマ コエデー」(山を越えて) などのように、「が」や「を」を使わない発話が聞かれました。

#### ▼「サ」

共通語の「へ」「に」に当たる格助詞に「サ」がある。

☞「サ」は共通語の「へ」よりも意味が広く、「に」に重なるところも多くあります。

例) ドゴサ イク<sup>ノ</sup> (どこに行くの)  
ハダゲサー インカト (畑に行くかと)  
タスケサ イク<sup>ノ</sup> (助けに行くの)  
バスサ ノッテ (バスに乗って)

### 【助動詞】

#### ▼「べ」

共通語の「～だろう」(推量)や「～しよう」(意志)に相当する助動詞に「べ」がある。

☞「べ」は<推量><意志>のほかにも<確認><勧誘>などがあり、その用法は多岐にわたります。また、「取る、起きる、来る」など「る」で終わる動詞に接続するときは「る」が「ッ」となる促音便が生じ、それぞれ「トッペ、オギッペ、クッペ」の

ようになります。

- |                            |      |
|----------------------------|------|
| 例) 明日、雨だべ。(明日雨だろう。)        | <推量> |
| 明日は早く起きッペ。(明日は早く起きよう。)     | <意志> |
| お祭り、お前も行くべ?(お祭り、お前も行くだろう?) | <確認> |
| みんなでがんばッペ。(みんなでがんばろう。)     | <勧誘> |

今回の会話集では、「ネーゲ フズユーダベチャヤ」(無ければ 不自由だろうよ)、のような推量する用法や、「イラネーンダベ」(いらないんだろう?)のような確認する用法、「トーカド カガッタンデネベガ」(十日とかかったんでないだろうか)などのように「～ベガ」の形で相手に確認をとる用法が見られます。

#### ▼「タ」「タッタ」

「タ」は共通語の過去・完了の助動詞「た」よりも用法が広く、現在目の前にあることの確認などにも使われる。

- |                 |   |         |
|-----------------|---|---------|
| 例) (私は今,) 学校にいる | → | 学校にイタ   |
| (私は今,) 手紙を書いてる  | → | 手紙をカイテタ |

また、「タッタ」は過去の思い出など、現在と切り離された過去で用いられる。

☞「タッタ」は、「タ」と比べて過去の出来事が発話時に存在する場合には使われにくく(この場合は「タ」が用いられます)、過去の出来事が発話時に存在しない場合に使用されやすくなります。これを上記では「現在と切り離された過去」と表現しました。

以下の例で説明すると、①は昨日もらった桃が今もあるときの発言であり、これは過去の出来事が発話時に存在すると読みとることができます。このような場面では「タ」が使われます。②は昨日もらった桃が今はもうないという状況であり、これは過去の出来事が発話時に存在しないと捉えられます。このとき、「タッタ」が用いられます。

- 例) ①きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタ。あんたも食べる?  
 ②きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタッタ。  
 あんたが来るなら少し残しておけばよかったなあ。

<例文は竹田(2011)より引用>

今回の会話集では、「オヤンツ イダガ」(お父さんいるか)のような用法が見られます。

【終助詞】

▼「チャ」

強調、当然、働きかけの意味を表す「チャ」が用いられる。

☞具体的には、相手が知っているはずの事柄を示し確認させるなどの機能があり、共通語の「でしょ」「じゃない(か)」「よね」などのような意味を持ちます。

例) イザツツートキ コゴ イク<sup>°</sup>ツチャー (いざという時ここ行くよね)  
ヨコ<sup>°</sup>レタママ カエッテッタチャ (汚れたまま 帰ってったよね)

【接尾辞】

▼「～コ」

名詞のあとに「～コ」を付けて、そのものへの親近感を表す。

例) ヨッテ オジャッコ ノンデッテ (寄ってお茶飲んでいって)  
ナヤッコ カタズゲッカ (納屋片付けるか)

★その他、以下のような特徴もあります。

・逆接既定条件(共通語の「けれども」)は「ケッドモ」が用いられやすい。順接既定条件(共通語の「から」)は「ガラ」が用いられる。

例) ワタシワ ソノヒトモ ワカッケッドモ (私はその人もわかるけれども)  
ンダケドモ コノ ジエータイノ ヒトワ (だけどもこの自衛隊の人は)

アツガッタガラネ (暑かったからね)  
カナズズ ネーガラ トッカグ アルモノデ (金づち無いからとにかく有るもので)

・待遇表現は「ス」「(デ) ガス」「(ラ) イン」などが用いられる。

例) カタズケテ ヤルスカ (片づけてあげますか)  
ナジョデガス (どうですか?)  
サムイガラ キオツケラインヨ (寒いから気をつけなさいよ)

【参考文献】

- 石巻市史編さん委員会編「言語編」『石巻の歴史 第三巻 民俗・生活編』石巻市
- 加藤正信（1969）「東北方言概論」『言語生活』210
- 加藤正信（1992）「宮城県方言」平山輝男・大島一郎・大野眞男・久野眞・  
久野マリ子・杉村孝夫編『現代日本語方言大辞典 第1巻』明治書院
- 小林隆編(2003)『宮城県石巻市方言の研究』東北大学国語学研究室
- 佐藤亨（1982）「宮城県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学4 北海道・  
東北地方の方言』国書刊行会
- 竹田晃子（2011）「テンス形式および文末の「ケ」の用法」小林隆編『宮城県・山形県陸羽  
東線沿岸地域方言の研究』東北大学国語学研究室
- 東北大学方言研究センター（2012）『方言を救う、方言で救うー3.11 被災地からの提言ー』  
ひつじ書房



おな がわ ちょう  
女 川 町



女川さんま祭り  
(写真提供：宮城県観光課)



## 宮城県牡鹿郡女川町概要

### ①女川町の概観

女川町は、牡鹿半島基部に位置し、北・西・南の三方は石巻市に囲まれ、東側は女川湾に面している。多くの湾入部を持つリアス式海岸の典型的な地域であるが、その一方で山林も豊かであり、町の 9 割近くが山林である。女川港が天然の良港であり、世界三大漁場の一つである金華山沖漁場も近いことから、女川町は水産業の町となっている。また、町の南には東北電力の女川原子力発電所がある。

水産業の比率が高く、金華山沖の沿岸漁としてサバ、カツオなどの水揚げが豊かであるのに加え、カキ、ホタテ、ホヤ、銀鮭などの養殖漁業も盛んなことから、魚市場には年間を通じて豊富な魚種が数多く水揚げされている。

### ②収録地点について

話者の出身地である女川浜は女川町の中心部、尾浦はその東側にあり、ともに沿岸に位置している。

### ③東日本大震災による女川町の被害

3月11日の地震で、女川原子力発電所の震度計は震度6弱を観測した。また、その後の津波は女川原発の潮位計で浸水高13m超、女川漁港の消防庁舎で波高14.8mを記録した。町中心部は壊滅的な被害を受け、死者・行方不明者を合わせると町の人口の1割近くとなる大災害となった。

表1 女川町の人的・住宅被害

| 女川町人口   | 人的被害 |      |              | 住宅被害   |      |
|---------|------|------|--------------|--------|------|
|         | 死者   | 行方不明 | 死者・行方不明の対人口比 | 全壊     | 半壊   |
| 10,051人 | 575人 | 369人 | 9.39%        | 2,923棟 | 338棟 |

表2 女川町の浸水被害

|    | 浸水範囲の被害 | 割合    |
|----|---------|-------|
| 人口 | 8,048人  | 80.1% |
| 世帯 | 3,155世帯 | 79.5% |

※ 本文の内容は、衛藤（2012）P.150～155に依拠する部分が多い。特に、表1・表2は衛藤（2012）のデータをそのまま引用した。

### 参考文献等

衛藤英達（2012）『統計と地図でみる東日本大震災市町村のすがた』日本統計協会  
女川町ホームページ「町の紹介」（[http://www.town.onagawa.miyagi.jp/02\\_01\\_01.html](http://www.town.onagawa.miyagi.jp/02_01_01.html)）  
（2013/02/23 アクセス）

## 被災地方言会話集

— 宮城県牡鹿郡女川町 —

<自由会話>

### 自由会話の概要

- 収録地点 宮城県牡鹿郡女川町
- 収録日時 2012（平成24）年7月13日
- 収録場所 宮城県牡鹿郡女川町女川浜大原 ふれあいオレンジハウス
- 話題 【地域の文化のこと】
- 話者
- |   |   |             |          |        |
|---|---|-------------|----------|--------|
| A | 女 | 1932（昭和7）年  | （収録時80歳） | [Bの知人] |
| B | 男 | 1946（昭和21）年 | （収録時66歳） | [Aの知人] |
| C | 男 | 1977（昭和52）年 | （収録時34歳） | [調査者1] |
| D | 女 | 1988（昭和63）年 | （収録時24歳） | [調査者2] |
- 話者出身地
- |   |                |
|---|----------------|
| A | 女川町尾浦（オウラ）     |
| B | 女川町女川浜（オナガワハマ） |

【地域の文化のこと】

話し手

|   |   |                |            |         |
|---|---|----------------|------------|---------|
| A | 女 | 1932 (昭和 7) 年  | (収録時 80 歳) |         |
| B | 男 | 1946 (昭和 21) 年 | (収録時 66 歳) |         |
| C | 男 | 1977 (昭和 52) 年 | (収録時 34 歳) | [調査者 1] |
| D | 女 | 1988 (昭和 63) 年 | (収録時 24 歳) | [調査者 2] |

001C : エーットー。ドーデスカネ、チーキノ デントーブンカミタイナノワ。  
えーと。 どうですかね、地域の 伝統文化みたいなのは。

アー、イマノ タイコミタイノワ コノヘンノ ヤツ (A エッ) デスカ。  
あー、今の 太鼓みたいのは この辺の やつ (A えっ) ですか？

タイコ、ヤッテタノワ。コドモタチガ ヤッテタ タイコッテユーノワ、  
太鼓、 やってたのは。子どもたちが やってた 太鼓ってというのは、

(A ンー) コノヘンノ ナンカ マツリカ ノ ナンカ  
(A んー) この辺の なんか 祭りか × なんか

002A : ンー ツカウヨ。  
うん 使うよ。

003B : アー。  
ああ。

004A : ンー。アドホラ、ソズギョーシギ \_\_\_\_\_トガ ツカウネー。(C ンー)  
うん。あとほら、卒業式 [に] \_\_\_\_\_とか 使うねー。(C うんうん)

005B : ンー、アドー、(A ウーン) アレ、ミナドマズリ ドガサー。(A ンー)  
うーん、あと、(A うん) あれ、港祭り とかさ。(A うん)

イマワ ホレ、ツナミイコーワ、アノー ヤンネーケドモサー。アドホレ、  
今は ほら、津波以降は、 あのー やらないけどもさ。 あとほら、

ス アギノ サンマ シューカクサイドガサ、 (A シューカクサイ)  
× 秋の サンマ 収穫祭とかさ、 (A 収穫祭)

ソーユーノデモネ、シー、ヤッターリスルワゲサ。  
そういうのでもね、んー、やったりするわけさ。

006C : シーシーシー。  
うんうんうん。

007B : マー、フツーノ デントーゲーノーワ デントー ゲ ゲーノッテノモ アルヨ。  
まあ、普通の 伝統芸能は 伝統 × 芸能ってのも あるよ。

アノ、オショーカ°ズニワ、ススフリ [1] ッテユー。シンマイネ、  
あの、お正月には、 ススフリ っていう。獅子舞ね、

(C ー) ススフリッテ。カグイッケン マワッテ アルイダダ。  
(C ー) ススフリって。各一軒 回って あるいたんだ。

008A : インダ、 ススフリデ インダガラネ。  
いいんだ、ススフリで いいんだからね。

009C : シー、イーデス (A シー) イーデス。ワカンナカッタラ (A ソダ)  
うん、いいです (A うん) いいです。わからなかったら (A そうだ)

アトデ (B ー、シー) コチラカラ キキマスノデ。  
あとで (B うん、うん) こちらから 訊きますので。

010A : ススフリダガラ ススフリデイーガラ。{笑}  
ススフリだから ススフリでいいから。{笑}

011C : マ、ナンカソソナ、オハナシオ (A ー) (B ー) フタリデ  
ま、なんかそんな、お話を (A うん) (B うん) 二人で

シテイタダケレバ。 (B ー) コーユーノ アッタトカ。  
していただければ。 (B うん) こういうの あったとか。

012A : ムガシ アン ナマゴシギ [2] ツツーノモ アッタオンネー。  
昔 あの ナマコ引き っていうのも あったよね。

013B : オラ ワガンネーナ。  
俺 わからないな。

014A : アー ホントー。  
ああ 本当。

015B : ウン。  
うん。

016A : ナマゴ アノー ナワサ ツナイデ ヒツパッテ アルグンダデバー。  
ナマコ あの 縄に つないで 引っ張って 歩くんだよ。

017B : アーアー。(A ンー、ホッテ アンタ) ホー、ホイズワナニナニ、  
ああ。(A うん、それで あんた) そう、それは何、

ドゴデシタノスカ。  
どこでしたんですか。

018A : オウラアダリ ドゴ ヤッテル。  
尾浦あたり[の] ところ[で] やってる。

019B : アー、オラワ、オラ ワガンネーナー。  
ああ、俺は、俺 わからないなあ。

020A : ナーマゴシーギ オンドリダー [3] ノ (B アーアー)  
「ナマコ引き お通りだ × (B ああ)

ナーカ° ムーシ ヨーゲロ ッテナンダー。 {笑}  
長虫 よける」 ってなるんだ。 {笑}

021B : ウーン、オラ ワガンネー。  
うーん、俺 わからない。

022 A : アド、カラスボイ [4] ツツーノ、アツタンデネガ。  
あと、カラス追い っていうの、あつたんじゃないか？

023 B : ア、カラスボイ アルヨ。  
あ、カラス追い あるよ。

024 A : シー。(B ウン) フネノ ヘサギサ アレ、ダンコ°、(B シー) ソナエデ。  
うん。(B うん) 船の 舳先に あれ、団子、(B うん) 供えて。

ホッテ、アノ アレ、ナンダ アイズ。ゴヘーミダイナノワ。(B ウン)  
それで、あの あれ、なんだ あれ。御幣みたいなのは。(B うん)

アイズ ツケデネ、(B ウン) ボーウンダワ、カラス。  
あれ[を] つけてね、(B うん) 追うんだわ、カラス。

025 B : アイズ オワツタラー (A イマ ネグナツタモン) イマ ホレ アノ  
あれ 終わったら (A 今 なくなったもの) 今 ほら あの

(A シー、ホイナノ ネグナツタ) ムガシガラ (A シー) デ デントーー、  
(A うん、そんなの なくなった) 昔から (A うん) × 伝統、

ツテガサ、 ホイナノ ネグナツタナ。  
っていうかさ、そんなの なくなったな。

026 A : シー。  
うん。

027 B : シー、ヤツタリ ヤツタリ (A ホントニ) シェバ ミコ° ドニ  
うん、やったり やったり (A 本当に ) すれば 見事に

028 A : ショーワ アンダ ショチアダリ アツタゲツトモ、イマ ネグナツタオン、  
昭和 あんた 初期あたり あつたけども、今 なくなったもの、

ソイナノ。ンナノ ナツカシーヨネー。  
そんなの。そんなの 懐かしいよねえ。



029 B : ウン。

うん。

030 A : アド、カシエドリ [5] アッタイッチャ。カシエドリ ネガッタノワ。

あと、カセドリ あったよね。 カセドリ なかったの？

031 B : ナニ、カシエドリッテ。

何、カセドリッテ。

032 A : ナンダー、ヒョーシキ° タダイデ アンダー。

なんだ、拍子木 叩いて あんた。

ホッテ アンダ、イッケンイッケン モラッテアルイテダндаヨ、コドモダズ。

それで あんた、一軒一軒 もらって歩いてたんだよ、子供たち。

033 B : アー、ワガンネ。

ああ、わからない。

034 A : アー、ホント。

ああ、本当。

035 B : ン。

うん。

036 A : ウン。

うん。

037 A : イマ ホイナノンナノ ネグナッタ。

今 そんなようなの なくなった。

038 B : アドワ ハルニナレバ、ボンマズリ、(A ン) ダナー。ミゴシ、オ、

あとは 春になれば、盆祭り、(A うん) だなあ。神輿、を、

カズイデサ。ヤッテイク°、ン、ン、オミコシジュンコーツテ ユーノガナ。

担いでさ。やっっていく、ん、ん、お神輿巡行って いうのかな。

039 A : シー、アド ミナドマズリ アノ  
うん、あと 港祭りの あの

040 B : マー ミ ミナドマズリワネー、(A ア アイズゴドネー シー) ホイズワ、  
まあ × 港祭りはね 、(A × あれをね うん) そいつは、

アドガラ デキタケトモ マー、コゴノ、ムガスカラノ  
あとから 出来たけども まあ、ここの、昔からの

デントーギョージッテイエバ、ススフリド、オミゴシカズキ° ダナー。  
伝統行事っていえば、 ススフリと、お神輿担ぎだなあ。

041 A : ウウーン。  
うん。

042 B : シー。  
うん。

043 B : ムガスワ スコ° ガッタンデネーノガナー、センサーカ° エリノ  
昔は すごかったんじゃないのかなあ、戦争帰りの

ストダズダノカ°  
人たちなどが

044 A : ダッテ、ムガス ナンニモ アスブモノネーガラ、ホイダノ  
だって、昔 なんにも 遊ぶものないから、 そんなの[が]

タノシミナンダモンネー。  
楽しみなんだものね。

045 B : シー。  
うん。

046 A : ウン。  
うん。

047B : コレ モット  
これ もっと

048A : イマミテーニ ハイッカラデネーモノ、アンタ。  
今みたいに ハイカラじゃないもの、あんた。

049B : サゲ スー (A ンー) サゲ サゲ ノムズノモ ホイナ  
酒 ×× (A うん) 酒 酒[を]飲むというのも そんな

オショーカ° ズドガ オマズリデネゲア ノマエネーガラサ、 (A ノマエネ  
お正月とか お祭りでなければ 飲めないからさ、 (A 飲めない

ノマエネ) ケンカバリ ステンダー。ンダガラ、ショッチュー。  
飲めない) 喧嘩ばかり してるんだ。だから、しょっちゅう。

050A : フロダッテ ヘアーレネーベシネアー。  
風呂だって 入れないだろうしね。

051B : {笑} フロワ、 (A ンー) フロワ ヘッタノワ ヘッタндаヨ。  
{笑} 風呂は、 (A うん) 風呂は 入ったのは 入ったんだよ。

052A : ンー。  
うん。

053B : アノー  
あの一

054A : チノフロ。  
木の風呂。

055B : ドロマツカンダー、オラノ。  
ドラム缶だ、 俺の。

056A : アー、キノフロダデバ。  
ああ、木の風呂だよ。

057 B : ホー、マダ イッチャ。

ほう、まだ いいじゃないか。

058 A : ウン、チノフロデネー。

うん、木の風呂でね。

059 B : ドラムカンダ、オラ ハイッタノ。

ドラム缶だ、俺[が] 入ったの。

060 A : ホーヤッテ ハヤグ オユサ ハイレヨ一、

そうやって 早く お湯に 入れよ、

サメッカラ ヘーレヨ ヘーレヨッテ {笑}

冷めるから 入れよ 入れよって {笑}

061 B : タダ、アイナノッテノワ フロサ ヘッタッテ一ガー、

ただ、あんなのっていうのは 風呂に 入ったっていうか、

ドラムカンダドサー、テツダガラサー、アッチャ [6]、ドラムカン。

ドラム缶だとき、鉄だからさ、あるだろ？、ドラム缶。

062 A : ドラムカン ワガル。アノ アンブラ (B ン一) イレル、アレ。

ドラム缶 わかる？ あの 油 (B うん) 入れる、あれ。

ドラム。(B ン一) ネ。アイズ。[6]

ドラム。(B うん) ね？ あれ。

063 B : アノー、カダホーノ フタダゲ トッテサ。アド一、ミズ イレデ。

あの、片方の 蓋だけ 取ってさ。あと、水 入れて。

ワガスチャ。タラ ハイッドギモサ、キノ、ワグオ シタサ

わかすだろ？ [そし]たら 入るときもさ、木の、枠を 下に

コヤッ スズメルワゲサ。アツイガラ。ホヤッテ タダ アド

こうやって 沈めるわけさ。熱いから。そうやって ただ あと

コ コワダ コノママダ。

× ××× このままだ。

064A : ンー、ダヨネ。

うん、だよね。

065B : ウン、サワライネーガラ。(A ンー) アダリサ。タダ ハイッタッテ

うん、触れないから。(A うん) 辺りに。ただ 入ったって

ユーダゲダヨ。(D ンー) ンー、コスルモナニモ デギネンダー、アイナノ。

うだけだよ。(D うん) うん、擦るも何も できないんだ、あんなの。

066A : ムガシ キノフロダドサー、

昔 木の風呂だとさ、

067B : マー ゴエンブロードガネ、(A ウン、アイッタモノ) テッポ

まあ 五右衛門風呂とかね、(A うん、ああいったもの) テッポ

テッポーブロッテユーノ アッタケドモサー。

鉄砲風呂っていうの あったけどもさ。

068A : シノコ アンガッテ スッカリ カミモナニモ アンダ シノコダ

火の粉[が] 上がって すっかり 髪も何も あんた 火の粉だ

アンタ。シログナンドモノ。{笑}

あんた。白くなるんだもの。{笑}

069B : ンダー、イズ イズバン シデッテガー、 アノ、スイドー (A イマ)

だから、いち 一番 ひどいっていうか、あの、水道 (A 今)

ツツーノネガッタガラサー、(A ウン) テッカン [7] ダオン。

っていうのなかったからさ、(A うん) テッカン だもの。

070A : オラホデ インド。

うちのほうで[は] 井戸。

071B : テッカン、テッカンツテノ ワガル。(A           ) テッカン。  
テッカン、テッカンっていうの わかる? (A           ) テッカン。

アノー、パイプササ、パイプオー、(A アレ ガチャガチャガッチャ [8])  
あの、パイプにさ、パイプを、(A あれ、ガチャガチャガッチャ )

ツズノナガサー、イエ、アノー、サステヤッテ。アド アレ、ヨグ  
土の中に、 入れ、あの、 刺してやって。あと あれ、よく

テレビデヤッテ、コーヤッテ ヤッテル、ミズ デテクル、(A ウンウン)  
テレビでやって、こうやって やってる、水[が]出てくる、(A うんうん)

アイズオー、ソヤッテ ヤッテアワゲサ、テッカン。 [6]  
あれを、 そうやって やってたわけさ、テッカン。

ホイデアガラー、ソドニ アッカラサー、フロモ、タダ コユヨーナ  
それだから、 外に あるからさ、 風呂も、ただ こういうような

アノー、ホッタデ ゴ コ° ヤカ° アッカラサー、ソドニ  
あの、 ほったて × 小屋が あるからさ、 外に

アッカラサー。ダラ コンドー アツグナッテモサ、ソレデモッテ  
あるからさ。 だから 今度 熱くなってもさ、 それでもって

コンド、マッパダガデサ、アノー {笑} ミズクミスレア イーダゲダガラ、  
今度、 真っ裸でさ、 あの {笑} 水汲みすれば いいだけだから、

バゲズ モッテイッテ。サンブーベスサ。  
バケツ[を] 持って行って。寒いだろうしさ。

072A : ミズ ネゲレバ ユジオ イレダリネ。  
水[が] なければ 雪を 入れたりね。

073B : ンー。  
うんうん。

074A : ウン。

うん。

075B : ホナコド シテアナ。(A       ナ) オラノ ジダイワダヨ。  
そんなこと していたな。(A       な) 俺の 時代はだよ。

デンキワ アイズダモノ、ニショコ [9] ダモン。アレ、コイズバリ  
電気は あれだもの、ニショコ だもの。ほら、これぐらい

チャッカー コイナノオサ、ウズンナガガラ ヒッパッテキテサ。  
小さい こんなのをさ、うちの中から 引っ張ってきてさ。

076A : アレ、デンキノ カサ。ア アノ ウン  
あれ、電気の かさ。あ あの うん

077B : ニショコッテ ニジューワットヨリモ マダ、アノー、ゴワットク° ライガ、  
ニショコって 20ワットよりも まだ、あの、5ワットぐらいか、

アイズ。ニショコ トカツツノワ。  
あれ。ニショコ とかっていうのは。

078A : ログジューワットク° ライダッチャ、ニンジューシ  
60ワットぐらいだろ、 // // // //

079B : アー、ホンナン スカンネッチャ。  
えー、そんなに 光らないだろ。

080A : コイナノ。  
こういうの?

081B : コイナ、コイノ ヤズダヨー  
こんな、こんな やつだよ。

082A : ンー  
んー。

083B : アノ、フロダヨ。  
あの、風呂だよ。

084A : ア、フロ。  
あ、風呂。

085B : フロ。  
風呂。

086A : ンダンダ。ンダ。  
そうそうそう。

087B : ンー、ンデネゲー、 (A ウンウン) ローソグダッチャー。  
うん、そうじゃなければ (A うんうん) 蠟燭だろ。

088A : ネナガナガ アンタ。ハダカデンキ (B ウン) ダオンネー。ムガシワ。  
////// あんた。裸電気 (B うん) だもんね。昔は。

089B : マ、ソイナ、セーカツダッタナ。ンダッチャ、シューセンゴ° ナラ  
ま、そんな、生活だったなあ。 そうだろ、 終戦後なら

ナニモ (A イマナンカ テンゴ° グダ) ネーガラサー。  
何も (A 今なんか 天国だ) ないからさ。

090A : ウーン、ムガスサ クランベダラ。  
うん、 昔に 比べたら。

091B : オラダッテ アノー  
俺だって あの

092A : ゼーンタクダ。ンダイナ クロースタリ ナンナノ、ナンボデモ  
贅沢だ。 そんなような 苦労したり 何だの、 いくらでも

アンタ、 (B ウン) タエラレル。  
あんた、 (B うん) 耐えられる。



093 B : コズゲーッテノモ ゴエンダモンナ。オラノジダイ。アドー、サゲ シト  
小遣いってのも 五円だもんな。俺の時代。 あと、酒 ××

094 A : アメダマシトズ イッセンダモン。  
飴玉一つ 一銭だもの。

095 B : ショージュウ カセインダ {笑} ホントニナ。  
..... {笑} 本当にな。

096 A : カンガエラエネツチャ。 [6]  
考えられないよね。

097 B : コマズ、コマズ、(A ウン) ナ。ゴエンク° ライ モラ モラウワゲサ。  
コマズ、コマズ、(A うん) ね。五円ぐらい ×× もらうわけさ。

ダズンダナ、ヨーワ。アノー サゲ カイサイッテサ。サガヤデ アノー、  
駄賃だな、 要は。 あの、酒 買いに行つてさ。酒屋で あの、

マスデ ハガリデーッテ ウッテンダデバ。 コノドキノ、ホレ、タデバ、  
枡で 量りでて 売ってるんだよね。この時の、 ほら、例えば、

ン一、コイズ、アノ、スコ° ビン モッテグンダデバ、 カラノヤズ。  
ん一、これ、 あの、四合瓶 持っていくんだよね、空のやつ。

コッチャ アド イレデモラウノサ。ハンパ デルワゲサ。  
これに あと 入れてもらうのさ。半端[が] 出るわけさ。

098 A : ダズンズーノ オレ。  
駄賃っていうの[は] ほら。

099 B : ゴリ ゴリ  
×× ××

100 A : ネ、ウン。  
ね、うん。

101 B : ウン コノオレ

うん、このほら

102 A : アー、アンチャッコ カッシテケダ (B       ) ガラナー、ホレ、  
ああ、お兄ちゃん 買ってきてくれた (B       ) からな、ほら、

ダズン ケツカラナーツテ。ホイッテ オレーオ ダスワゲ。

駄賃[を] やるからねって。そうして お礼を 出すわけ。

103 B : ホマズツツーモイッタナー。オレーダベナー。

ホマズとも言ったなあ。 お礼だろうなあ。

104 A : ウン。(B ンー) ダツテ オレーサ。(D ンー) ウン。アンチャ  
うん。(B うん) だって お礼さ。(D ンー) うん。お兄ちゃん

サミガッタベナ、コチャ コ コチャ コーツテ。コチャ シテ  
寒かっただろうね、こっちに 来い こっちに 来いって。こっちに 来て

アダレ アダレツテ。コチャツテ ソノ コッチニ キナサイツツーコドネ。  
当たれ 当たれって。コチャって その こっちに 来なさいってということね。

ホデ アダレツツーノ ホレ、アタタカグ、シナサイツツーコドネ {笑}  
それで アダレっていうの ほら、温かく、 しなさいってということね {笑}

105 C : エ、コマズツテ、ユーノモ ダチンノコト。コマズ、コマズ。

え、コマズって、いうのも 駄賃のこと？ コマズ、コマズ？

106 A : ウン、コマズデネンダ、ホマズツテ ズブンノコッタ

うん、コマズじゃないんだ、ホマズって 自分の

107 C : ホマズ。

ホマズ？

108 A : ウン。

うん。

109C : ホマズ。

ホマズ。

110A : ウン。 へソクリノコト (B ホマズツツ、シー) ホマズツテユーンダヨ、  
うん。 へソクリのこと (B ホマズって、うん) ホマズっていうんだよ、

(C アー) コッチノホーデ。(B シー) シー、ダズンツーノ、ホレ

(C ああ) こっちのほうで。(B うん) うん、駄賃っていうの、ほら

アンチャー サゲ カシテケダガラ ダズン ケツカラナツテ。  
お兄ちゃん 酒 買ってきてくれたから 駄賃[を] やるからねって。

サミドゴ イツテキタガラツテ。(C ウン) ホイズカ<sup>o</sup> オレ、  
寒いところ 行ってきたからって。(C うん) それが ほら、

アイツテ オレーダイツチャ。ハヤグイエバ、ウン。

あれは お礼だよな。早く言えば、うん。

111C : ンンンンンン。エ、ホマズツテユーンワ  
うんうんうんうん。え、ホマズっていうのは

112A : ホマズツーンワ アンタ  
ホマズっていうのは あんた

113C : へソクリミタイナモノト。  
へソクリみたいなものと。

114A : へソグリ、へソグリ。  
へソクリ、へソクリ。

115C : シー。  
うん。

116A : シー。ンデ ユツチャ、イマデモ。シー、ホマツコ タメデオグツテ。  
うん。だから 言うじゃない、今でも。んー、ホマツコ 貯めておくって。

117C : フーン。

ふーん。

118A : ウン。ホデ ホレ、ガグノ カグイダドゴロサ

うん。それでほら、額の 隠れたところに

ミナ カッチャンダノ トッチャ カグシ カグシテオイデ。

みんな お母さんとか お父さん[が]××× 隠しておいて。

ホイテ ミッケダラ トラレダリナンカ スッチャ。

そうして 見つけたら 取られたりとか するじゃない？

119C : シー。

ふーん。

120A : ウン、ホイナノ ホマズ。

うん、そんなの[が] ホマズ。

121C : エ、サッキノ、ソノー、オマツリノ ハナシナンデスケド。

え、さっきの、その、お祭りの 話なんですけど。

122A : シー。

うん。

123C : エーット。ナ、ナマ、ナマゴヒキ。

ええっと。×、××、ナマゴヒキ？

124A : ナマゴシギツツーノ。 オシヨーカ° ズ スンノ。(C ナマゴシギ)

ナマコ引きっていうの。お正月[に] するの。(C ナマゴシギ)

125C : ソレワ、ドンナ。 ドンナコト ヤルンデスカ。

それは、どんな？ どんなこと やるんですか？

126A : アノー、ムスオ ヨゲンノ。ナマコ° オネ (C ウン) ナ ナワサ

あの、虫を よけるの。ナマコをね (C うん) × 縄に

ユワエツケデ、(C オー) ホイッテ ウジノマワリオ コー マワンノ。  
結わえつけて、(C ほう) そうして うちの周りを こう 回るの。

ナ ナマ

× ナマ

127C : ユワエツケテ、(A シー) ソレオ ドースンデスカ。  
結わえつけて、(A うん) それを どうするんですか?

128A : コイズ、ナマゴ シイデ (C ヒイテ) グルット ウ ウジナガ マワンノ、  
これ、 ナマコ[を]引いて (C 引いて) ぐるっと × うちの中 回るの、

ウジノ ソド マ ソド マワンノ。

うちの 外 × 外 回るの。

129C : へー。

へえ。

130A : ナマゴシーギー オンドリダー ナーカ° ムース ヨーゲロツテ アンダ。  
「ナマコ引き お通りだ 長虫 よける」って あんた。

ナカ° ムスツテ へンビノコト。

ナガムシって 蛇のこと。

131C : シー。  
うん。

うんうんうん、へえ。

132A : ウン、ソーユーコドモ アッタノ。オームガスネ。

うん、そういうことも あったの。大昔ね。

133B : オナカ° ワデワ スネガモスンネゾ。 コノヒトワ ホレ

女川では しないかもしれないよ。この人は ほら

134A : オウラダモン。

尾浦だもん。

135 B : ハマダ。

浜だ。

136 A : ウン。

うん。

137 C : オウラ、ダケ、(A シー) カモシレナイ。

尾浦、だけ、(A うん) かもしれない？

138 A : シー、シデモネーヨ。

ん、そうでもないよ。

139 B : アッチノホデ ヤッチャーノゴ。

あっちのほうで やってるのか？

140 A : シー。

うん。

141 B : ト ト オ オナカ° ワ コノマズバデワ ホイナノ

× × × 女川 この町場では そんなの

142 A : シ、オナカ° ワデワ スネサ。

うん、女川では しないさ。

143 B : キガネーナ。

聞かないね。

144 C : ハー。(A タブン、シー) (B ウン)

はあ。(A たぶん、うん) (B うん)

145 A : コツカラ チョット ハナレデツカラ。

ここから ちょっと 離れてるから。

146 C : フンフンフンフン。

うんうんうんうん。

147B : シーシー、キリカ° サギー、タゲノウラ、オウラ、オンマエ、  
うんうん、桐ヶ崎、 竹浦、 尾浦、 御前[浜]、

(A アソゴラ スルンデネガナー) サスカ° ハマツツーノ、

(A あそこら するんじゃないかな) 指ヶ浜っていうの、

カグ ハマ アルワゲサ、コノヒトダジ。

各 浜 あるわけさ、この人たち。

148C : シーシーシー。(B シー)  
うんうんうんうん。(B うん)

149A : ブラグネ。  
部落ね。

150B : ウン、(C シー) ブラグ。  
うん、(C うん) 部落。

151A : スズハズジュッケン。  
7、80軒。

152C : ウン、ハイ。ウン。  
うん、はい。うん。

153B : ウン。  
うん。

154C : へー。 (A ウーン) ナマゴワ イッピキデスカ。  
へえ。 (A うん) ナマコは 一匹ですか？

155A : ナマゴ イッピキ。  
ナマコ 一匹。

156C : テニモッテ、ナワオ。  
手に持って、縄を？

157A : マナナ ウン、ナワオ ナ、モッテ。

××× うん、縄を ×、持って。

158C : ンー、モッテ。

うん、持って。

159A : コノ ナマ、ナマゴ、コーヤッテ シツチャ。

この ××、ナマコ、こうやって するじゃない。

160C : ウン。

うん。

161A : ホーデ コレ ユワイツケデ、コー ヒッパッテアルグノ。コーヤッテ

それで これ 結わえつけて、こう 引っ張って歩くの。 こうやって

ヒッパッテイクノ。ナーマゴシーギ オンドリダー ナーカ° ムース  
引っ張っていくの。 「ナマコ引き お通りだ 長虫

ヨーゲロツテネ。 ズブンノウジノ マワリオ アンタ アルグノ。  
よける」ってね。 自分のうちの 周りを あんた 歩くの。

162C : へー。

へえ。

163A : ウン、ソーユーゴドモ アッタノネ。

うん、そういうことも あったのね。

164C : ソレ、ショーガツ、オショーガツ

それ、正月、 お正月

165A : ショーカ°ズ、ンー。

正月、 うん。

166C : ガンタン。

元旦？



167 B : ガンタンデネーヨ。 ナンニズガ スキ° デガラ ヤンデネア。  
元旦じゃないよ。 何日か 過ぎてから やるんじゃない。

168 C : ンー。  
ふーん。

169 B : ウン、ヨーショーノコロダモン。  
うん、幼少のころだもん。

170 C : ソレ、コドモカ° ヤルンデスカ。  
それ、子どもが やるんですか？

171 B : ソーダヨ。  
そうだよ。

172 C : オトナ、コドモガヤル。  
大人、子どもがやる？

173 B : ウン。  
うん。

174 C : アーーー。へー。ソレ、ドコノカテーデモ ヤルンデスカ。  
ああ。へえ。それ、どこの家庭でも やるんですか？

175 B : ヤルヨ。  
やるよ。

176 C : ハー。  
はあ。

177 B : ンー、ヤッテヤモノ。  
うん、やっていたもの。

178 C : フーーン。  
ふーん。

179B : ウン。

うん。

180C : オモシロイデスネー。

おもしろいですねえ。

宮城県牡鹿郡女川町方言会話集（自由会話）注記

〔1〕 ススフリ

獅子振り。獅子舞のこと。『女川町誌』（女川町誌編纂委員会編、1960年）によると女川地方の伝統行事であり、「正月初旬には春祈禱と称し獅子舞が各戸を巡る。」（p. 880）とある。

〔2〕 ナマゴシギ

ナマコ引き。話者らが語るように尾浦地区の正月の伝統行事である。以下、『女川町誌』（同上）から該当箇所を引用する。

十五日は十四日に作つて神棚にお供えしたはらみ木にて、神棚や門松などを打つて御祝い申し上げ、暁に湯餅をあげて松納めと称し室内外の松や七五三飾りを一切納めてお送り上げるのである。午後の四時頃になると夕食の前後に用いた水を住宅のまわり隈なくまき、それが終ると子供等はナマコを縄でくくり之を引きつつ「ナマコ引きのお通りだ長虫よける」と言つて三周する。三回まわり終るとそのナマコを海に流してやる。そして木刀を持ち果樹の前に立ちこの木刀を木に当て「なるかならねか、ならざら切つぞ」という、他の一人が「なりますなります」という、そして子供等の行事も終る。（p. 883）

〔3〕 オンドリダー

「お通りだ」。ドの音が鼻音化しているが、話者自身もこれは「お通りだ」と認識している。節にあわせてこのような音となったものか。

〔4〕 カラスボイ

カラス追い。鳥追い。『女川町誌』（同上）によると、女川地方で行われている正月の伝統行事。以下、尾浦地区のものを引用する。

十六日は鳥追いをする。カラスが自分の家に止つて糞をすれば病人が出るというわけで、早朝神棚からハラミ木を持つて来て竹竿などを打ちならし、やへい紙を振つてカラスを寄せつけないようにする。（p. 883）

〔5〕 カシェンドリ

かせどり。『女川町誌』（同上）によると、尾浦地区の正月の伝統行事。以下、該当箇所を引用する。

十四日子供かせどりという行事がある。カチノキを七八寸の長さに二本揃える。これは子供かせどり用であるが別に木の箸を二本、火箸四本、ハラミ木は神様の

数だけ作つて神棚に供える。さてかせどりは夜になると、子供等がカチノ木の棒を拍子木のように打ち合せながら「カセドリカカカラカあすの晩は来ねから今夜ばりケテケラエ」と唱えて各戸をめぐり餅などを貰つて歩くのである。(p. 883)

〔6〕 061B、062A、071B、099A～107Aは特に調査者に向けて発話している。

〔7〕 テッカン

鉄管か。打ち込み式の井戸のことをこう呼ぶ。鉄管を地中に打ち込み、鉄管の上部に手押しポンプを取り付け、それを用いて水を汲み上げる仕組み。

〔8〕 ガチャガチャガッチャ

手押しポンプの取っ手を上下させるたびにガチャガチャという音がするので、手押しポンプを指してこう言っている。

〔9〕 ニショコ

二燭光か。ナツメ球のような電力の低い電球をこう呼ぶ。

宮城県牡鹿郡女川町方言会話集（自由会話）担当者

収録担当者 田附 敏尚（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）  
石山 理恵（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 2年）  
冷 吟（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1年）

文字化担当者 田附 敏尚（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）  
石山 理恵（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 2年）  
冷 吟（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1年）

# 被災地方言会話集

— 宮城県牡鹿郡女川町 —

## <場面設定会話>

### 場面設定会話の概要

- 収録地点 宮城県牡鹿郡女川町
- 収録日時 2012（平成24）年7月13日
- 収録場所 宮城県牡鹿郡女川町女川浜大原 ふれあいオレンジハウス
- 話題 【場面設定会話】  
全11場面
- 話者
- |   |   |             |          |        |
|---|---|-------------|----------|--------|
| A | 女 | 1932（昭和7）年  | （収録時80歳） | [Bの知人] |
| B | 男 | 1946（昭和21）年 | （収録時66歳） | [Aの知人] |
- 話者出身地
- |   |                |
|---|----------------|
| A | 女川町尾浦（オウラ）     |
| B | 女川町女川浜（オナガワハマ） |

【場面設定会話】

話し手

A 女 1932 (昭和 7) 年 (収録時 80 歳)

B 男 1946 (昭和 21) 年 (収録時 66 歳)

〈あいさつ〉

(1) 朝、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : オハヨガス、 Bサン。

おはようございます、Bさん。

002B : ア、ア。ア、ドーモ、イツモ オシェワサマデス。

あ、あ。あ、どうも、いつも お世話さまです。

003A : アー、ンデ、 チーツケデケラインネ。

ああ、それじゃあ、気をつけて下さいね。

004B : アー、ドーモドーモ、イツモネヤ、アリガドゴザイマス。

あー、どうもどうも、いつもね、 ありがとうございます。

(2) 昼、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

なし [1]

(3) 夜、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

なし [1]

〈ねぎらい〉

(4) Aが仕事に精を出すBと会い、Bの労をねぎらう際にどのようなやりとりを行うか。

001A : アラー、ズイブ ツカレダイッチャー。ココデ、アング、(B ウン)

あらー、ずいぶん 疲れたよね。 ここで、あなた、(B うん)

スコス ヤスンダラッシャ。

少し 休んだら[どうですか]?

002B : ングガラニャー。ジュットンシヤヌー、ホレーシャサヤ、

そうなんだよなー。10トン車に、 保冷車にさ、

ニジュットンモ ツマシエライデヤ、ウンテンシュド フタリデヤッテ、

20トン[分]も 積みせられてさ、 運転手と 二人でやって、

コスガラ ケナガラヤ、イテグナッテ シヤマスモンダデバ。

腰から 腕からさ、 痛くなって しかたがないもんだよ。

マイヌズマイヌズヤー、イズヌズデヤー、ニダイワ

毎日毎日さ、 1日でさ、 [トラック]二台[分]は

ツマネゲネーモンニャー。

積まなくてはいけないもんな。

003A : アー、ズイブ シンデスデ ゴザンシタネア。

あー、ずいぶん ひどい日で ございましたね。

004B : ングネア。(A ンー) ンダガラ コスー イデクテヤ、

そうだねえ。(A うん) だから 腰[が] 痛くてさ、

シヤマスモンダデバ。

しかたがないもんだよ。



〈 勧め 〉

(5) Aが、仕事をしているBに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり。

001A : スコス ヤスンデ オジャッコ ノンデイカ° イン。  
すこし 休んで お茶[を] 飲んでいきなさい。

002B : アー、ドーモドーモ、イツモ オセワサマデス。  
あー、どうもどうも、いつも お世話さまです。

003A : ホラ、コイズ オメガラ クッタラ イガイッチャー。(B イヤー)  
ほら、これ[は] うまいから 食べたら いいじゃない。(B いやあ)

トツテモ ンメド。(B ナンーノー) アンツッコ イーガラ。  
とつても うまいぞ。(B なんの) 味[が] いいから。

004B : ハー、オイー クーノサネアー、スギーキライ アッテ ワガンネンデガストー。  
はあ、俺[は] 食べるのになあ、好き嫌い[が] あって だめなんですよ。

005A : ダメデガスト、ホイデ。  
だめですよ、それでは。

006B : ウン。  
うん。

〈 訪問時の声掛け 〉

(6) 昼間、AがB宅を訪れるときにどのように声をかけるか。また、返事をするか。

001A : Bサン イダノスカ。 オ モー オシル三 (B ン一) ナッタデバ。

Bさん いるんですか。× もう お昼に (B うん) なったよ。

ナニステヤノシヤ。

何してたのさ。

002B : ン ン ナヌモ ステネー、ヨゴナツテヤ。ナンヌモ。

うん うん 何にも してない、横になってた。何も。

イク° ドゴモネース、ジェニモネース。ダガラ ネデヤホーイデバ。

行くところもないし、金もないし。 だから 寝てるほう[が]いいってば。

〈 借用の依頼と受託 〉

(7) AがBにスコップを借りるときのやりとり。(Bが貸す場合)

001A : Bサン、スコップ、アンタ、カシテケネーベガ。

Bさん、スコップ、あなた、貸してくれないだろうか。

002B : スコッパー。

スコップ？

003A : ウン。

うん。

004B : ン一、マー、ヒトズッカ ネーケトモ イーヨ、ツカッテ。(A ウン)

ん一、まあ、一つしか ないけど いいよ、使って。(A うん)

ナニモ カマネーガラヤ、(A ア一) ホイズ。

何[も] 構わないから、(A ああ) これ。

005A : ア、ホント一。

あ、本当。

006B : ウン、ウン。

うん、うん。

007A : ンデ、 カリデインカラ。

それじゃあ、借りていくから。

008B : ウン。

うん。

009A : ウン。

うん。

010B : カスンダガラネ。

貸すんだからね。

011A : シーシー、イーヨ、モラネガラ。

うんうん、いいよ、もらわないから。

012B : ケンデネーガラネ。

やるんじゃないからね。

013A : ハイハイ、ワガリシタ。

はいはい、わかりました。

014B : ウン。アド、(A ウン) ツカッタラ ケシテケラインヨ。

うん。あと、(A うん) 使ったら 返して下さいよ。

015A : アー カエスカラ。

ああ 返すから。

016B : ハイ。ンダラ イーガラ、モッテッテ イーガラ。

うん。それなら いいから、持って行って いいから。

017A : アー ハー、(B ハイ) カリデイギマス。

ああ はい、(B はい) 借りていきます。

〈 お礼 〉

(8) Aが借りたスコップをBに返しに行ったときのやりとり。

001A : アー、Bサン、オガケ° サンデ スコップネー、 (B シー)

ああ、Bさん、おかげさまで スコップね、 (B うん)

ヤグタッタガラッシャ、(A アーア) ドーモ アリガドーゴザイマシタ。

役[に]立ったからさ、(A ああ) どうも ありがとうございました。

002B : アー、ハイハイハイ。

あ、 はいはいはい。

003A : シー、マダ ツク [2] ドギ カシテケラインネ。

うん、また 使う 時[に] 貸してくださいね。

004B : シー シー ウン。

うん うん うん。

〈 破損の謝罪・許容・不満 〉

(9) AがBに借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとり。

(9-1) Bが構わないという場合。

001A : アー、Bサン。ナー、サッキナ カリダ スコップヤー、

あー、Bさん。なー、さっき 借りた スコップさ、

フチャイデスマッタ<sup>ン</sup>ダー。ナンジョス<sup>ッ</sup>ペー。

壊してしまったんだ。 どうしよう。

002B : アー、イー イー、イン<sup>ダ</sup>ー、ホイズ。アノ、コノ スコップヤー、

ああ、 いい いい、いいんだ、それ。 あの、この スコップさ、

スッコス サビデデ、アノー キノドゴ、 クサッテヤガラヤ。

少し 錆びてて、あの 木のところ[が]、腐ってたからさ。

003A : アー ンットシー。

ああ 本当に。

女川町 場面設定会話

004 B : イー イー イー イー、コンナノヤ、アイズダ。  
いい いい いい いい、こんなのさ、あれだ。

005 A : モーシワゲネーネー。(B シーシー) ナニガデ ホンデネー、  
申し訳ないね。(B うんうん) 何かで それじゃあね、

(B カイデデモ イーガラ。シー、シー) アイスツカラ、

(B 壊れてても いいから。うん、うん) あれするから、

カエスツカラッシャ。

返すからさ。

006 B : アイ、イーガラ、イーガラ、イーガラ。ホイズ、ドーサー  
はい、いいから、いいから、いいから。これ、 どうせ

アダラスーモノド カエネゲネード オモッテヤドギダガラ  
新しいのと 替えなきゃいけないと 思ってたところだから

(A アー ソースカ) インダー、ホイズ。

(A ああ そうですか) いいんだ、それ。

007 A : モーシワゲナイ。

申し訳ない。

008 B : イーガラ、キニスツコドネー。

いいから、気にすることない。

009 A : シー ドーモ モーシワゲナイ。

うん どうも 申し訳ない。

010 B : ハイハイ。

はいはい。

(9-2) Bが破損に対して不満を述べる場合。

001A : アー、Bサン。ナー、サッキナ カリダ スコップヤー、  
あー、Bさん。なー、さっき 借りた スコップさ、

フチャイデスマッタダ。ナンジョスッペー。  
壊れてしまったんだ。 どうしよう。

002B : {舌打ち} ンーダヤ コイズヤー、コノ スコップヤ、オラエノヤー、  
{舌打ち} なんだよ これさ、 この スコップさ、俺の家のさ、

オヤズー オイザヤ、[3] ツカエッテイッテ ヨゴサイダヤズヤ、  
親父[から] 俺にさ、 使えって行って よこされたやつ[を]さ、

ナンニシテ コイグ シチャグンダベ、ハーー。シャマスモンダナヤ。  
どうして このように 壊すんだろう、 もう。 しかたないもんだな。

〈 誘いと断り 〉

(10) AがBをホームセンターに誘う際のやりとり。

001A : アー、Bサン、キョーヤー、イシノマギ アンノー、スコップ  
あー、Bさん、今日さ、 石巻[に] あの一、 スコップ[を]

カイサインカラ、ンダガラ、エッテ スギナノ、ミデ アンタ チニイッタノ  
買いに行くから、だから、 行って 好きなの、見て あなた 気に入ったの[を]

トッテケラシエ。  
取ってください。

002B : アー、オイモ ソーオモッテイダダケトモシャーー、(A ンー)  
あー、俺も そう思っていたんだけどもさ、 (A うん)

オラエノヤー、コノ ムスコド ムスメド、ガガヌヤー、アノーー、  
俺の家のさ、 この 息子と 娘と、 妻にさ、 あの一、

アノ、スタミナタロー [4] サヤ、(A ウン) クイサイク° ベッテ  
あの、すたみな太郎 にさ、(A うん) 食べに行こうって

女川町 場面設定会話

イワレデスマッタダデバ。(A オー)ンダガラ キョー チョットー  
言われてしまったんだよね。(A おー)だから 今日[は] ちょっと

ダメダナ。ソノウジヌー インカラヤ。  
だめだな。そのうちに 行くからさ。

003A : アー、ンデ ソーシテケライン。  
あー、それじゃあ そうしてください。

004B : ハイハイ。ンダガラ キョーワ (A ワルイゲット)  
はいはい。だから 今日は (A 悪いけど)

ウン、カゾグサービスダガラ、キョー。  
うん、家族サービスだから、今日。

005A : ウンウン。  
うんうん。

006B : ウン。  
うん。

007A : ホノドギ、ツコ°ーノイードギ ユツテケライン。(B ハイ) イツショニ  
その時、都合のいい時 言ってください。(B はい) 一緒に

インカラ。  
行くから。

008B : ン マ ウン ソノウズニネ。(A ウン) ホイ イマ スク°  
うん まあ うん そのうちにね。(A うん) それ 今 すぐ

ツカウワゲデネーガラ、ホイズワ イーガラ。  
使うわけじゃないから、それは いいから。

〈 お見舞い 〉

(11) 体調を崩しているBに、Aが体の調子を尋ねる際のやりとり。

(11-1) Bの調子がいい場合。

001A : アー、Bサン、カラダノ チョース ナンジョナノッシヤ。

あー、Bさん、体の 調子 どうなんですか。

(B シー) ビョーギシタズノ チーデヤゲットモ。

(B うん) 病気したっていうの[を] 聞いてたけども。

002B : ンダネヤ。

そうなんだよね。

003A : シー。ドゴ、(B ウン) ドコラ ナンジョニ ワルガッタノッシヤ。

うん。どこ、(B うん) どの辺[が] どのように 悪かったんですか。

004B : シー。ダドオモッテヤンダケトモ、

うん。だと思っていたんだけども、

005A : ウン。

うん。

006B : オー、アノ シェンシェノ、イヤ、イー シェンシェーデヤ。

おー、あの 先生の、 いや、いい 先生でさ。

ナニ スッカリ ミデモラッタツケヤ、(A シー)

なに すっかり 診てもらったらさ、(A うん)

ドゴモ、ワルードゴ ネードガッテ、コンド イワエデサー、  
どこも、悪いところ[が] ないとかって、今度[は] 言われてさ、

(A シー) シタドゴロ、 ビョーインモヤ、ナニモ スルゴド

(A ん) そうしたところ、病院もさ、 何にも すること[が]

ネクテヤ、サゲモ タバゴモ、モー ノマエネデヤ、マッタ

無くてさ、 酒も たばこも、もう 飲めないでさ、また



女川町 場面設定会話

アンベ ワルグナットー、コナドゴニ イデダラ。ンダガラ モースコスデ  
具合 悪くなるぞ、 こんなところに いたら。 だから もう少しで

オイ タイインスッカラヤ。  
俺 退院するからさ。

007A : アー、ソースカ。  
ああ、そうですか。

008B : ウン、イガラ。 アド、アド、ミマイサ コネタツテ イーガラ。  
うん、いいから。あと、あと、見舞いに 来なくたって いいから。

009A : ハエグ、(B ウン) タイインシテキテケラインネ。  
早く、(B うん) 退院してきてくださいね。

010B : ハイハイ、ドーモドーモ。ホントニネ、トーグマデヤ、  
はいはい、どうもどうも。本当にね、遠くまでさ、

ミマイニ キテモラツテヤ。  
見舞いに 来てもらってさ。

(11-2) Bの調子が悪い場合。

001A : Bサン、カラダノ チョーシ ナンジョナノツシヤ。  
Bさん、体の 調子[は] どうなんですか。

アレガラ タイインシテキタ (B ウーン) ツツゲットモ。  
あれから 退院してきた (B うーん) っていうけど。

002B : ダガラネー、(A ウン) イードモツテサー、  
だからね、(A うん) いいと思ってさ、

ナツタケ マダスコスヤ、グエワルグ  
なったら また少しさ、 具合が悪く

ナツテキテスマツテネアー。 コンド  
なつてきてしまつてね。 今度

003A : ナニガ、ウン、ヨーアットギ (B ン一) ユツテケライン。  
なにか、うん、用があるとき[は] (B ン一) 言つてください。

オイ イッテ、アノ テズダツテケツカラ。  
私[が]行つて、あの 手伝つてやるから。

004B : ウーン、ンダナー一。(A ウン) アツカヤ  
うん、そうだなあ。(A うん) あるかな

005A : ナニカ クデゴツタラ アダ コシエデエンカラ。  
何か 食べたかつたら あなた 作つていくから。

006B : ウーン、クデタツテ クデグネーベシヤ。 [5] ナー一。  
うーん、[何か]食べたいって[言つたつて] 食べたくないしさ。 な一。

007A : ア、ホンノヤ チョツピリデモ イーガラ、コシエデエンカラ、  
あ、ほんのさ 少しでも いいから、作つていくから、

アツカ° シエ。  
食べなさい。

008B : ンダネ。(A ウン) ウン。  
そうだね。(A うん) うん。

〈 申し出 〉

(12) 体の調子が悪く、家の片付けもできないというBに、Aが「(私が)片付けてやろう」というときのやりとり。

001A : アー Bさん、マダ カダズゲネガツタノガー。コレア、ダイジナ  
ああ Bさん、また 片付け[て]なかつたのか。これ、大事な

シャシンダノ オイデヤー (B ウーン) ホゴサ。  
写真なんか 置いてさ (B うーん) そこに。

002B : シダヨネアー。(A ウン) カダツゲルッテ キモズカ°  
そうだよね。(A うん) 片付けるって 気持ちが

ッタンダケドモナー。 ンー ダガラ  
あつたんだけどもさー。 んー だから

003A : シダガラ、ユワイン。 ナニ ア (B ンー ダガラ) ドイズ、ユ イ  
だから、 言いなさい。なに × (B うーん だから) どれ[が]、× ×

{咳} ダイズデ、ドイズ ダイズデネーシダガ。(B ウン) ウン、  
{咳} 大事で、 どれ[が]大事でないのか。(B うん) うん、

ソイズニヨッテ カダズゲツカラ。  
それによって 片付けるから。

〈 禁止 〉

(13) 片付けの最中に、大事な写真をAが間違っ捨てようとしているときに、Bがそれを  
制止してどのようにいうか。

001A : コノ シャシンヤ、ナケ° デモイーノガ。  
この 写真さ、 捨てるもいいのか。

002B : ンーダヤ、コイズワヤ、オイ オイードヤ、ガガーノ シンコンリョコーノドギノ  
なんだよ、これはよ、 ×× 俺とさ、 妻の 新婚旅行のときの

シャスンダド、オメー。  
写真だぞ、 お前。

003A : アー ソーカ。  
ああ そうか。

004B : シダ、ホイナノ ナケ° ルナンテ (A ウン) コナ ブジョホナゴド  
なんだ、そんなの[を]捨てるなんて (A うーん) こんな 失礼なこと

アンマエ。 ナンダイ、ダメダド、ホンデ。  
ないだろう。 なんだい、だめだぞ、それじゃあ。

005A : シー、ワルイゴド ユッタナー。  
うん、悪いこと 言ったねえ。

006B : ウーン、ンダヨー。ナンーダイ  
うん、 そうだよ。なんだい

007A : カンベンシテケラシエ。  
勘弁してください。

008B : ハイ ハイ (A ウン) ハイ。ウン、フンデワ、ワガレバインダ、  
はい はい (A うん) はい。うん、それでは、分かればいいんだ、

(A ウン) ウン。

(A うん) うん。

宮城県牡鹿郡女川町会話集（場面設定会話）注記

〔1〕 この場面は調査不備により、収録できなかった。

〔2〕 ツク

この地域の周辺ではアウ (au) > ウー (u:) の変化が認められるため、ツカウ (tsukau) > ツクー (tsuku:) となり、その長音が短くなってツク (tsuku) となっている。また、文脈からも「つく」よりも、「使う」の方が適当だと考えられる。

〔3〕 オイザヤ

オイザヤのザは助詞サ (もしくはチャ) だと思われるが、ここでのみ有声化した「ザ」と聞こえている。オイは「俺」、ヤは間投助詞とみて、「俺にさ」と訳した。

〔4〕 スタミナタロー

外食チェーンストアの名称。

〔5〕 クデグネーベシヤ

「ベ」があるが単純に「だろう」とは訳しにくい。

宮城県牡鹿郡女川町会話集（場面設定会話）担当者

収録担当者 田附 敏尚（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）  
石山 理恵（東北大学大学院文学研究科博士前期課程2年）  
冷 吟（東北大学大学院文学研究科博士前期課程1年）

文字化担当者 田附 敏尚（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）  
石山 理恵（東北大学大学院文学研究科博士前期課程2年）  
冷 吟（東北大学大学院文学研究科博士前期課程1年）

## 【 宮城県牡鹿郡女川町の方言概観 】

ここでは、今回の会話集に現れた特徴を中心に、伝統的な女川町方言の音声や文法を概観していきます。

### ㊦ 音 声

#### 【子音】

##### ▼カ・タ行の有声化

語中・語尾にあるカ・タ行の音が有声化し、ガ・ダ行になる。

☞これは平たく言えば、単語の頭以外にあるカ・タ行の音が濁音のガ・ダ行になることです（専門的に言えば、（有声）母音に挟まれた無声子音/k/ /t/が有声子音/g/ /d/になること）。単語の頭にあるカ・タ行は普通は有声化しません（下の例で言えば柿は「ガギ」にはなりません）。

例) カ行→ガ行 (/k/→/g/) : 開ける → アゲル、柿 → カギ  
タ行→ダ行 (/t/→/d/) : 旗 → ハダ、 的 → マド

##### ▼ガ・ダ・ザ・バ行の鼻音化

語中・語尾にあるガ・ダ・ザ・バ行の音が鼻音化する。

☞単語の頭以外にあるカ行がガ行になることによって、「開ける」はアゲルになってしまい、「上げる」と混同しそうですが、「上げる」のほうはゲが鼻にかかった音（鼻濁音とも言い、この現象を鼻音化と言います。ここでは「ケ°」のように半濁点で表記します）のアケ°ルとなり、

「開ける」＝アゲル

「上げる」＝アケ°ル

で両者の混同は起こりません。同様にダ・ザ・バ行も鼻音化します（ここでは「ンダ・ンゼ・ンビ」のように上付きのンで表記します）が、これらは衰微が著しく、高年層からも聞かれないことがあります。

例) ガ行：上げる → アケ°ル  
ダ行：肌 → ハンダ

ザ行：風 → カンゼ  
バ行：首 → クンビ

### ▼キ（キャ行）の口蓋化

キが「チ」に近く発音される。また、キャ、キュ、キョも「チャ、チュ、チョ」と似たように発音される。

☞一般的にはこれは「口蓋化」の一種と見られています。口蓋化とは舌の前の部分が上あご（硬口蓋）に接近する現象を言います。キがキとシの中間のような音になるという、似た現象は東北一般で見られますが、女川町では極端な口蓋化が起こってチに近くなります。また、口蓋化と有声化が一緒に生じてキがジのような音になる例も聞かれました。

例) チーツケデ（気[を]つけて）  
チノフロ（木の風呂）  
ユジ（雪）

### 【母音】

#### ▼イとエの統合

イとエが同じ発音となる。

☞母音単独で発音されるイとエは区別されず、ともにエに近い音になります。

例) 息（いき）、駅（えき） → 両方ともエギ  
鯉（こい）、声（こえ） → 両方ともコエ

#### ▼シとス、ジとズ、チとツなどの中舌化

イ段音とウ段音が近い音となる。

☞イの音がウの音に近づく現象（またはその逆も）を「中舌化」（ちゅうぜつか、なかじたか）と言いますが、宮城ではイ段音とウ段音でこの中舌化が起き、ニとヌ、ミとム、リとルなどが互いに近い音になります。これらは一応の区別がありますが、シとスに関しては両方とも「ス」、ジとズは両方とも「ズ」、チとツは両方とも「ツ」と発音され、これらは区別がありません。

例) 獅子（しし）、煤（すす）、寿司（すし） → すべてスス



知事 (ちじ)、地図 (ちず)、辻 (つじ) → すべてツンズ

▼その他、以下のような特徴もあります。

- ・ヒの音がシに近い音となる。以下は女川町の会話集からの例です。

例) シノコ (火の粉)、ナマゴシギ (なまこ引き)

- ・セの音がシェに近い音となる。以下は女川町の会話集からの例です。

例) シェンシェ (先生)、オシェワサマデス (お世話さまです)

## ¶ アクセント

女川町はアクセントの型を持つ有型アクセント地域である。

☞例えば「箸」と「橋」を声に出したときに、有型アクセントの地域ではハとシの音の高低が決まっていて(=型がある)、それによって単語の区別が付きまします。

## ¶ 文法

### 【格助詞】

▼共通語の「が」、「を」にあたる格の格表示

共通語の「が」「を」にあたる格助詞を使わないことが多い。

☞共通語の「が」のような主格を表す助詞や、「を」のような目的格を表す助詞が用いられず、以下のように無助詞で表示されることが多いです。

例) 主格 : 俺 行く (俺が行く)

目的格 : 酒 飲む (酒を飲む)

▼「サ」

「へ」「に」に当たる格助詞に「サ」がある。

☞「サ」は共通語の「へ」よりも意味が広く、「に」に重なるところが多いですが、存

在の場所を表す「ここサある」は言えないなど、その用法は「に」とは若干の違いがあります（ただし、若年層では存在の場所を表す「サ」も使えるという報告もあります）。

例) 東京サ行く  
おれサ貸せ  
見サ行く

### 【助動詞】

#### ▼「べ」

共通語の「～だろう」（推量）や「～しよう」（意志）に相当する助動詞に「べ」がある。

☞「べ」は<推量><意志>のほかにも<確認><勧誘>などがあり、その用法は多岐にわたります。また、「取る、起きる、来る」など「る」で終わる動詞に接続するときは「る」が「ッ」となる促音便が生じ、それぞれ「トッペ、オギッペ、クッペ」のようになります。

|                             |      |
|-----------------------------|------|
| 例) 明日、雨だべ (明日雨だろう。)         | <推量> |
| 明日は早く起きッペ (明日は早く起きよう。)      | <意志> |
| お祭り、お前も行くべ? (お祭り、お前も行くだろう?) | <確認> |
| みんなでがんばッペ (みんなでがんばろう。)      | <勧誘> |

#### ▼「タ」「タッタ」

「タ」は共通語の過去・完了の助動詞「た」よりも用法が広く、現在目の前にあることの確認などにも使われる。

例) (私は今、) 学校にいる → 学校にイタ  
(私は今、) 手紙を書いてる → 手紙をカイテタ

また、「タッタ」は過去の思い出など、現在と切り離された過去で用いられる。

☞「タッタ」は、「タ」と比べて過去の出来事が発話時に存在する場合には使われにくく（この場合は「タ」が用いられます）、過去の出来事が発話時に存在しない場合に使用されやすくなります。これを上記では「現在と切り離された過去」と表現しました。

以下の例で説明すると、①は昨日もらった桃が今もあるときの発言であり、これは過去の出来事が発話時に存在すると読みとることができます。このような場面では「タ」

が使われます。②は昨日もらった桃が今はもうないという状況であり、これは過去の出来事が発話時に存在しないと捉えられます。このとき、「タッタ」が用いられます。

例) ①きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタ。あんたも食べる？

②きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタッタ。

あんたが来るなら少し残しておけばよかったなあ。

<例文は竹田 (2011) より引用>

### 【終助詞】

#### ▼「チャ」

強調、当然、働きかけの意味を表す「チャ」が用いられる。

☞具体的には、相手が知っているはずの事柄を示し確認させるなどの機能があり、共通語の「だろ」「じゃない(か)」「よね」などのような意味を持ちます。

例) A1 : ニショッコ (二燭光) って5ワットぐらいか。

B1 : 60ワットぐらいだッチャ。(60ワットぐらいだろ。)

A2 : え、そんなに光らないッチャ。(え、そんなに光らないだろ。)

#### ★その他、以下のような特徴もあります。

・逆接既定条件 (共通語の「けれども」) は女川町では「ゲットモ」が用いられやすいが、順接既定条件 (共通語の「から」) は「ガラ」が用いられる。

・待遇表現は「ス」「(デ) ガス」「(デ) ゴザリス」「イ (ン)」などが用いられる。

例) ス : 取りス (取ります)

(デ) ガス : んデガス (そうです)

(デ) ゴザリス : おはよゴザリス (おはようございます)

イ (ン) : お茶でも飲まイン (お茶でも飲みなさい)

### 【参考文献】

加藤正信 (1969) 「東北方言概論」『言語生活』210

加藤正信 (1992) 「宮城県方言」平山輝男・大島一郎・大野眞男・久野眞・久野マリ子・杉村孝夫編『現代日本語方言大辞典 第1巻』明治書院

- 佐藤亨 (1982) 「宮城県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会
- 竹田晃子 (2011) 「テンス形式および文末の「ケ」の用法」小林隆編『宮城県・山形県陸羽東線沿岸地域方言の研究』東北大学国語学研究室
- 東北大学方言研究センター (2012) 『方言を救う、方言で救うー3.11 被災地からの提言ー』ひつじ書房

ひがし まつ しま し  
東 松 島 市



松島の島々（大高森から）  
（写真提供：宮城県観光課）



## 宮城県東松島市概要

### ①東松島市の概観

東松島市は、県の東北部に位置している。南は石巻湾を望み、東は田園地帯、中央は丘陵地帯となっている。西には風光明媚な松島へと連なる陸繋島の宮戸島があり、宮戸島の東南部には独特の景観を呈する日本三大溪の一つ嵯峨溪を持つ。2005年に矢本町と鳴瀬町の2町が合併して成立した新しい市であり、全国的に人口が減少する中、人口増勢にあるという特徴的な市でもある。気候は年間平均気温や降水量からみても、東北としては比較的暖かく風雨の少ない地域である。

東松島市は、産業が多彩である。海苔や牡蠣の養殖をはじめとする水産業、施設園芸の近郊農業などがあり、肥沃な耕土を持つことから米作りも盛んで、ササニシキ、ひとめぼれ、特産米の「かぐや姫」などが作付される。また、嵯峨溪・奥松島などを持つことから観光業も盛んであり、食品製造だけでなく、電子部品や繊維工業も盛んである。

### ②収録地点について

収録地点の宮戸は、松島へと連なる東松島市西部の宮戸島に位置する。

### ③東日本大震災による東松島市の被害

東松島市の震度は6弱～6強と強く、その後の津波は沿岸部の保安林をなぎ倒し、水田や住宅地にも侵入した。東松島市の犠牲者数は、石巻市、気仙沼市に次ぐものとなっており、景観を誇った野蒜海岸には多くの遺体と瓦礫が漂着した。

表1 東松島市の人的・住宅被害

| 東松島市<br>人口 | 人的被害   |      |                  | 住宅被害   |        |
|------------|--------|------|------------------|--------|--------|
|            | 死者     | 行方不明 | 死者・行方不明<br>の対人口比 | 全壊     | 半壊     |
| 42,903人    | 1,047人 | 66人  | 2.59%            | 5,432棟 | 5,495棟 |

表2 東松島市の浸水被害

|    | 浸水範囲の被害  | 割合    |
|----|----------|-------|
| 人口 | 34,014人  | 79.3% |
| 世帯 | 11,251世帯 | 80.3% |

※ 本文の内容は、衛藤（2012）P.156～161に  
依拠する部分が多い。特に、表1・表2は  
衛藤（2012）のデータをそのまま引用した。

### 参考文献等

衛藤英達（2012）『統計と地図でみる東日本大震災市町村のすがた』日本統計協会  
東松島市ホームページ（<http://www.city.higashimatsushima.miyagi.jp/>）（2013/02/23  
アクセス）

# 被災地方言会話集

## — 宮城県東松島市 —

### <自由会話>

#### 自由会話の概要

収録地点 宮城県東松島市宮戸

収録日時 2012（平成 24）年 7 月 14 日

収録場所 宮城県東松島市宮戸字二ツ橋 宮戸小学校仮設住宅

話題 【震災のときのこと】

話者

|   |   |              |            |         |
|---|---|--------------|------------|---------|
| A | 男 | 1934（昭和 9）年  | （収録時 78 歳） | [B の親戚] |
| B | 女 | 1949（昭和 24）年 | （収録時 63 歳） | [A の親戚] |

話者出身地

|   |                       |
|---|-----------------------|
| A | 東松島市宮戸 ※10 歳まで神奈川県横浜市 |
| B | 東松島市宮戸                |



【震災のときのこと】

話し手

A 男 1934 (昭和 9) 年 (収録時 78 歳)

B 女 1949 (昭和 24) 年 (収録時 63 歳)

001A : ジシン ンダガーット キタッチャ。  
地震 ダガーって きたよね。

002B : ンー、ナカ° ガッタネ、ンー。  
うん、長かったね、うん。

003A : アー、ンダー。アンドギー ホラ Bチャン ドゴニ イダндаガ。  
ああ、だから。あの時 ほら Bちゃん どこに いたのか。

オレワ ミセニ イダノッシャ。マ ダッテホラ、X1、X1 [1] ワ  
俺は 店に いたんだよ。ま だってほら、×、X1は

オモヤノホーニ。  
母屋の方に。

004B : ンー。  
うん。

005A : ダガラ モー アノシユンカン、オレ、オレトシテワ ツナミクルナート  
だから もう あの瞬間、俺、俺としては 津波くるなあと

オモッテ。  
思って。

006B : ンー ダヨネ。(A ンー) ツナミッテユーノワ スグキタヨネ。  
うん だよ。 (A うん) 津波っていうのは すぐきたよね。

コンナイ ナガイндаモノ。ツナミワ ゼッタイクドッテ (A ンー)  
こんなに 長いんだもの。津波は 絶対くるぞって (A うん)

ユッタノネ。ゼツタイ (A タダ) クルガラ (A ノー) ニゲッドッテ。  
言ったのね。絶対 (A ただ) くるから (A うん) 逃げるぞって。

007A : タダ ホラ、ジ、アノー、ジカンガ チリテキニ ホラ アノー  
ただ ほら、×、あの、時間が 地理的に ほら あの

ナカ° カッタッチャ。(B ノー、ノー) オレノホーサ クニニ。ンデ、  
長かったよね。(B うん、うん) 俺の方に 来るのに。それで、

オレナンカ モー ツナミ コンナイヨーニ ミセノ シャッタ シメダリサ、  
俺なんか もう 津波 来ないように 店の シャッター 閉めたりさ、

アドー カーチャン ホラ X2ノ [1] (B ノー) クルマサ ココマデ  
あと 母さん[が] ほら X2の (B うん) 車で ここまで

ヒナンシタアト、オモヤマデイッテ オモヤノ ブレーカーサケ° タリサ  
避難した後、 母屋まで行って 母屋の ブレーカー下げたりさ

(B ノー) アト、ホレ、モジダシヨーノ リックダノナ。ホイデアノ、  
(B うん) あと、ほれ、持出し用の リュックだのね。それである、

{笑} アー、ミナ ヨシテ クルマサ ツンデアンダオン。  
{笑} ああ、みんな 寄せて 車に 積んであるのだよ。

008B : キョネーン、ソノマエノトシノ (A ノー アー) チリーノ ジシンノ アレデ  
去年、 その前の年の (A うん ああ) チリの 地震の あれで

ヒナンシテッデ イワレタトギワ、ミンナモッテニゲタンダゲッド。  
避難してって 言われた時は、 みんな持って逃げてただけど。

009A : ココサ キタンダヨナ。  
ここに 来たんだよな。

010B : ノー。ココニ ヒナンシタンダケド。  
うん。ここに 避難したただけど。

011A : ガッコノ タイクカンサ キタンダ。ンダ。

学校の 体育館に 来たんだ。そうだ。

012B : コンカイノー、アレワー、モー、ジシंगा アンマリニモ ナカ° ガッタガラ、  
今回の、 あれは、 もう、地震が あんまりにも 長かったから、

ニゲットワ イーンダゲド、ホーユー イママデ ヨーイシテダモノ ゼンブ  
逃げるのは いいんだけど、そういう 今まで 用意していたもの[が]全部

アダマカラ パーッテ {笑} ナグナッテ。 {笑} イドウド、イヌド、イヌノ  
頭から パーって {笑} なくなって。 {笑} ××××、×××、犬の

ミズトガ、 (A ー) タベモノトガ ソーユーモノモッテ、モー  
水とか、 (A うん) 食べ物とか そういうもの持って、もう

ニゲルッテユーゴドシカ アタマニ (A ア) ナガッタガラ。デ  
逃げるっていうことしか 頭に (A ああ) なかったから。それで、

コゴニツイタドギワ サンバンメグライダッタカナ。 {笑} (A ア  
ここに着いたときは 3番目くらいだったかな。 {笑} (A ああ

ンデ ハヤガッタンダ) ン ハヤガッタノ。  
それで 早かったんだ) うん 早かったの。

013A : オライデー アノー、ホラ、X2 スグ アノ ワゴンシャデキテ、  
俺の家で あの、 ほら、X2 すぐ あの ワゴン車で来て、

(B ン) ン イッソ アニサंगा、アニサマバ

(B うん) うん ××× ×××××、兄様を

ノシェテクドッテツッテキテ (B ン ン) ア ジャ タノムカラッテ。  
乗せて行くぞって言ってきて (B うん うん) ああ では 頼むからって。

ンデー、ソノー ウジノ ホラ グルワネ (B ン) アノ グルワー  
それで、その 家の ほら 家の周辺ね (B うん) あの 家の周辺

東松島市 自由会話

カタズゲダリ、{笑} アト シャッターシメダリサ、ナンボカクッド  
片づけたり、{笑} あと シャッター閉めたりさ、どれくらいか[津波が]くるの

カクゴシタカラ (B ン一) イチオ ガンガグ [2] シタワケサ。  
覚悟したから (B うん) 一応 対処したわけさ。

(B ン一) アノ ネ一。(B ン一) エ一 スタッケ ホラ アノ一  
(B うん) あの ねえ。(B うん) ええ そうしたら ほら あの

アスコノ スイモンノトゴニ イダッチャ、ショーボーシサンガ。(B ン一)  
あそこの 水門の所に いたよね、 消防士さんが。(B うん)

アト スタッケ X3 [3] ダッタカスネ、 オッチャーン オナガーサ  
あと そうしたら X3 だったか知らない[が]、おじさん 女川に

ツナミ ロクメートル キダーカラ ニゲタホーガイドーッテ (B ン一)  
津波 6メートル きたから 逃げたほうがいいぞッテ (B うん)

ンデ ソレッテ ニゲテ ソンドキワ モー、ホレ コノ  
それで それ[行け]と 逃げて その時は もう、ほれ この

ケータイデンワガラ コ、コ、ラジオモッテナ。アドー ヨズリー  
携帯電話から ×、×、ラジオもってね。あと 夜釣り

スギダッタデショ、オレ。(B ン一) ンアー、サ、オレ、ヨズリスギデ オレ  
好きだったでしよ、俺。(B うん) ×××、×、俺、 夜釣り好きで 俺

スギノカミッツ ヨグユワレタンダ、{笑} (B スギノカミ) スギ、  
スキの神 [4] って よく言われたんだ、{笑} (B スキの神) ××、

スギナノコエテ スギノカミッツワレテンダダヤ。ホンデアノ チャントソノ  
好きなの超えて スキの神って言われていたんだよ。それであの ちゃんとその

センモンノ シキダシ、ホッチ ゼンブ ハイッテンダオン、(B エ一) アノ  
専門の 引出、 そっち 全部 入ってるんだよ、(B ええ) あの

東松島市 自由会話

フネノメンキョシヨモ、(B シー) ンダガラ ノコッタノ。コンド シキダシ  
船の免許証も、(B うん) だから 残ったの。今度 引出

アノ アゲダラサ コンドホラ、アドホラ へ、ランプ、(B シー)  
あの 開けたらさ 今度ほら、あとほら ×、ランプ、(B うん)

ヨズリニツカウッチャ (B シー シー) アダマノ。ヘッドランプ ミナ。  
夜釣りに使うでしょ (B うん うん) 頭の。ヘッドランプ みんな。

ンダカラ シート タスカッタンダ コンド。(B へー) ソノシキダシ  
だから とても 助かったんだ 今度。(B へえ) その引出

ヒドツ アゲダッケ、ヨ、ヨズリノモノ ミンナ ヘーッテルンダモノ。{笑}  
一つ 開けたら、×、夜釣りのもの みんな 入っているんだもの。{笑}

ホラ メンキョシヨ、フネノメンキョシヨダ、ンダガラ コレモ  
ほら 免許証、船の免許証ね、だから これも

ナガサンナカッタ。デ、アト カメラ。  
流されなかった。それで、あと カメラ。

014B : アン、アンナヌヨーイシテダノヌ、ナンニモモタネデ サットヌゲテ。{笑}  
×××、あんなに用意してたのに、何にも持たないで さっと逃げて。{笑}

015A : ンダ、デモ、マズ、アノ、クル、シエンニ キタシト、イッパイ  
うん、でも、まず、あの、××、支援に 来た人、いっぱい

キタゲッドナ、(B シー、ダネ) ガイコクカラモ ズイブン  
来たけどな、(B うん、そうだね) 外国からも たくさん

キタゲッド。ンデモ コゴノ ヒナンジョウ アガルイヨナ \_\_\_\_\_ダオナ。  
来たけど。それでも この 避難所は 明るいような \_\_\_\_\_だよね。

(B シー、ダネ、ナグナツタヒト) ソ。シー、ケツキョク アレワホレ  
(B うん、そうだね、亡くなった人) そう。うん、結局 あれはほれ

トクデワ ミウチナクナッテツケドモ、ソノ トナリキンジョ、ミジカデ  
遠くでは 身内亡くなっているけども、その 隣近所、 身近で

ナグナッタシト イナイガラ。(B ンダネ) ソ、ソノブン スグワレタノサ。  
亡くなった人 いないから。(B そうだね) ×、その分 救われたのさ。

(B ンーンンーン、ダヨネー) ンデネケレバ アンナサ ヨンカゲツ  
(B うんうんうん、そうだよね) そうでなければ あんなさ 4カ月

タイクカンニイテ、{笑}  
体育館にいて、 {笑}

016B : ナンノシギリモナグテ、{笑} シギリモナニモナクテ、(A ン) ネ、ネー。  
なんの仕切りもなくて、{笑} 仕切りも何もなくて、(A うん) ね、ねえ。

ホントニ モー。(A ン) アゲッピロナ  
本当に もう。(A うん) 開けっ広げな

017A : ミナ オープンニシテナー。  
みんな オープンにしてね。

018B : ン。ホシテ ミンナデ イッショニ (A カエッテ) ゴハンオ クッテ、  
うん。そうして みんなで 一緒に (A かえって) ご飯を 食べて、

(A ンデ、ンダヨナ、キョードーセーカズ) クッタリノンダリ。  
(A それで、そうだよね、共同生活) 食べたり飲んだり。

019A : サイゴマデ ノゴッタノ ナンニンダツケカ。  
最後まで 残ったのは 何人だっけ。

020B : キュ、ココニイルヒトダチダケ。(A キュ、ア、ソスト キューケン)  
××、ここにいる人たちだけ。(A ××、ア、そうすると 九軒)

キューケン、(A ア、キューセタイ) ン、(A アー) キューセタイ。  
九軒、(A あ、九世帯) うん、(A アア) 九世帯。

東松島市 自由会話

021A : ンデ ココワ ケッキョク サド [5] ノシト オーインダヨナ。  
それで ここは 結局 里[浜]の人 多いんだよね。

(B ン一、ダネ一) サド、 ムロハマ [5] イッケンガ。ナ一、アノ一

(B うん、そうだね) 里[浜]、室浜 一軒か。 ねえ、あの

(B ン一) X4 [6] イッケンダッチャ。 アト、ツキハマ [5]、

(B うん) X4 一軒だよ。 あと、月浜、

022B : アト、ツキハマガ (A X5 [6] サント) ニゲン、ニゲン。(A ア一)  
あと、月浜が (A X5 さんと) 二軒、二軒。(A ああ)

X6 [6] サン。

X6 さん。

023A : X6 ト。(B ン一) アト アンタエノ オンチャン。ナ、アノ X7 [6]。  
X6 と。(B うん) あと あなたの家の おじさん。 ねえ、あの X7。

024B : X7 サント (A ト) X8 [6] サン。

X7 さんと (A と) X8 さん。

025A : X8 サン。 ンダガラ ホーボーカラ アツマッテデナ。(B ン一、  
X8 さん。 そうだから 方々から 集まっていますね。(B うん、

ココワネ) ンデ サイショホラ オーハマ [5] クチョーサンッテ

ここはね) それで 最初ほら 大浜区長さんって

キテタヨネ、ココノカセツ。(B ン一 ン一) ンダカラ クチョーデネク  
来てたよね、ココの仮設。(B うん うん) そうだから 区長ではなく

ホラ、ミヤドショーガッコカセツヌ シテケロツツッテ。(B ン一)  
ほら、宮戸小学校仮設の[長を] してくれって言って。(B うん)

{笑} ンダガラ、 ンダガラ ニジューノ ダイヒョーニ

{笑} そうだから、 そうだから 二重の 代表に

ナッテルワケデスナ、(B ンー) オーハマクチョート ホラ、カセツノ。  
なってるわけですね、(B うん) 大浜区長と ほら、仮設の。

026 B : ア一、カセツノ。  
ああ、仮設の。

027 A : ア、サンジューカ、アト コミュニティーノナ。  
あ、三重か、 あと コミュニティーのね。

028 B : ン一、サンジューニモ ヨンジューニモ。  
うん、三重にも 四重にも。

029 A : ソレデ、コミュニティ、 サンジューダッテユンダ。 ンーダガラ アノ  
それで、コミュニティ、 三重だっというんだ。 そうだから あの

アノ ス、ココデ ホラ ホンブ タチアゲタドギサ、ア一 デンワモ  
あの ×、ここで ほら 本部 立ち上げたときさ、ああ 電話も

ツージネーベッチャ。  
通じないだろう。

030 B : ンダネ一。 (A ネ一 ジャー) ナニモ アンドギ。 ア一。  
そうだね。(A ねえ じゃあ) なにも あの時。 ああ。

031 A : ア一。 ホンートニ アレワ レンラクツカネアーツノワ ダイブナ。  
ああ。 本当に あれは 連絡つかないというのは だいぶね。

032 B : ガイブカラモ、 (A ン一 コナイシナ) ナンノ レンラグモナイシ。  
外部からも、 (A うん こないしな) 何の 連絡もないし。

033 A : デモアレ、アノ、イチバーンサイショ、ドコダツケヤ アイチケンダツケヤ、  
でもあれ、あの、一番最初、 どこだっけか 愛知県だっけか、

アレ ニッセキド ジエータイトキタドギ。  
あれ 日赤と 自衛隊と来た時。



034B : アー キタネ。

ああ 来たね。

035A : ヘリデナ。(B シー、シー) アン アンドギワ、アン アンドギワ  
ヘリでね。(B うん、うん) ×× あの時は、 ×× あの時は

ナニデ、キューゴハンデ キタンダッキャ。

何で、 救護班で 来たんだよね？

036B : キューゴハンデ キタンダヨネ。(A ンダヨナ、 グアイワルイ)  
救護班で 来たんだよね。(A そうだよね、具合悪い)

ヘリデ オッタンダカラ。

ヘリで 降りたんだから。

037A : グアイワル シ、シク シトオ ハコンデモラッタカラ。

具合悪い ×、×× 人を 運んでもらったから。

038B : ハゴンデモラツタリ、(A ンデ、ソ) シンサツオ ウゲタリネ。

運んでもらったり、(A それで、×) 診察を 受けたりね。

039A : ンダナ。(B シー) ンデ アノドギワ アノー、ミナ タッ、アノ  
そうだね。(B うん) それで あの時は あの、みんな ××、あの

キモチモ タスカッタノサ。トユーノワ (B シー) ホラ ミッカオキニ

気持ちも 助かったのさ。と言うのは (B うん) ほら 三日おきに

キテケルツタツチャ。 アノ、(B シー、センサーラーガネ) ンデ アノー  
来てくれると言ったよね。あの、(B うん、先生たちがね) それで あの

ホラ カグクカラ オンナノスタジ フタリズツガ アノ ホラ、

ほら 各区から 女の人たち 二人ずつが あの ほら、

イリョー テツダイ スルノ。(B アー、ソーソーソー) アンドギ ミンナ  
医療[を] 手伝い するの。(B ああ、そうそうそう) あの時 みんな

ズーット イッキニ オジテキテダッチャ [7]、イッカイデナー。カエツテ  
ずっと 一気に 降りてきていたんだよね、一回でね。 かえって

マチジカンデ ツカレテンノ。{笑} ナランデ ダメダガラ。  
待ち時間で 疲れてるの。 {笑} 並んで だめだから。

040B : ダガラ、(A ー) ズーイブン グアイワルイスタズモ  
だから、(A うん) ずいぶん 具合悪い人たちも

イルモンダナヤト (B ンダナ) オモッタヨネ。  
いるものだなと (B そうだね) 思ったよね。

041A : ソレ チガウノ。(B ー) コンマエ キータツケサ、 アトカラ  
それ 違うの。(B うん) この前 聞いたんだけど、あとから

ワカッタダゲッド、クスリ コンナニ モッテルワケサ。{笑} ホラ  
わかったんだけど、薬 こんなに 持ってるわけさ。{笑} ほら

ダケッド コイツ ナグナット シンパイダツツテナ、ラ。X9 [6] サンナンカ  
だけど これが 無くなると 心配だって言って、 X。X9 さんなんて

ココデ ハズカレテンダワ。{笑} コ、アー ダイジョーブデスカラ  
ここで はじかれてるんだ。{笑} X、ああ 大丈夫ですから

ミッカゴニ キマスカラ。ナンニジブンノ クスリ アルンダッテナ。  
三日後に 来ますから。何日分の 薬 あるんだってね。

(B ー) ンデ アントキモ ホラ アスコデ カルテ スク° ツクツテ、  
(B うん) それで あの時も ほら あそこで カルテ[を]すぐ作って、

(B ー) ンダカラ ミンナ ホレ ケズアズハカツタリ、テワケシタ。  
(B うん) そうだから みんな ほら 血圧計ったり、 手分けした。

オレナンカ ダイヒョーダカラ イッツモ サイゴダ、イーデスカ  
俺なんか 代表だから いつも 最後だ、いいですか

イマカ、アー ドーゾーナンテ。オレ ケズアズノクスリオ ノンダガラ。  
今か、 ああ どうぞなんて。 俺 血圧の薬を 飲んだから。

(B シー、ダネ) シー チャ、ミンナネー アノー

(B うん、そうだね) うん ××、みんなね あの

042B : デモ アンドギワ モー (A イリヨ、ン) ケズアズノクスリ ノムゴドモ  
でも あの時は もう (A ×××、×) 血圧の薬 飲むことも

ワスレデダワネ。 {笑} アンマリノ アレデ。

忘れてたわね。 {笑} あんまりの あれで。

043A : デモ ソノアドー ホラ アノ、ミヤド ゼンメツダッテ ホレ  
でも そのあと ほら あの、宮戸 全滅だって ほれ

ヘリトンデ (B シー) ユワレデ、アノ ゼンゼン ホラ モー

ヘリ飛んで (B うん) 言われて、あの 全然 ほら もう

レンラクツカネガッタ。アレ ヒロシマガ、アノ ゴエーカン、(B シー)  
連絡つかなかった。 あれ 広島か、 あの 護衛艦、 (B うん)

ニ、ニソーキタッタツチャ。クレートアシガラ [8] ダッキヤー (B アー  
×、二艘来ていたよね。 「くらま」と「あしがら」だっけな。(B ああ

ミズー) アードギワー オレ ホンブニイデ ホットシタド。ンダッテ  
水) あの時は 俺 本部にいて ほっとしたぞ。だッテ

(B シー) ナンデモ ミナ ユツテクダサイー ナンテナ。ンデ アノー

(B うん) なんでも みんな 言ってください なんてね。それで あの

ムセンー、グンカント チョ、ゴエーカンガ チョクセツ ツナイデクレテヤ。  
無線、 軍艦と ××、護衛艦が 直接 つないでくれてね。

ホレ、コレ ア アイズ ヨッガゴガ、アー アノ スグアトー モーフダノー、  
ほれ、これ × あいつ 四日後か、 ああ あの すぐあと[に]毛布だの、

(B キタネ) カンズメダノ ミズダノツテ。(B ナカ°クズモ キタネ)

(B 来たね) 缶詰だの 水だのツテ。(B 長靴も 来たね)

アー、イロンナノガ キタンダヨナ。(B シー、シー ヤッパリ) ヤッパ

ああ、いろんなのが 来たんだよね。(B うん、うん やっぱり) やっぱり

ウジノホーフ、ミ ホカサ アンマリ オッキク ユワネゲットモ。{笑}

うちの方は、× 他に あんまり 大きく 言わないけれど。{笑}

\_\_\_\_\_ (B リクガ) クル、ナ。

\_\_\_\_\_ (B 陸が) 来る、ね。

044B : シー。オガダメダラバ (A ンデ) {笑} ウミガラッテ。

うん。丘 [=陸が] だめならば (A それで) {笑} 海からって。

045A : ク、クローシネガッタゲットモ ホラ。コイズ アノ、

×、苦勞しなかったけども ほら。こいつ [奥さん] あの、

リョーリスルシトタチガ ツカレテ オライノオッカ、ホンダモ ホレ、アノ  
料理する人たちが 疲れて 私の家の女房、 そうだもの ほら、あの

オニギリ ヌク°ン、ナーニー ヨケーナゴトステ、スタツケ

おにぎり 握る、 何 余計なことをして、そうしたら

ツカレルダノ (B シー) ヘリデ ハンソーシテモラッタツチャー。

疲れるだの [となつて] (B うん) ヘリで 搬送してもらったんだよ。

ンデ コンド ドコサ イッダカ ワカンネーнда。{笑} ホラ

それで 今度 どこに 行ったか わからないんだ。{笑} ほら

レンラクトレネーガラ。{笑}

連絡取れないから。{笑}

046B : ヨゲーナゴドツテ ユーゲンド、ヤッパリ ヤンナゲネードオモツテネ、

余計な事って いうけれど、やっぱり やらなければならないと思つてね、

ミンナノ セワニバリ (A ソーソー) ナッテランナイガラ  
みんなの 世話にばかり (A そうそう) なってられないから

ヤンネゲネードオモッテ イッショーケンメーヤッタндаベツケドモ、  
やらなければならないと思って 一生懸命やったんだろうけども、

ヤッパリ アーユーバワイダガラ カラダガ オイツイテ  
やっぱり ああいう場合だから 体が 追いついて

イガネグナッタндаオンネ。  
いかなくなったんだろうね。

047A : ホイデ アノ、アレ ガッコーノ ナンツッタツケヤー、ヨーゴノセンセー、  
それで あの、あれ 学校の 何と言ったかな、 養護の先生、

X10 [9]、X10、ン、X10  
××、 ××、ン、X10

048B : X10センセー (A X10センセーツケヤ) ッテユッタカナ  
X10先生 (A X10先生かな) って言ったかな

049A : アノシト ホラ ヨーゴノ ナンダガ ナニガワ アンダケッドモ、 ミンナ  
あの人 ほら 養護の 何だか 何かは あるんだけど、みんな

カンゴフサント マチガッテサ、(B アー) カー センセーモ  
看護婦さんと 間違っさ、(B ああ) ×× 先生も

ツカレテンダワ コンダ。{笑} イヤイ、キョートーサンニ ユワレタンダ、  
疲れてるんだわ、今度。{笑} ×××、教頭さんに 言われたんだ、

キョートーセンセーニ。カイチョーサン、ア アノ カンゴフトマチガッテネ  
教頭先生に。 会長さん、 × あの 看護婦と間違っね

ナンダリカందリ (B ン) ユワレデスーナンテ。{笑} ケッキョク  
なんだりかందり (B うん) 言われるんですなんて。{笑} 結局

ホラ ミンナ チカ° ウンダッチャー。(B ンー) ホンダガラ ホラ  
ほら みんな 違うんだよね。(B うん) それだから ほら

オイシャサンサデモ イッテルヨーナカンカクデナ、{笑}  
お医者さんにでも 行ってるような感覚でね、 {笑}

ナニ イネーノカナンテ。カ、コマッテ、アノシトモ シトイーカラナー、  
なに いないのかなんて。×、困って、 あの人も 人がいいからね、

ンダガラ {笑} ホイ、ホイユーイミデワ {笑}  
そうだから {笑} そう、そういう意味では {笑}

050 B : オイ、オイシャサンニ イッテルカンカク。{笑} イシャダネード  
××、お医者さんに 行ってる感覚。 {笑} 医者じゃないぞ

(A ンー) {笑} ッテユエバヨカッタ。 {笑}

(A うん) {笑} って言えばよかった。 {笑}

宮城県東松島市方言会話集（自由会話）注記

〔1〕 X1・X2

Aの親族。

〔2〕 ガンガグ

話者によると、「散らかったものをまとめる/集める/片づける」などの意。

例) 風が強いので、船をガンガグする。

岩手県、宮城県、山形県などで「手入れをして用意すること。準備。工面。」などといった意味で使用される（『日本方言大辞典』小学館）。

〔3〕 X3

Aの知り合い。

〔4〕 スキの神

話者によると、「度を越して何かを好きな人のこと」を指すという。

〔5〕 サド・ムロハマ・ツキハマ・オーハマ

宮戸にある集落（区）の名称。

〔6〕 X4・X5・X6・X7・X8・X9

宮戸小学校（仮設）に避難した方々。

〔7〕 オジテキテダッチャ

避難者が区ごとに階を分けて避難していたところ、診察のためにみなが一度に降りてきたということ。

〔8〕 クレートアシガラ

海上自衛隊の護衛艦の名前。「くらま」と「あしがら」。前者は「クレー」と発音されているが、話者への聞き直しを行った際には「くらま」と認識していた。その所属地である「呉」を誤って言っている可能性もある。

〔9〕 X10

宮戸小学校の養護の先生。

**宮城県東松島市方言会話集（自由会話）担当者**

**収録担当者** 津田 智史（東北大学大学院文学研究科博士後期課程 3 年）  
小原雄次郎（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 2 年）  
林 芸 漆（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1 年）

**文字化担当者** 津田 智史（東北大学大学院文学研究科博士後期課程 3 年）



**被災地方言会話集**  
**－ 宮城県東松島市 －**  
**<場面設定会話>**

**場面設定会話の概要**

収録地点 宮城県東松島市宮戸

収録日時 2012（平成 24）年 7 月 14 日

収録場所 宮城県東松島市宮戸字二ツ橋 宮戸小学校仮設住宅

話題 **【場面設定会話】**  
全 13 場面

話者

|   |   |              |            |         |
|---|---|--------------|------------|---------|
| A | 男 | 1934（昭和 9）年  | （収録時 78 歳） | [B の親戚] |
| B | 女 | 1949（昭和 24）年 | （収録時 63 歳） | [A の親戚] |

話者出身地

|   |                       |
|---|-----------------------|
| A | 東松島市宮戸 ※10 歳まで神奈川県横浜市 |
| B | 東松島市宮戸                |

【場面設定会話】

話し手

A 男 1934 (昭和 9) 年 (収録時 78 歳)

B 女 1949 (昭和 24) 年 (収録時 63 歳)

〈 あいさつ 〉

(1) 朝、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : アー Bチャン ナン オハヨー。ドコサ イグノ。ン。

ああ Bちゃん ×× おはよう。どこに 行くの？ん。

002B : アラ オンツァ、ハエーゴダ ナンダヤ。キョーワネヤ、アワビトリ

あら おじさん、早いこと まあ。今日はね、 あわびとり[を]

ヤッカラ ウミ ナンジョナ モンダカナードオモッテ

やるから 海[が]どんな ものだかなと思って

メッサチタンダケッドモ。

見に来たんだけどね。

003A : アー。

あー。

(2) 昼、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : オー ズンツァン ナニスッタ。 [1]

おお [Bの家の]じいさん[は] 何しているの？

002B : ア キョーネ デガゲダヨ。フロサ イグッテ イッタネ。

あ 今日ね 出かけたよ。風呂に 行くって 行ったね。

003A : アー {笑} ダレト イッタン。

ああ {笑} 誰と 行ったの？

004 B : バーチャント イッダ。  
ばあちやんと 行った。

005 A : バーチャント イッダ。 アー イーヨナ。ナカイーガラナ。  
ばあちやんと 行ったの? ああ いいよね。仲良いからね。

006 B : ンー。  
うん。

(3) 夜、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001 B : オバンデスー。ナンジョダベ、コンバン。 {笑} チョッコラ ホゴマデ  
こんばんは。 いかがですか、今晚。 {笑} ちょっと そこまで

イガネスカ。 {笑}  
[飲みに]行かないですか? {笑}

002 A : ナーン アガレヤ イーガラ。 オライサ アガレヤ。 [2] ナ。 {笑}  
なに あがれよ いいから。 私の家に あがれよ。 ねえ。 {笑}

003 B : ンデ チョッコラ アガツカワ。  
それでは ちょっと あがるかね。

< ねぎらい >

(4) Bが仕事に精を出すAと会い、Aの労をねぎらう際にどのようなやりとりを行うか。

001 B : アーラ オンツァーン、(A アア) ウエギノ テイレシデダノー。  
あら おじさん、(A ああ?) 植木の 手入れしてたの?

002 A : アー ンダ。 スコシ ノビデヤ、ホツツノ チューシャジョーノサ エダッコ  
ああ そうだ。少し 伸びて、 そっちの 駐車の場に 枝[が]

デデキタカラ ハサンデアンダ。  
出てきたから 切っていたんだ。

003B : アー ズイブン タゲクナツタンダモン、 マダ。 ダイジョーブガヤ。  
ああ ずいぶん [木が]高くなつたんだね、また。 大丈夫かい。

(A アー) アツツイカラ キオツケテヤンネート ダメダナヤ。

(A ああ) 暑いから 気をつけてやらないと 駄目だね。

004A : ハーイ ドーモ アリガトー。  
はい どうも ありがとう。

〈 勧め 〉

(5) Bが、仕事をしているAに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり。

001B : マダ イップクヌ ズカン ナンネスカ。 スコス イップクステ  
まだ 一服の 時間[に]ならないですか。少し 一服して

オチャデモ ノンダラワー。

お茶でも 飲んだら[どう]？

002A : ハイ ドーモアリカトー。イマ アノ ヤスンベト オモッテアンダ。  
はい どうも有り難う。 今 あの 休もうと 思っていたんだ。

003B : アー ンデ チョード イガッタネ。  
ああ それでは ちょうど よかったね。

004A : アー タイミング イガッタ。 {笑}  
ああ タイミング よかった。 {笑}

〈 訪問時の声掛け 〉 [3]

(6) 昼間、AがB宅を訪れるときにどのように声をかけるか。また、返事をするか。

001A : Bチャン、イマ コイズ アノ モライモンダゲッド、スコスバリ  
Bさん、 今 こいつ あの もらった物だけど、 少しばかり

モッテキタンダケッドモ カネッスカ。

持ってきたんだけど 食べませんか。

002B : ウン。クー クー クー。 {笑} イッツモ ワルイネー、  
うん。食べる 食べる 食べる。 {笑} いつも 悪いね、

アリガトゴザイマース。  
ありがとうございます。

003A : ア ダッテ オライデモ イッツモ アノ ウメ ノリバ  
あ だって 私の家でも いつも あの うまい海苔を

カシラッテルモノ。 {笑} スコスバリデ オシヨスギットモ ドーズ。  
食べさせてもらっているもの。 {笑} 少しだけで 恥ずかしいけれど どうぞ。

004B : ハイ ドーモ、ンデ モラットグカラ。  
はい どうも、それでは 貰っとくから。

005A : ハーイ。  
はい。

〈 借用の依頼と受託 〉

(7) AがBに車(トラック)を借りるときのやりとり。(Bが貸す場合)

001A : アー Bチャン チョット クルマ カサネカヤ。  
ああ Bちゃん ちょっと 車 貸してくれないか?

002B : クルマ  
車?

003A : アン トラック カサネカヤ。  
うん トラック 貸してくれないか?

004B : ア ドコサ イク<sup>o</sup>ノ。  
× どこに 行くの?

005A : アー インマ ホラ、ワカメ ツッタナ スコシネ、Xさん  
あ 今 ほら、わかめ 採ったの[を]少しね、 Xさん[に]

モツテクベト オモツテ。  
持っていこうと 思って。

006B : アー ンー ンデ ヌツテガイン。  
ああ うん それでは 乗って行って下さい。

007A : ンデ ワルイッド カリテンガラ。  
じゃあ 悪いけど 借りていくから。

008B : ンデ チーツケテイッテゴザイン。  
じゃあ 気 [を]つけて行って下さい。

009A : アーイ ドモ アリガト。 ンデヤ。  
はい どうも ありがとう。それじゃあ。

〈 お礼 〉

(8) Aが借りた車をBに返しに行ったときのやりとり。

001A : アーイ ドーモ オカゲサンデ イッテキマシタ。  
はい どうも お蔭様で 行って来ました。

002B : {笑} ンデ イガッタネー。  
{笑} それでは よかったね。

003A : ハーイ ドーモ。  
はい どうも。

004B : ハーイ。  
はい。

005A : オセワサマ。  
お世話様。

〈 破損の謝罪・許容・不満 〉

(9) AがBに借りた車を壊してしまい、謝るときのやりとり。

(9-1) Bが構わないという場合。

001A : マフラー フツチャケテヤー、モーター オトステナ {笑}

マフラー 壊れちゃって、 もう 音がしてね {笑}

トメラッタンダ。アノ テラントコデ。 {笑}

止められたんだ。あの 手樽 [4] のところで。 {笑}

002B : フルイガラ、アノ アイズ スオモノバリ ツンデッカラ オズンノ

古いから、 あの あいつ 塩ものばかり つんでいるから 落ちるの[は]

アタリメダベ、 マフラ オズンノモ。

あたり前でしょう、マフラー[が]落ちるのも。

(9-2) Bが破損に対して不満を述べる場合。

なし [5]

〈 誘いと断り 〉

(10) BがAを物産市に誘う際のやりとり。

001B : オンチャーン。コゴノモノネ、 ウル ブッサンイチツーン

おじさん。 このもの[を]ね、売る 物産市というの[を]

ヒラクンダトシャイ、イッテミネッスカ。

開くのだってさ、 行ってみないですか？

002A : アー キョ キョー チョット ツゴー ワルインダワヤー。 ビズデ

ああ ×× 今日[は] ちょっと 都合[が] 悪いんだよね。 別で

イカニヤイケネトコ アンダ。 ア アトデ ハナシ キカシテキライン。

行かないといけないところ[が]あるんだ。× 後で 話[を] 聞かせて下さい。

003B : アー ンデ オラバリ イッテクツカワ。

ああ じゃあ 私だけ 行ってくるかな。

004A : ンー タノムー。 ンデ。  
うん 頼む。 それじゃ。

005B : ハーイ。  
はーい。

〈 お見舞い 〉

(11) 体調を崩しているAに、Bが体の調子を尋ねる際のやりとり。

(11-1) Aの調子がいい場合。

001B : オンチャーン、コシ イデッテ ユッテラッケ ナンジョナノ。  
おじさん、 腰[が] 痛いって 言っていたけど どうなの？

002A : ヤ コノアイダ ミテモラッテ アノ テンテキシテモラッテ  
いやね この間 みてもらって あの 点滴してもらって

イッカイデ ナオッタ。  
一回で 治った。

003B : ンデワ イガッタネー。  
それでは よかったね。

004A : ンー。  
うん。

(11-2) Aの調子が悪い場合。

001B : ホシテワー (A ンアー) ヒジャカブノホーワ、ヒジャカブモ  
それじゃあ (A うん) 膝頭の方は、 膝頭も

イデッテ ユッテタッタダネーノ。ナンジュ ナンジョナノガヤ。  
痛いって 言ってたんじゃないの？ どう どうなのかな？

002A : コナイダ ナーン ウマレテ ハズメテ バースノ ホジョセキサ  
この間 ××× 生まれて 初めて バスの 補助席に



東松島市 場面設定会話

エンキョリ ヌッシェラッテサ。 {笑} アーン シザ イダイト  
遠距離 乗せられてさ。 {笑} ××× 膝[が]痛い

カラダジュー イテーンダイワ。 アージミエダッテ。 イマカラワ  
体中 痛いんだよ。 初めてだって。 今からは

イガネワツツンダ、 ホイナドゴサ。 {笑} トッシヨリモノバ ホジョセキサ  
行かないわって言うんだ、そういう所に。 {笑} 年よりを 補助席に

ヌセテナヤ、アー オレ コイナヤズ ハジメテ ヌッタツツタケド  
乗せて、 ×× 俺 このようなものに 初めて 乗ったと言ったけど

ダーレモ カワルシト イネガッタ。  
誰も 替わる人 いなかった。

〈 申し出 〉

(12) 体の調子が悪く、家の片付けもできないというAに、Bが「(私が) 片付けてやろう」というときのやりとり。

001A : ナーニ Bチャン カジギミデヤ、 (B ーン) タツタリネマッタリスンノ [6]  
何だ Bちゃん 風邪気味でね、 (B うん) 立ったり座ったりするの

シンデーンダー。 ワルイギッドモ ココンニ アンノ チョット  
つらいんだ。 悪いけれども ここに あるもの ちょっと

トツテケネーカヤ。  
取ってくれないかね。

002B : アラララララ カジシータノ。 ンデ シンディナー (A ーン) フスブス  
あららららら 風邪引いたの? じゃあ つらいなー。 (A うん) 節々[が]

イテーンダベッチャ。  
痛いんだろうね。

003A : ンダ ドコツチューー カラダジュー イデーンダ。  
そうだ どこというか 体中[が] 痛いんだ。

004B : シー ンデ コイズ トレバ イーノガ。  
うん それで これ 取れば いいのか？

005A : ハイ。  
はい。

006B : シンデ ホラ アト ナヌスレバイーノ。  
それで ほら あと 何すればいいの？

007A : シ ア イ イーカラ、マズ ホンデ スコス ユックリヤスンデツカラ。  
うん あ × いいから、まず それで 少し ゆっくり休んでいるから。

008B : シー ンデ ユックリ ヤスマイン。(A ハイ) シンデ アト ナヌガ アットキ  
それじゃ ゆっくり 休みなさい。(A はい) じゃ、あと 何か ある時

(A ハイ) コエ カケテケライン。

(A はい) 声 かけて下さい。

009A : ハイ ハイ アリガトー。  
はい はい ありがとう。

〈 禁止 〉

(13) 片付けの最中に、大事な写真をBが間違っ捨てようとしているときに、Aがそれを  
制止してどのようにいうか。

(13-1) AがBを制止する場面。

001B : イマサ カタズケッタツケ コンナ フグロ イッペー アンダゲントモ  
今ね 片付けていたら こんな 袋[が] たくさん あるのだけれど

イラネベワ。 ナケ° デヤットワ。

いらぬいよね。捨ててやるよ。

002A : オイ チョサネーデケロ。ミナ ジュンジョデ ドーユーノアツカ  
おい 触らないでくれ。全部 順序で どういうのがあるのか

アイダサ ハサンデンノモ アッカラ ホイズ チョサネーデケロ。  
間に 挟んでいる物も あるから それ 触らないでくれ。

(13-2) AがBの大事な植木を捨てそうになった場面。

001B : オンチャン オンチャン、ホイズ ミズサ イレット イギゲッカラヤー、  
おじさん おじさん、 それ[=植木]水に 入れると 生き返るからねー、

マダ ナゲネデケロ。 トットイテケロ。  
まだ 捨てないでくれ。取っておいてくれ。

宮城県東松島市方言会話集（場面設定会話）注記

- 〔1〕 ズンツァン ナニスツタ。  
ズンツァンはAの兄のこと（Bは、Aの兄の息子の嫁）。コンニチワなどといった言葉はかけず、すぐに会話に入る。
- 〔2〕 オライサ アガレヤ。  
「（自分の家で）一緒に飲もう」ということ。
- 〔3〕 訪問時の声掛け  
話者によると親しい間柄では、訪問時にも「こんにちは」や「いるか」といったことばはかけず、直接用件を述べるとのこと。
- 〔4〕 手樽  
宮城県松島町の地名。
- 〔5〕 なし  
話者によれば、このような場合に不満を述べることはないと言う。そのため、この場面は収録を行わなかった。
- 〔6〕 ネマル  
宮城県栗原・牡鹿などでは「座る」の意、仙台などでは「寝る」の意を表す。

**宮城県東松島市方言会話集（場面設定会話）担当者**

**収録担当者**      津田 智史（東北大学大学院文学研究科博士後期課程 3年）  
                         小原雄次郎（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 2年）  
                         林 芸   漆（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1年）

**文字化担当者**    津田 智史（東北大学大学院文学研究科博士後期課程 3年）  
                         林 芸   漆（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1年）

## 【 宮城県東松島市の方言概観 】

ここでは、今回の会話集に現れた特徴を中心に、伝統的な東松島市方言の音声や文法を概観していきます。

### Ⅰ 音 声

#### ▼カ・タ行の有声化

語中・語尾にあるカ・タ行の音が有声化し、ガ・ダ行になる。

⇨これは平たく言えば、単語の頭以外にあるカ・タ行の音が濁音のガ・ダ行になることです（専門的に言えば、（有声）母音に挟まれた無声子音 /k/ /t/ が有声子音 /g/ /d/ になること）。単語の頭にあるカ・タ行は普通は有声化しません（下の例で言えば柿は「ガギ」にはなりません）。

例) カ行→ガ行 (/k/→/g/) : 開ける → アゲル、柿 → カギ  
タ行→ダ行 (/t/→/d/) : 旗 → ハダ、 的 → マド

このような発音は、東松島市では頻繁に聞かれます。今回の会話集でも、話者たちは「ウエギ」（植木）、「ホイナドゴ」（そういう所）、「ケズアズ」（血压）などが聞かれました。

#### ▼ガ・ダ・ザ・バ行の鼻音化

語中・語尾にあるガ・ダ・ザ・バ行の音が鼻音化する。

⇨単語の頭以外にあるカ行がガ行になることによって、「開ける」はアゲルになってしまい、「上げる」と混同しそうですが、「上げる」のほうはゲが鼻にかかった音（鼻濁音とも言い、この現象を鼻音化と言います。ここでは「ケ°」のように半濁点で表記します）のアケ°ルとなり、

「開ける」＝アゲル

「上げる」＝アケ°ル

で両者の混同は起こりません。同様にダ・ザ・バ行も鼻音化します（ここでは「ンダ・ンゼ・ンビ」のように上付きのンで表記します）が、これらは衰微が著しく、高年層からも聞かれないことがあります。

- 例) ガ行：上げる → アケ° ル  
ダ行：肌 → ハンダ  
ザ行：風 → カンゼ  
バ行：首 → クンビ

ガ行の鼻音化は例えば、「ドーモアリカ° トー」（どうもありがとう）、「ナケ° デヤットワ」（捨ててやるよ）のように、今回の会話集でも頻繁に聞かれます。ただし、必ずしも鼻音に聞こえない、もしくは鼻音が弱いものも聞かれ、「ニゲル」（逃げる）など、今回は「ガ」と表記しているものもあります。

ダ・ザ・バ行の鼻音化は、上のあるように衰退しているのか、今回の東松島市の話者たちからはほとんど聞かれませんでした。

#### ▼シとス、ジとズ、チとツなどの中舌化

イ段音とウ段音が近い音となる。

☞イの音がウの音に近づく現象（またはその逆も）を「中舌化」（ちゅうぜつか、なかじたか）と言いますが、宮城ではイ段音とウ段音でこの中舌化が起き、ニとヌ、ミとム、リとルなどが互いに近い音になります\*。これらは一応の区別がありますが、シとスに関しては両方とも「ス」、ジとズは両方とも「ズ」、チとツは両方とも「ツ」と発音され、これらは区別がありません。

- 例) 獅子（しし）、煤（すす）、寿司（すし） → すべてスス  
知事（ちじ）、地図（ちず）、辻（つじ） → すべてツズ

※ただし、母音単独のイだけはエに統合されます（後述）。

今回の会話集の話者たちからも、「ズカン」（時間）、「スオモノバリ」（塩ものばかり）、「スコス」（少し）、「オズンノモ」（落ちるのも）などが聞かれました。

#### ▼シュ、ジュ、チュの直音化

シュが「ス」、ジュが「ズ」、チュが「ツ」と発音される。

☞これに上記の中舌化も合わせると、シ・ス・シュがすべて「ス」、ジ・ズ・ジュがすべて「ズ」、チ・ツ・チュがすべて「ツ」という発音となります。

- 例) 爺さん（じいさん）、十三（じゅうさん） → 両方ともズーサン  
手術（しゅじゅつ） → スズツ

注射（ちゅうしゃ） → ツーシャ

東松島市でも、昔はこのような発音が聞かれたと思われます。ただし、今回の会話集ではほとんど聞かれず、「ニジュー」（二重）など「ジュ」と発音されていました。

#### ▼キ（キャ行）の口蓋化

キが「チ」に近く発音される。また、キャ、キュ、キョも「チャ、チュ、チョ」と似たように発音される。

☞一般的にはこれは「口蓋化」の一種と見られています。口蓋化とは舌の前の部分が上あご（硬口蓋）に接近する現象を言います。キがキとシの中間のような音になるという、似た現象は東北一般で見られますが、宮城では極端な口蓋化が起こってチに近くなります。

例) 機械（きかい） → チカイ  
救急車（きゅうきゅうしゃ） → チューチューシャ  
今日（きょう） → チョー

このような発音は東松島市では、現在も頻繁に聞かれます。「メッサチタンダケッドモ」（見に来ただけれど）、「チーツケテイッテゴザイン」（気を付けて行ってください）などの例が今回の会話集にもみられます。

#### ▼その他、以下のような特徴もあります。

- ・母音単独のイとエの区別がなく、エに統合されている。

例) 息（いき）、駅（えき） → 両方ともエギ  
鯉（こい）、声（こえ） → 両方ともコエ

- ・アイ・アエという母音の連続（連母音）は融合して[ɛ:]（共通語のエー[e:]よりも口を開いて発音する）と発音される。

「レンラクツカネアーツノワ」（連絡つかないというのは）のような例が今回の会話集にみられました。



- ・ヒの音がシに近い音となる。

今回の会話集では、「シキダシ」（引出）のような例がみられます。

- ・「食べる」にあたる「クー」を使用する。これは、いろいろな形で使用される際、「カ」（もしくは「クワ」）のように発音されることがある。

今回の会話集では、「カネッスカ」（食べませんか）、「カシラッテルモノ」（食べさせてもらっているもの）などといったようなものが聞かれます。

## ¶ アクセント

東松島市はアクセントの型を持つ有型アクセント地域である。

☞例えば「箸」と「橋」を声に出したときに、有型アクセントの地域ではハとシの音の高低が決まっています（＝型がある）、それによって単語の区別がつかます。

## ¶ 文法

### 【格助詞】

#### ▼共通語の「が」、「を」にあたる格の格表示

共通語の「が」格、「を」格が無助詞で表示されることが多い。

☞共通語の「が」のような主格を表す助詞や、「を」のような目的格を表す助詞が用いられず、以下のように無助詞で表示されることが多いです。

例) 主格 : 俺 行く (俺が行く)  
目的格 : 酒 飲む (酒を飲む)

今回の会話集にもみられる「アワビトリ ヤッカラ、ウミ ナンジョナ モンダカ ナードオモッテ」(あわびとりをやるから、海がどんなものだかなと思って)のように、東松島市では「が」や「を」といったものが用いられないことが多くあります。

☞また、共通語の「を」相当のものとしては「バ」が用いられることもあります。

例) 酒バ飲む (酒を飲む)

今回の会話集では、「ウメ ノリバ カシラッテルモノ」(うまい海苔を食べさせてもらっているもの) のような例が聞かれました。

### ▼「サ」

「へ」「に」に当たる格助詞に「サ」がある。

☞「サ」は共通語の「へ」よりも意味が広く、「に」に重なるところが多いですが、存在の場所を表す「ここサある」は言えないなど、その用法は「に」とは若干の違いがあります(ただし、若年層では存在の場所を表す「サ」も使えるという報告もあります)。

例) 東京サ行く

おれサ貸せ

見サ行く

今回の会話種の話者たちは、「ドコサ イグノ」(どこに行くの)、「クルマサ ツンデアンダオン」(車に積んであるのだよ) というように、頻繁に使用していることがわかります。

### 【助動詞】

#### ▼「べ」

共通語の「～だろう」(推量) や「～しよう」(意志) に相当する助動詞に「べ」がある。

☞「べ」は<推量><意志>のほかにも<確認><勧誘>などがあり、その用法は多岐にわたります。また、「取る、起きる、来る」など「る」で終わる動詞に接続するときは「る」が「ッ」となる促音便が生じ、それぞれ「トッペ、オギッペ、クッペ」のようになります。

例) 明日、雨だべ (明日雨だろう)

<推量>

明日は早く起きッペ (明日は早く起きよう)

<意志>

お祭り、お前も行くべ? (お祭り、お前も行くだろう?)

<確認>

みんなでがんばッペ (みんなでがんばろう)

<勧誘>

今回の会話集では、「デンワモ ツージネーベッチャ」(電話も通じないだろう)、

「ヤスンベト オモッテアング」(休もうと思っていたんだ)、「ナンジョダベ、コンバン」(どうですか、今晚)などが聞かれました。

### ▼「タ」「タッタ」

「タ」は共通語の過去・完了の助動詞「た」よりも用法が広く、現在目の前にあることの確認などにも使われる。

例) (私は今、) 学校にいる → 学校にイタ  
(私は今、) 手紙を書いてる → 手紙をカイテタ

この「カイテタ」は「カイツタ」と発音されることもありますが、つまる音が入ることにより、「カイタ」と区別されます。今回の会話集には、「ナヌスッタ」(何をしているの)のような例がみられます。このような区別は、宮城県沿岸部では東松島市より南側の地域で見られるようです。

また、「タッタ」は過去の思い出など、現在と切り離された過去で用いられる。

☞「タッタ」は、「タ」と比べて過去の出来事が発話時に存在する場合には使われにくく(この場合は「タ」が用いられます)、過去の出来事が発話時に存在しない場合に使われやすくなります。これを上記では「現在と切り離された過去」と表現しました。

以下の例で説明すると、①は昨日もらった桃が今もあるときの発言であり、これは過去の出来事が発話時に存在すると読みとることができます。このような場面では「タ」が使われます。②は昨日もらった桃が今はもうないという状況であり、これは過去の出来事が発話時に存在しないと捉えられます。このとき、「タッタ」が用いられます。

例) ①きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタ。あんたも食べる？

②きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタッタ。

あんたが来るなら少し残しておけばよかったなあ。

<例文は竹田(2011)より引用>

今回の会話集では、「ゴエーカン、ニソーキタッタッチャ」(護衛艦が、二艘来ていたよね)などの例が聞かれます。これは、「現在はいないけれど」という意味合いが含まれています。また、「ヒジャカブモ イデッテ ユッテタッタングネーノ」(膝頭も痛いと言っていたんじゃないの)という例も聞かれます。これは、「膝頭が痛い」のは過去に聞いたことであり、現在も「膝頭が痛い」かどうかは問いかける側にはわからないことなので「タッタ」の形が使用されているものと思われます。

### ▼終助詞「チャ」

強調、当然、働きかけの意味を表す「チャ」が用いられる。

☞具体的には、相手が知っているはずの事柄を示し確認させるなどの機能があり、共通語の「でしょ」「じゃない(か)」「よね」などのような意味を持ちます。

例) A1: ニショッコ(二燭光) って5ワットぐらいか。

B1: 60ワットぐらいだッチャ。(60ワットぐらいでしょ。)

A2: え、そんなに光らないッチャ。(え、そんなに光らないでしょ。)

東松島市の話者たちは、今回の会話集にみられる「ジシン ンダガーット キタッチャ」(地震がダガーってきたよね)、「ヘリデ ハンソーシテモラッタチャー」(ヘリで搬送してもらったんだよ)などのように、頻繁に使用しています。

### ★その他、以下のような特徴もあります。

・逆接既定条件(共通語の「けれども」)は東松島市では「ゲットモ」が用いられやすい。  
順接既定条件(共通語の「から」)は「ガラ」が用いられる。

・待遇表現は「ス」「(デ) ガス」「(デ) ゴザリス」「イ(ン)」などが用いられる。

例) 取りス(取ります)

んデガス(そうです)

おはよゴザリス(おはようございます)

お茶でも飲まイン(お茶でも飲みなさい)

### 【参考文献】

加藤正信(1969)「東北方言概論」『言語生活』210

加藤正信(1992)「宮城県方言」平山輝男・大島一郎・大野眞男・久野眞・久野マリ子・杉村孝夫編『現代日本語方言大辞典 第1巻』明治書院

佐藤亨(1982)「宮城県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会

竹田晃子(2011)「テンス形式および文末の「ケ」の用法」小林隆編『宮城県・山形県陸羽東線沿岸地域方言の研究』東北大学国語学研究室

東北大学方言研究センター(2012)『方言を救う、方言で救うー3.11被災地からの提言ー』ひつじ書房